

学 生 要 覧

東京電機大学大学院工学研究科

2015 修士課程

TOKYO DENKI UNIVERSITY
Graduate School of Engineering
Master's Program

2015(平成27)年度 授業日程(工学研究科)

前期 授業日程

	日	月	火	水	木	金	土	予定
4月				1	2	3	4	2 入学式 3 オリエンテーション 6 授業開始
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
5月						1	2	3 憲法記念日 4 みどりの日 5 こどもの日 6 憲法記念日の振替休日
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
6月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30					
7月				1	2	3	4	20 海の日【授業実施日】
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		
8月						1		1~9/9 夏季休業*
	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						

後期 授業日程

	日	月	火	水	木	金	土	予定
9月			1	2	3	4	5	10 授業開始(休校日(4/29分)) 11 創立記念日 12 休校日(7/20分) 21 敬老の日 22 国民の休日 23 秋分の日
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30				
10月					1	2	3	12 体育の日【授業実施日】 28 休校日(10/12分) 29 休校日(11/23分) 30~31 旭祭(学園祭)による休講
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
11月	1	2	3	4	5	6	7	31~1 旭祭(学園祭) 2 休校日(12/23分) 3 文化の日 23 勤労感謝の日【授業実施日】
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						
12月			1	2	3	4	5	23 天皇誕生日【授業実施日】 26 年内授業終了日 冬季休業*
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			
2016 1月					1	2		1 元日 8 授業再開 11 成人の日 15~17 大学入試センター試験2号館立入禁止 18~20 【修士論文予稿受付期間】 28 月曜日授業⑮ 30 修士論文締切(審査用)
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
	31							
2月		1	2	3	4	5	6	1~ 春季休業* 1~8 【修士論文試験期間】 11 建国記念日 13 【修士論文及び研究成果発表会(研究科合同)】 29 【修士論文最終締切(保存用)】
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29						
3月			1	2	3	4	5	2 修了発表 17 修了式 20 春分の日 21 春分の日振替休日
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31			

カレンダーの見方



授業を行わない日



授業を行う日(祝日・休日などでも授業を行う)

① など 各曜日ごとの授業回数

※ 長期休業期間(*印)は、集中講義・補講などを実施する場合があります。

※ 予定のため変更の可能性があります。変更の場合は事前に掲示にて周知します。

※ 休校日は2号館教室は原則として利用できません。

※ 【】内は参考として平成27年度修了年次生の予定を掲載しています。

UNIVERSITY CATALOG

学生要覧 2015 大学院編

【(公財)大学基準協会による認証評価(大学評価)の受審について】

認証評価制度は、2002(平成14)年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間(7年以内)ごとに文部科学大臣の認証を受けた者(認証評価機関)による評価(認証評価)を受審することとなり、2004(平成16)年に導入されました。

本学は、2009(平成21)年度に(公財)大学基準協会(認証評価機関)において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定(認証期間:2010(平成22)年4月1日～2017(平成29)年3月31日)されました。

また、2013(平成25)年には、本学の教育・研究の現状について、産業界を含む外部学識者委員による客観的な視点による「外部評価」を受審し、好評価を得られました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組めます。

東京電機大学大学院 工学研究科

学生要覧 目次

第1章 新入生の皆さんへ

大学院への期待（学長 古田勝久）	2
工学研究科で学ぶ皆さんへ（工学研究科委員長 加藤政一）	3

第2章 学修案内

工学研究科の教育	
東京電機大学大学院	8
工学研究科	10
各専攻の目的、方針、授業科目配当表及び研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ	
電気電子工学専攻	13
物質工学専攻	25
機械工学専攻	31
情報通信工学専攻	45

第3章 履修案内

1 皆さんの情報伝達・連絡の方法	52
2 履修登録	53
3 履修することができる授業科目	53
4 他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い	54
5 3年制社会人コースの履修	54
6 昼夜開講制の実施	55
7 授業	55
8 シラバス（講義要目）	57
9 学力考査及び成績評価	57
10 研究指導実施体制	58
11 修了要件	59
12 学位	59
13 修士論文の取扱い	60
14 教育職員免許状	62
15 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学	63
16 留学・海外語学研修	63
17 連携大学院協定研究所	65
18 履修証明プログラム	66
【学生ポータルサイト「DENDA I-UN I PA」操作マニュアル】	67

第4章 生活案内

1 事務取扱事項と取扱時間	103
2 主な書類の提出先と証明書の申込先	104
3 正課授業による閉館時間中の施設利用	106
4 大学院研究費による補助取扱い	106
5 学籍	107
6 学生証	109
7 学費	111
8 奨学金制度	112
9 副手制度	115
10 健康管理	116
11 保険制度	118
12 教育訓練給付制度	120
13 校友会	121
【STOP! HARASSMENT】	123

第5章 各種施設の利用

1 総合メディアセンター	128
--------------------	-----

第6章 学則および諸規程

1 東京電機大学大学院学則	138
2 東京電機大学大学院工学研究科規則	147
3 東京電機大学学位規程	150
4 学生生活についての規程	153
5 東京電機大学学生救済奨学金貸与規程	156
6 東京電機大学学生支援奨学金貸与規程	158
7 東京電機大学大学院奨学金貸与規程	159

第7章 沿革

1 沿革	162
------------	-----

第8章 大学校歌・学生歌

1 東京電機大学校歌	168
2 東京電機大学学生歌	169

第9章 キャンパス案内

東京千住キャンパス案内	173
東京千住キャンパス配置図	174
東京千住キャンパスフロア配置図	175

T D U プライバシーポリシー

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集

個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。

2. 個人情報の利用

個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。

3. 個人情報の提供

個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。

4. 個人情報の管理

個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。

5. 個人情報に関する請求への対応

個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。

6. 個人情報保護の推進等

個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

個人情報の取り扱い

入学時および在学中を通じて収集した個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」および「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

- (1) 入学式、卒業式など、本学が主催する行事のため。
- (2) 正課授業および正課外活動のため。
- (3) 学籍（進級・休学・退学・除籍）管理、学生証発行、履修関連業務、試験の実施、成績処理、学位（申請・審査・授与）、奨学金業務（申請・受給）、各種証明書発行など、本学における教育・研究活動のため。
- (4) 学生の健康管理、大学祭等の学内行事、クラブその他学生組織の指導・連絡などの学生指導を行うため。
- (5) 学生に対するキャリア・就職支援業務、インターンシップ支援業務、各種施設利用など、本学組織や本学施設の運営業務を行うため。
- (6) 教育・研究のために業務上必要な書類の郵送（成績通知書の送付を含む）、電話・メールなどでの連絡のため。
- (7) 学費等の請求、入金処理、督促等に必要な業務を行うため。
- (8) 官公庁等の調査依頼に対する回答のため。
- (9) 学生本人および保証人に対して、本学ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および一般社団法人東京電機大学校友会から通知および連絡を行うため。
- (10) その他本学の教育・研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
- (11) その他法令に基づく場合。

第1章 新入生の皆さんへ

新入生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

大学院への期待

学長 古田勝久

東京電機大学の大学院は、修士課程には、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科があり、博士課程（後期）は、先端科学技術研究科となります。

20 世紀後半から 21 世紀にかけて、科学技術は目覚ましい発展をし、世界的に経済成長とグローバル化をもたらし、政治、経済、文化等の社会活動の基盤となってきました。そして、現代は、知識・情報・技術が、これまでにない価値を持つ知識基盤社会になってきました。

大学院修士課程は、研究者養成のためと言うより、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成、高度専門職業人となるための幅広い学識の涵養を図り、研究能力又はこれに加えて高度で専門的な職業を担うための卓越した能力を培う課程であると考えられるようになってきました。また博士課程（後期）も、高度な専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度な研究能力とその基盤となる豊かな学識を養い、修了者が研究・教育機関に限らず、社会の多様な場で中核的な人材として活躍することが求められています。

産業界を取り巻く環境も、生産・販売を単に海外に移すというより、株主、管理運営、製造販売のグローバル化が進み、企業自体が国際企業になってきました。そして、社会・技術の変化に大きく影響されるようになりました。最近の電機業界の状況を見てもわかる通り、新しい技術への対応、開発製造のサイクルが年々短縮化しました。そして、技術者には、新しい技術を生み出すため、さまざまな分野の人と協力して問題解決にあたることの出来るコミュニケーション能力が益々要求されてきています。このような社会環境の中で、コースワークの充実による実質化、国際的に活躍できる能力を養成する大学院教育に、ますます大きな期待が寄せられてきています。

理工系の学部生の約 40% が大学院に進学していますが、諸外国と比べて日本の大学院の修了の若者の比率は低くなっております。大学院での教育・研究を通じて、これからの科学技術の発展にも十分適応できるような基盤技術を身に付けた科学技術者の活躍が期待されています。

本学は、「実学尊重」を建学の精神、「技術で社会に貢献する人材の育成」を使命とし、初代学長の丹羽保次郎先生の名言「技術は人なり」を教育・研究の理念としてきました。大学院で研究を通じて教育を受ける学生の皆さんは、本学の使命である、社会に貢献する技術を生み出す、あるいは社会のいろいろな問題を技術により解決する人材になるべく、自分の専門だけでなく、関連する様々な分野にも興味を持ってください。これからの国際化、先端化、融合化の社会で活躍するための技術基盤と研究能力、豊かな学識と国際的なコミュニケーション能力を東京電機大学の大学院で磨かれることを期待しております。

工学研究科で学ぶ皆さんへ

工学研究科委員長 加藤政一

ご入学おめでとうございます。大学院に進学された皆さんには、学部とは異なり、研究活動を中心としたカリキュラムが待っています。大学院での研究・教育活動を通じて、研究者・技術者として社会で活躍できる人材になるための礎を築いて頂きたいと願っています。日本の強みは技術力、なかでも製造技術です。東京電機大学・大学院で学んだ皆さんが、日本の「ものづくりの技術」の継承と次世代技術の開発に貢献できる人材に成長されることを期待しています。

工学研究科は工学部4学科の上にそれぞれ直結する修士課程4専攻があり、学部と大学院を通じて6年間の一貫教育が可能になっています。さらに工学研究科4専攻、理工学研究科4専攻、情報環境学研究科1専攻、未来科学研究科3専攻の上に博士課程（後期）に相当する先端科学技術研究科8専攻が存在します。工学部、工学研究科、先端科学技術研究科は同一キャンパスにあり、教員と大学院生、学部生が一体となって研究、教育に取り組んでいます。

学部ではそれぞれの学科・コースにおいて基本的な知識を学ぶことができました。大学院ではその知識を実際に応用する場で、様々な体験を通して研究開発や技術開発能力の向上をめざします。新しい材料、機器、システムの開発、抜本的な技術改良など、さまざまなことに挑戦する過程で、指導教員や先輩たちから研究開発の基本となるテクニック、調査・立案のノウハウ、実験結果の解析や考え方など、多くのことを学んでいきます。

大学院では、学部での受動的な学習から決別し、自らの独創力、想像力を培うことに努めて下さい。与えられたテーマについては調査、研究計画の立案、実行、考察の一連の研究活動を自らが主体的に行う姿勢が大切です。自ら得た情報や知識を持って指導教員や先輩と議論することで、多くのことを学び、さらに成長することに繋がります。皆さんが社会に出て評価されるのは自立した技術者、研究者としての活躍です。

工学研究科で学ぶ2年間は、社会に出て活躍する為の基盤づくりの期間です。技術や知識の修得のみならず、社会人として将来責任ある役割を果たせるような人間としての素養も身に付けるように心がけて下さい。社会人として活躍している先輩に接したり、異分野の教養を身に付ける努力も大切ではないかと思います。

皆さんの奮闘を期待しています。

新入生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第2章 学修案内

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

工学研究科の教育

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

東京電機大学大学院

建学の精神 「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

教育・研究理念 「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げました。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

東京電機大学は、「実学尊重」を建学の精神とし、高度な科学技術を創造・伝承することにより、“科学技術の総本山となる”ことを目標としています。博士・修士課程は、学士課程で身につけた能力をさらに発展させ、各専門分野における問題を自立して解決できる高度専門職業人を養成します。

修士課程においては、先端的な専門知識を修得するとともに、専門分野における基礎的な問題を自立的に解決する能力を備えた科学技術者を養成します。学位授与の要件は、所定の期間在学し（※）、各研究科の教育・研究理念に沿って編成された教育課程から必要な単位を修得し、論文審査（専攻により、論文審査に代わる特定の課題についての研究の審査）に合格することとします。

博士課程（後期）においては、高度な専門性が要求される問題の解決能力を有し、研究者として自立できる自発的能力を備えた科学技術者を養成します。学位授与の要件は、所定の期間在学し（※）、先端科学技術研究科の教育・研究理念と人材養成の目的に沿って設定された講義科目から、必要な単位を修得し、論文審査に合格することとします。

※標準修業年限は、修士課程は2年、博士課程（後期）は3年。

教育課程編成方針・実施の方針（カリキュラムポリシー）

高度な技術社会においては、問題発見・解決能力が科学技術者に要求されます。そのためには専門基礎ばかりではなく、より高度な専門知識の修得が必要となります。

修士課程は、学士課程で学んだ基礎知識をさらに発展させ、社会が直面している問題をさまざまな側面から洞察する力を備え、さらに進化した専門知識を修得できるよう、高度な専門性を有するカリキュラムを編成しています。

博士課程（後期）は、高度な専門知識を有し、かつ自立した研究者を養成するために、専門分野の研究に加えて、先端的な講義と個別指導を含むカリキュラムを編成しています。

以上の考えに基づき、各研究科における教育課程を編成し、実施しています。

工学研究科

人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的

工学研究科は、学部教育で養った科学技術分野に関する知識を基礎とし、さらに幅広く深い学識の涵養を図り、科学技術分野における研究能力及び高度な専門性を要する職業等に必要な卓越した能力を培うことを目的とします。

すなわち、確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理観を持ち、現代社会での問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学研究科は、本研究科に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者を、先端的な専門知識を修得するとともに、専門分野における基礎的な問題を自律的に解決する能力を備えた科学技術者と認定し、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）本研究科の教育・研究理念及び人材養成の目的に沿って編成された教育課程から、必要な単位を修得すること。
- （2）論文審査に合格すること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学研究科は、学部教育で養った科学技術分野に関する知識を基礎とし、さらに幅広く深い学識の涵養を図り、科学技術分野における研究能力及び高度な専門性を要する職業等に必要な、卓越した能力を培うことを目的としています。

すなわち、確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理観を持ち、現代社会での問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者を養成します。

また、本研究科の教育目的を達成するために、学部の専門基礎学力を基とした上で、さらに進んだ科学技術の進歩に対応できる高級専門技術者と研究者に必要な、高度な専門教育研究を充実させ、専門知識の獲得及び研究能力の養成を重視したカリキュラム編成を配置します。

高度な専門の学問分野については、理論と応用を教授します。最新の先端分野に対しては、学術論文や国内外における最近の研究成果発表の場などを通じて、その進展の動向や情報を収集し調査して、その分野に精通することによって、各自の研究能力のレベル向上を目標とします。そのため、この応用力を涵養する科目を配置します。

以上の考えに基づき、教育課程を編成し、実施します。

各専攻の目的、方針、
授業科目配当表及び
研究指導教員等の専門分野と
指導研究テーマ

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

電気電子工学専攻 電気電子システムコース

Electrical and Electronic Engineering
Electrical and Electronics System Course

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

電気電子工学専攻 電気電子システムコース

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

電気電子工学専攻は、学部教育で養った電気工学と電子工学及びその統合分野と関連分野に関する総合的な知識と技術をさらに発展・進化させ、電気電子工学分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を育成することを目的とします。

すなわち、電気電子工学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理感を持ち、現代社会での問題に実践的に即応できる電気電子工学分野における研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行います。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学研究科の電気電子工学専攻電気電子システムコースは、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）電気電子工学分野の先端的な専門知識を応用し、自主的に科学技術全般における諸課題を解決できる能力を身につけ、深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。
- （2）先端的工学の知識や技術を継続的に修得できる学力、それらを伝達できるプレゼンテーション能力、かつ技術的な領域で社会に貢献するための幅広い視野を有すること。

※標準修業年限は2年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学研究科の電気電子工学専攻電気電子システムコースは、電気電子工学の先端的分野の専門分野における課題を探究し、解決していくことが自主的に実践できるように教育課程を編成し、実施します。

また、グローバル時代の技術者に必要な語学力と研究発信力を修得し、国際性が培われるように教育課程を編成し、実施します。

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
		H27	H28									
電力・電気機器	電気電子工学特別演習Ⅰ	随時	随時	1	2	必	1	通年	常	コース主任ほか		工業
	電気電子工学特別演習Ⅱ	随時	随時	1	2	必	2	通年	常	コース主任ほか		工業
	電気電子工学グループ輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	工業
	電気電子工学全体輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	コース主任ほか		工業
	電気電子工学特別研究	随時	随時	3	6	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	工業
電力・電気機器	電気機器特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	松瀬 貴規	隔週・2時限連続で開講	工業
	エネルギー変換工学	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	西方 正司		工業
	パワーエレクトロニクス特論	●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	橋川 重男		工業
	電子制御機器	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮下 収		工業
	電力系統論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	加藤 政一		工業
	燃料電池工学		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	西川 尚男		工業
	電力系統解析	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	加藤 政一	「電力系統解析」は、集中講義で開講	
	最新電力系統技術	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	加藤 政一	「最新電力系統技術」は、集中講義で開講	
	系統過渡解析論	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	腰塚 正	公開科目	工業
	高電圧大電力工学	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	鈴木 克巳		工業
電子システム	システム制御理論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	非	田村 健一		情報
	不規則信号処理	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常	和田 成夫		情報
	グラフィックスと応用数理	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	國分 雅敏		情報
	ディジタルフィルタ特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	陶山 健仁		情報
	現代制御論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	吉田 俊哉		情報
	集積回路設計		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	堀尾 喜彦		情報
	並列システム解析	●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	山本 欣		工業
	ニューロコンピュータリング	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	安達 雅春	公開科目	工業
	組込みシステム特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	金杉 昭徳		情報
	バイオマグネティズム	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常*	栗城 眞也		工業
	医用電子計測		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	植野 彰規		工業
	ロボット工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	五十嵐 洋		工業
	VLSI設計工学	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	小松 聡		情報
	デザイン工学特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	菅藤 晶広		工業
電子デバイス	電子物性	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	高井 裕司	公開科目	工業
	半導体電子工学		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	市川 幸美	「半導体電子工学」は、集中講義で開講	工業
	電気電子材料特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	原 和裕		工業
	デバイスプロセス工学		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	六倉 信喜		工業
	電子デバイス特論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	平栗 健二		工業
	半導体特論	●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	佐藤 慶介		工業
	超電導工学		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	松葉 博則		工業
	量子エレクトロニクス		●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	志村 努		工業
	光半導体素子工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	田所 貴志		工業
	放電プラズマ工学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	非	浜垣 学		工業
	プラズマ工学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	非	市川 幸美	「プラズマ工学特論」は、集中講義で開講	工業
	レーザー応用工学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	西川 正		工業
	科学英語	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	コース主任	コロラド大学英語短期研修	
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1	集中		()	1年生のみ履修可能	
科学英語	総合技術特別講義	●	●	1	2	選	1・2	通年	常	陶山 健仁ほか		
	融合技術戦略特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講	
	インターンシップ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	コース主任		
	科学技術英語演習Ⅰ	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	興野 登		
	科学技術英語演習Ⅱ	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	興野 登		
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	興野 登		
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	興野 登		
	分光光学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常*	石丸 臣一		
	薄膜物性特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	松田 七美男		
	情報ネットワーク工学特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	吉浦 紀晃		情報
情報ネットワーク工学	アルゴリズム論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常*	坂本 直志		情報
	コンピュータグラフィックス特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	齊藤 剛	公開科目	情報
	人工知能		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	月本 洋		情報
	映像工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	浮ヶ谷 文雄		情報
	ディジタル通信特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	高村 誠之		情報
	ビジュアルコンピュータリング特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	高橋 時市郎		情報

注1) 開講区分欄「○●」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講

注2) 常勤非常勤欄「*」=兼担者、「△」=客員教員

注3) 「公開科目」は、本学大学院生以外の一般社会人向けに受講生募集を行っている科目。

2015（平成 27）年度カリキュラム

電気電子工学専攻 電気電子システムコース 修士課程 カリキュラムマップ

		1 年		2 年		備考				
		前期	後期	前期	後期					
専門性の涵養	電力・電気機器	エネルギー変換工学	2	電子制御機器	2	パワーエレクトロニクス特論	2	電気機器特論	2	「電力系統解析」, 「最新電力系統技術」 は集中講義
		パワーエレクトロニクス特論	2	系統過渡解析論	2	最新電力系統技術	2	電力系統論	2	
		最新電力系統技術	2	高電圧大電力工学	2	電力系統解析	2	燃料電池工学	2	
		電力系統解析	2							
	システム・情報分野	不規則信号処理	2	システム制御理論	2	集積回路設計	2	ディジタルフィルタ特論	2	
		並列システム解析	2	グラフィックスと応用数理	2	医用電子計測	2	現代制御論	2	
				ニューロコンピューティング	2	ロボット工学	2	組込みシステム特論	2	
				デザイン工学特論	2			デザイン工学特論	2	
				バイオマグネティズム	2					
				VLSI 設計工学	2					
	物性・デバイス分野	電子デバイス特論	2	電子物性	2	光半導体素子工学	2	電子物性	2	「プラズマ工学特論」, 「半導体電子工学」は 集中講義
		半導体特論	2	放電プラズマ工学特論	2			半導体電子工学	2	
			プラズマ工学特論	2			電気電子材料特論	2		
			レーザー応用工学特論	2			デバイスプロセス工学	2		
							超電導工学	2		
							量子エレクトロニクス	2		
	ディジタル通信特論	2	分光光学特論	2	映像工学	2	薄膜物性特論	2		
	ビジュアルコンピューティング特論	2	アルゴリズム論	2	ビジュアルコンピューティング特論	2	情報ネットワーク工学特論	2		
			コンピュータグラフィックス特論	2		2	コンピュータグラフィックス特論	2		
						2	人工知能	2		
学際性の涵養		電気電子工学特別演習Ⅰ		2	電気電子工学特別演習Ⅱ		2	集中		
		融合技術戦略特論	2							
国際性の涵養		科学英語		2	科学英語		2	集中		
		Practical English for Global Engineers		2				集中		
		科学技術英語演習Ⅰ	2	科学技術英語演習Ⅱ	2	科学技術英語演習Ⅰ	2	科学技術英語演習Ⅱ	2	
		科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2	
		電気電子工学グループ輪講							2	
発信力の涵養		電気電子工学特別研究							6	
		電気電子工学全体輪講							2	
キャリア形成		総合技術特別講義		2	総合技術特別講義		2	集中		
		インターンシップ		2	インターンシップ		2			

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目

※ ピンクは必修

研究指導教員の専門分野と指導研究テーマ

《電気電子工学専攻》

●電気電子システムコース

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
安 達 雅 春 1号館 11312B (2505)	・非線形システム工学 ・生体情報処理	・カオスの工学応用 ・非線形データ解析 ・人工神経回路網（ニューラルネットワーク）の応用 ・脳・神経系の数理モデル ・生体信号解析（光トポグラフィー、脳磁界などの解析）
植 野 彰 規 1号館 11304B (2503)	・生体電子計測 ・生体医工学	・生体電気信号の非侵襲・無拘束計測 ・生体情報インタフェースの開発 ・眠気の定量化と予防安全システムへの応用
加 藤 政 一 1号館 11302 B (2102)	・電力システム工学 ・エネルギーシステム	・エネルギー供給、利用の最適化 ・電力システムの計画、運用、制御 ・エネルギーシステムの環境負荷評価 ・再生可能エネルギーの導入促進方法
腰 塚 正 4号館 40814B (2506)	・アーク放電現象 ・回路開閉過渡現象	・変圧器インダクタンスの高周波特性研究 ・電流遮断における零点の研究
鈴 木 克 巳 1号館 11313A (2124)	・高電圧大電力 ・電力機器 ・電気機器	・風力発電 ・電流遮断
陶 山 健 仁 ☆ 1号館 11304A (2119)	・デジタル信号処理	・デジタルフィルタの設計・実現の研究 ・マイクロホンアレイによる音響信号処理
高 井 裕 司 4号館 40710E (2116)	・電子材料	・超電導デバイス ・レーザーによる微細加工 ・新型半導体レーザー ・グラフェン・カーボンナノチューブ
西 方 正 司 1号館 11315B (2112)	・電気機器学 ・パワーエレクトロニクス	・風力発電システムに関する研究 ・無整流子電動機のセンサレス始動 ・ステッピングモータの回転子初期位置推定 ・UPSの並列運転に関する研究

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
原 和 裕 4号館 40710D (2114)	・ 電子デバイス	・ 環境計測用センサの開発 ・ においセンサの研究 ・ ガスセンサの開発 ・ 湿度センサの開発 ・ 空中浮遊菌センサの開発
日 高 浩 一 1号館 11305A (2115)	・ 制御工学	・ 移動体に関する知的制御法に関する研究 ・ ビジュアルフィードバック制御 ・ 動的モデリングに関する研究
平 栗 健 二 1号館 11315A (2117)	・ ナノデバイス ・ 半導体材料工学	・ 発光性シリコンナノ粒子の作製とデバイスの開発 ・ ダイヤモンド状炭素（DLC）膜の合成と応用 ・ バイオマテリアルの創成と最適化
堀 尾 喜 彦 1号館 11312A (2502)	・ アナログ集積回路 ・ 非線形動力学 ・ 人工神経回路 ・ 複雑系	・ カオスニューロコンピューティング ・ 最適化問題の物理ダイナミクスによる解法 ・ 実数・ハイブリッド計算 ・ 脳の情報処理モデルとそのLSI化 ・ 複雑系コンピューティングシステム
枘 川 重 男 4号館 40815A (2103)	・ パワーエレクトロニクス	・ 分散電源用電力変換回路の開発 ・ マルチステップ電力変換回路の試作 ・ 電力貯蔵システムの開発
宮 下 收 4号館 40804A (2104)	・ 電子制御機器	・ 電力変換器の制御 ・ 電動機の解析と制御 ・ 電子機器の福祉工学への応用
吉 田 俊 哉 4号館 40815B (2150)	・ 制御機器工学	・ センサレス磁気軸受の実用化 ・ ゼロバイアス非線形磁気軸受のセンサレス化 ・ 太陽光発電の超高速MPPT制御

☆：専攻主任 ★：専攻主任補佐

電気電子工学専攻 電子光情報コース

Electrical and Electronic Engineering
Electronic, Photonic and Information Engineering Course

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

電気電子工学専攻 電子光情報コース

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

工学研究科の電気電子工学専攻・電子光情報コースは、学部教育で養った電子工学および光・情報関連分野に関する総合的な知識と技術をさらに発展・進化させ、当該分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を育成することを目的とします。

すなわち、電子工学および光・情報分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理感を持ち、現代社会での問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行います。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学研究科の電気電子工学専攻・電子光情報コースは、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）電子工学および光・情報分野の先端的な専門知識を応用し、科学技術全般における諸課題を自主的に解決できる能力を身につけ、深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。
- （2）先端の工学の知識や技術を継続的に修得できる学力、それらを伝達できるプレゼンテーション能力、かつ技術的な領域で社会に貢献するための幅広い視野を有すること。

※標準修業年限は2年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学研究科の電気電子工学専攻・電子光情報コースは、電子工学および光・情報関連の先端的専門分野における課題を自主的に探求し、実践的に解決できるように教育課程を編成し、実施します。

また、グローバル時代の技術者に必要な語学力と研究発信力を修得し、国際性が培われるように教育課程を編成し、実施します。

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
		H27	H28									
電子システム・ 電子情報	電子光情報工学特別演習Ⅰ	随時	随時	1	2	必	1	通年	常	コース主任ほか		
	電子光情報工学特別演習Ⅱ	随時	随時	1	2	必	2	通年	常	コース主任ほか		
	電子光情報工学グループ輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	
	電子光情報工学全体輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	コース主任ほか		
	電子光情報工学特別研究	随時	随時	3	6	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	
電子システム・ 電子情報	不規則信号処理	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常	和田 成夫		情報
	グラフィックスと応用数理	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	國分 雅敏		情報
	並列システム解析	●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	山本 欧		工業
	組込みシステム特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	金杉 昭徳		情報
	ロボット工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	五十嵐 洋		工業
	VLSI設計工学	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	小松 聡		情報
	システム制御理論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	非	田村 健一		情報
	ディジタルフィルタ特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	陶山 健仁		情報
	現代制御論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	吉田 俊哉		情報
	集積回路設計		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	堀尾 喜彦		情報
	ニューロコンピューティング	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	安達 雅春	公開科目	工業
	医用電子計測		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	植野 彰規		工業
	デザイン工学特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	菅藤 晶広		工業
電子物性・ 電子デバイス	バイオマグネティズム	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常*	栗城 真也		工業
	半導体電子工学		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	市川 幸美	「半導体電子工学」は、集中講義で開講	工業
	デバイスプロセス工学		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	六倉 信喜		工業
	電子物性	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	高井 裕司	公開科目	工業
	電気電子材料特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	原 和裕		工業
	電子デバイス特論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	平栗 健二		工業
光エレクトロニクス・ 光工学	半導体特論	●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	佐藤 慶介		工業
	量子エレクトロニクス		●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	志村 努		工業
	光半導体素子工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	田所 貴志		工業
	放電プラズマ工学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	非	浜垣 学		工業
	プラズマ工学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	市川 幸美	「プラズマ工学特論」は、集中講義で開講	工業
	レーザー応用工学特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	西川 正		工業
電力・電気機器	超電導工学		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	松葉 博則		工業
	電気機器特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	松瀬 宏規	隔週・2時間連続で開講	工業
	エネルギー変換工学	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	西方 正司		工業
	パワーエレクトロニクス特論	●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	柿川 重男		工業
	電子制御機器	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮下 収		工業
	電力系統論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	加藤 政一		工業
	燃料電池工学		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	西川 尚男		工業
	電力系統解析	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	加藤 政一	「電力系統解析」は、集中講義で開講	
	最新電力系統技術	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	加藤 政一	「最新電力系統技術」は、集中講義で開講	
	系統過渡解析論	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	腰塚 正	公開科目	工業
科学英語	高電圧大電力工学	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	鈴木 克巳		工業
	科学英語	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	コース主任	コロラド大学英語短期研修	
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1	集中		()	1年生のみ履修可能	
	総合技術特別講義	●	●	1	2	選	1・2	通年	常	陶山 健仁ほか		
	融合技術戦略特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講	
	インターンシップ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	コース主任		
	科学技術英語演習Ⅰ	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	興野 登		
	科学技術英語演習Ⅱ	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	興野 登		
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	興野 登		
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	興野 登		
沿	分光学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常*	石丸 臣一		
	薄膜物性特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	松田 七美男		
	情報ネットワーク工学特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	吉浦 紀晃		情報
	アルゴリズム論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常*	坂本 直志		情報
	コンピュータグラフィックス特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	齊藤 剛	公開科目	情報
	人工知能		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	月本 洋		情報
	映像工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	浮ヶ谷 文雄		情報
	ディジタル通信特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	高村 誠之		情報
	ビジュアルコンピューティング特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	高橋 時市郎		情報

注1)開講区分欄 「○●」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講

注2)常勤非常勤欄 「*」＝兼任者、「△」＝客員教員

2015（平成 27）年度カリキュラム
電気電子工学専攻 電子光情報コース 修士課程 カリキュラムマップ

		1 年		2 年		備考				
		前期	後期	前期	後期					
専門性の涵養	システム・情報分野	不規則信号処理	2	システム制御理論	2	集積回路設計	2	ディジタルフィルタ特論	2	
		並列システム解析	2	グラフィックスと応用数理	2	医用電子計測	2	現代制御論	2	
				ニューロコンピューティング	2	ロボット工学	2	組込みシステム特論	2	
				デザイン工学特論	2			デザイン工学特論	2	
				バイオマグネティズム	2					
			VLSI 設計工学	2						
	物性・デバイス分野	電子デバイス特論	2	電子物性	2			電子物性	2	「半導体電子工学」は集中講義
		半導体特論	2					半導体電子工学	2	
								電気電子材料特論	2	
								デバイスプロセス工学	2	
	光エレクトロニクス・光工学			放電プラズマ工学特論	2	光半導体素子工学	2	超電導工学	2	「プラズマ工学特論」は集中講義
				プラズマ工学特論	2			量子エレクトロニクス	2	
				レーザー応用工学特論	2					
	電力・電気機器	エネルギー変換工学	2	電子制御機器	2	パワーエレクトロニクス特論	2	電気機器特論	2	「電力系統解析」, 「最新電力系統技術」は集中講義
		パワーエレクトロニクス特論	2	系統過渡解析論	2	最新電力系統技術	2	電力系統論	2	
		最新電力系統技術	2	高電圧大電力工学	2	電力系統解析	2	燃料電池工学	2	
電力系統解析		2								
	ディジタル通信特論	2	分光学特論	2	映像工学	2	薄膜物性特論	2		
	ビジュアルコンピューティング特論	2	アルゴリズム論	2	ビジュアルコンピューティング特論	2	情報ネットワーク工学特論	2		
			コンピュータグラフィックス特論	2			コンピュータグラフィックス特論	2		
							人工知能	2		
学際性の涵養		電子光情報工学特別演習Ⅰ		2	電子光情報工学特別演習Ⅱ		2			
国際性の涵養		科学英語		2	科学英語		2	集中 コロラド大学英語短期研修		
		Practical English for Global Engineers		2				集中		
	科学技術英語演習Ⅰ	2	科学技術英語演習Ⅱ	2	科学技術英語演習Ⅰ	2	科学技術英語演習Ⅱ	2		
	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2	科学技術のための英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2		
	電子光情報工学グループ輪講							2		
発信力の涵養		電子光情報工学特別研究							6	
		電子光情報工学全体輪講							2	
キャリア形成		総合技術特別講義		2	総合技術特別講義		2			
		融合技術戦略特論	2							
		インターンシップ		2	インターンシップ		2	集中		

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目
※ ピンクは必修

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《電気電子工学専攻》

●電子光情報システムコース

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
五十嵐 洋 4号館 40814A (2514)	・ ロボット工学 ・ 人工知能	・ ヒトとロボットの協調 ・ ロボットとロボットの協調 ・ ヒトとヒトの協調 ・ ロボットと環境の協調
金杉 昭徳 ★ 4号館 40714A (2510)	・ プロセッサ設計 ・ マイコン応用	・ 特定アプリケーション向け専用プロセッサの開発 ・ ダイナミックリコンフィギャラブルシステムの開発
國分 雅敏 4号館 40906A (3905)	・ 微分幾何学	・ 極小曲面論とその周辺 ・ 可積分系理論の応用による曲面論の研究 ・ 曲面論における計算機を用いた可視化
小松 聡 4号館 40711 (2511)	・ 集積回路工学 ・ VLSI テスト	・ 集積回路のテスト技術 ・ 集積回路の設計支援技術 ・ 低消費電力集積回路設計に関する研究
田所 貴志 4号館 40811B (2513)	・ 半導体デバイス ・ 光通信	・ 半導体レーザーの開発 ・ 半導体レーザー／LEDによる環境計測 ・ 光インターコネクション
西川 正 4号館 40811A (2512)	・ レーザー工学 ・ 量子エレクトロニクス	・ 超短パルス光の発生とその利用 ・ 光周波数コム光源の開発と計測・分光応用 ・ 光シンセサイザーの実現 ・ 非線形光学現象の研究
六倉 信喜 1号館 11316A (2509)	・ 半導体デバイス ・ 電子材料 ・ プラズマプロセス	・ III-V窒化物半導体の合成とその応用 ・ UHVスパッタリング法によるGaN単結晶層のエピタキシャル成長 ・ UHVスパッタリング法によるZnO単結晶層のエピタキシャル成長
山本 欧 1号館 11313B (2507)	・ 並列計算機（解析、アプリケーション） ・ 3Dディスプレイ（ボリュウムディスプレイ・アプリケーション）	・ 形状把握の困難な立体の3D表示 ・ 流体现象の3D表示 ・ ベクトル場の3D表示 ・ 3D表示データ生成の並列化

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
和 田 成 夫 1 号 館 11305B (2113)	・ 電子情報工学 ・ 信号処理	・ 音声・楽音の時間一周波数解析 ・ 感性画像検索 ・ 画像処理と産業応用 ・ 移動通信システムの高信頼性化 ・ セキュリティ信号処理（電子透かし、生体認証）

☆：専攻主任 ★：専攻主任補佐

物質工学専攻

Materials Science and Engineering

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

物質工学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

物質工学専攻は、学部教育で養った環境を意識した化学、生物及び物理を基盤とする技術分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術をさらに発展・進化させ、新素材に代表される物質及び環境化学分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を育成することを目的とします。

すなわち、物質・環境化学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理感を持ち、現代社会での物質・環境化学分野の問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行います。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学研究科の物質工学専攻は、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）物質工学分野における基盤となる知識・技術を持ち、現実における制約のもとでの問題解決能力、深い考察力、課題解決力を兼ね備えること。
- （2）研究成果をまとめ、文書及び口頭で広く社会に報告できる能力を有すること。
- （3）コミュニケーション能力と健全な倫理観を持ち、持続可能な社会の発展に科学技術で寄与できる研究開発能力を有すること。

※標準修業年限は2年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学研究科の物質工学専攻は、幅広い学際的見地に立って、新素材に関する基礎物性理論から応用技術に至るまでを総合的に学べるように教育課程を編成し、実施します。

特別研究では、教員の個別指導のもとに、社会的・学術的観点から重要な研究課題に取り組むことで、課題解決能力と課題探求能力を涵養し、来るべき社会で活躍できる研究者、技術者を養成します。さらに、国際性を涵養します。

平成27・28年度 授業科目配当表 物質工学専攻 修士課程

【平成27年度入学者カリキュラム】

部門	科目名	開講年度 開講区分 H27 H28	コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
	物質工学特別演習Ⅰ	随時 随時	1	2	必	1	通年	常	専攻主任ほか		理科
	物質工学特別演習Ⅱ	随時 随時	1	2	必	2	通年	常	専攻主任ほか		理科
	物質工学グループ輪講	随時 随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	理科
	物質工学全体輪講	随時 随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	専攻主任ほか		理科
	物質工学特別研究	随時 随時	3	6	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	
基礎物性	量子力学特論	○		1	2	選	1・2 半期(後)	常	長澤 光晴		理科
	量子統計特論		○	1	2	選	1・2 半期(後)	常	田巻 明		理科
	結晶解析特論		○	1	2	選	1・2 半期(前)	常	田巻 明		理科
	電子物性物理学		●	1	2	選	1・2 半期(後)	常	長澤 光晴		理科
	物性物理学特論	●		1	2	選	1・2 半期(前)	常	田巻 明	公開科目	理科
分子物性	材料化学特論		●	1	2	選	1・2 半期(前)	常	藪内 直明		理科
	分光光学特論	○		1	2	選	1・2 半期(後)	常	石丸 臣一		理科
	分析化学特論		○	1	2	選	1・2 半期(後)	常	保倉 明子		理科
有機材料	有機合成特論	○●		1	2	選	1・2 半期(前)	常	篠崎 開		理科
	高分子材料特論		○●	1	2	選	1・2 半期(前)	常	宮坂 誠		理科
	高分子合成特論	○		1	2	選	1・2 半期(前)	常	鈴木 隆之		理科
	生物有機化学特論		●	1	2	選	1・2 半期(後)	非△	高橋 俊二		理科
応用微生物工学	応用微生物工学		●	1	2	選	1・2 半期(後)	非	中松 亘		理科
	遺伝子工学概論	●		1	2	選	1・2 半期(後)	常	川崎 寿	公開科目	理科
	構造生物学	●		1	2	選	1・2 半期(後)	常	夏目 亮		理科
応用物性	半導体特論	●		1	2	選	1・2 半期(前)	常*	佐藤 慶介		
	半導体デバイス特論		○	1	2	選	1・2 半期(後)	常*	本橋 光也		理科
	薄膜物性特論		○	1	2	選	1・2 半期(後)	常	松田 七美男		理科
	超電導材料工学	○		1	2	選	1・2 半期(後)	非	森下 忠隆		理科
	科学英語	○	○	集中	2	選	1・2 集中	常	専攻主任	コロラド大学英語短期研修	理科
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1 集中		()	1年生のみ履修可能	
	総合技術特別講義	●	●	1	2	選	1・2 通年	常*	陶山 健仁ほか		
	融合技術戦略特論	○		1	2	選	1・2 半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2 半期(後)	常*	柏崎 尚也ほか	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に 合わせて開講	
	インターンシップ	○	○	集中	2	選	1・2 集中	常	専攻主任		
	燃料電池工学		○●	1	2	選	1・2 半期(後)	非	西川 尚男		
	電子物性	○	○	1	2	選	1・2 半期(後)	常*	高井 裕司	公開科目	
	電気電子材料特論		○●	1	2	選	1・2 半期(後)	常*	原 和裕		

注1)開講区分欄「○●」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講

注2)常勤非常勤欄「*」＝兼任者、「△」＝客員教員

注3)「公開科目」は、本学大学院生以外の一般社会人向けに受講生募集を行っている科目。

2015（平成 27）年度カリキュラム

物質工学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

		1 年		2 年		備考	
		前期	後期	前期	後期		
専門性の涵養	基礎物性部門	物性物理学特論 2	量子力学特論 2	結晶解析特論 2	電子物性物理学 2 量子統計特論 2		
	分子物性部門		分光光学特論 2	材料化学特論 2	分析化学特論 2		
	有機材料部門	有機合成特論 2 高分子合成特論 2		高分子材料特論 2	生物有機化学特論 2		
	応用微生物工学部門		遺伝子工学概論 2 構造生物学 2		応用微生物工学 2		
	応用物性部門	半導体特論 2	超電導材料工学 2		半導体デバイス特論 2 薄膜物性特論 2		
	全部門	物質工学特別演習 I 2		物質工学特別演習 II 2			
		物質工学特別研究 6					
		物質工学グループ輪講 2					
	学際性の涵養			電子物性 2		電子物性 2 燃料電池工学 2 電気電子材料特論 2	
			総合技術特別講義 2		総合技術特別講義 2		
		融合技術戦略特論 2				集中	
		物質工学全体輪講 2					
国際性の涵養		科学英語 2		科学英語 2		集中	
		Practical English for Global Engineers 2				集中	
キャリア形成		インターンシップ 2		インターンシップ 2		集中	
			MOT概論 2		MOT概論 2		

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目

※ ピンクは必修

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《物質工学専攻》

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
石 丸 臣 一 ☆ 4 号館 40611D (2909)	・ 材料物性 ・ 無機材料	・ ゲルおよび固体電解質の開発 ・ 細孔性固体の研究 ・ 無機有機ハイブリット材料による金属イオン吸着
川 崎 寿 4 号館 40614A (2910)	・ 代謝工学 ・ 応用微生物学	・ 微生物の代謝制御機構の解析 ・ 微生物のイオン輸送系の分子生物学的・電気生理学的解析
小 林 大 祐 4 号館 40606B (2903)	・ 化学工学 ・ 反応工学 ・ 超音波工学	・ 有機ハイドライドの脱水素反応 ・ 超音波を用いた微粒子合成
篠 崎 開 4 号館 40609B (2906)	・ 合成有機化学	・ フラン類の分子内 Diels-Alder 反応 ・ 不斉相間移動触媒の開発 ・ ラジカル反応の有機合成への応用
鈴 木 隆 之 4 号館 40611A (2908)	・ 高分子錯体化学 ・ 光化学	・ 光応答性高分子の合成 ・ 機能性高分子における機能の光スイッチング評価
田 巻 明 4 号館 41001B (3003)	・ 固体物性 ・ 磁性体 ・ 超伝導体	・ 新希土類結晶材料の作製とその物性 ・ ディスプレイ用表示素子の研究
長 澤 光 晴 4 号館 41002B (3004)	・ 固体電子物性 ・ 低次元導体 ・ 超伝導体	・ 擬一次元無機・有機導体の物性研究 ・ 極限環境下における物質の新しい性質探索／新奇超伝導体の探索／超伝導薄膜の微細加工 ・ 熱物性測定装置の開発
夏 目 亮 4 号館 40616A (2911)	・ タンパク質化学 ・ 応用微生物学	・ 微生物酵素の構造機能相関解析 ・ 微生物の転写制御解析 ・ 微生物による有用物質生産機構の解析とその応用
保 倉 明 子 4 号館 40607B (2904)	・ 分析化学、無機化学、環境化学	・ 放射光 X 線分析による重金属蓄積植物の蓄積メカニズム解明 ・ 小型プラズマ分光器を用いた環境分析 ・ 農産物や食品の産地判別技術の開発
松 田 七 美 男 4 号館 41005A (3006)	・ 薄膜物性	・ 薄膜／金属系の二次電子放出 ・ 真空装置の排気最適化

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
宮 坂 誠 4 号館 40608A (2905)	・ 高分子合成 ・ 機能性分子	・ キラルらせん高分子の設計、合成と物性 ・ 外部刺激応答型光学材料の開発 ・ 近赤外領域に吸収を示す高分子材料
藪 内 直 明 4 号館 40603C (2902)	・ 電気化学 ・ 固体化学	・ 新しい電気化学エネルギーデバイスの研究 ・ リチウム電池用電極材料の反応機構の解明

☆：専攻主任

機械工学専攻

機械工学コース

Mechanical Engineering
Mechanical Engineering Course

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

機械工学専攻機械工学コース

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

機械工学専攻機械工学コースは、学部教育で養った機械技術及び機械システムとその関連分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術をさらに発展・深化させ、機械工学分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を育成することを目的とします。

すなわち、機械工学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理感を持ち、現代社会での機械工学分野の問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行います。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学研究科の機械工学専攻機械工学コースは、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）機械技術及び機械システムに関する多様な基礎知識を有機的に統合し、多種多様な技術的課題解決能力並びに深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。
- （2）技術的課題に関する目的、問題点、対応方法、結果等を的確にまとめ上げ、文書及び口頭で報告できる能力を有すること。
- （3）機械技術及び機械システムのみならず、その周辺分野にわたる広範囲な視野を有すること。

※標準修業年限は2年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学研究科の機械工学専攻は、機械技術・機械システムに分野における専門的知識と技術を修得でき、かつ論理的思考力を涵養する科目を体系的に学習できるように教育課程を編成し、実施します。

また、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は課題探求能力を身につけさせ、国際性を涵養します。

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
		H27	H28									
	機械工学特別演習Ⅰ	随時	随時	1	2	必	1	通年	常	コース主任ほか		工業
	機械工学特別演習Ⅱ	随時	随時	1	2	必	2	通年	常	コース主任ほか		工業
	機械工学グループ輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	工業
	機械工学会全体輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	コース主任ほか		工業
	機械工学特別研究	随時	随時	3	6	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	
材料・加工 システム	知能化製造工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	松村 隆		工業
	有限要素法特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	五味 健二		工業
	材料工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	大澤 基明		工業
	材料力学特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	一瀬 謙輔		工業
	破壊力学特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	辻 裕一		工業
	環境材料学特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	齋藤 博之		工業
	機械加工工学特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	森田 晋也		工業
	設備安全工学	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非△	山口 篤志ほか		
	塑性学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	柳田 明		工業
機軸・潤滑 システム	CAD/CAM特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	田中 一郎		工業
	トライボロジー特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	水原 和行		工業
熱・流体 システム	エネルギー工学特論	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	新井 雅隆		工業
	圧縮性流体力学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	葛生 和人		工業
	数値流体力学特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	岩津 玲磨		工業
	熱工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	小林 佳弘		工業
	燃焼工学特論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	吉田 亮		工業
	粘性流体力学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	児山 秀晴		工業
	高流体力学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	高橋 直也		工業
計測・制御 システム	振動のモデリングと解析		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	佐藤 太一		工業
	知能ロボット工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	栗栖 正光		工業
	バイオ・マイクロマシントラ	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	伊東 明俊	公開科目	工業
	メカニカル制御特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	藤田 壽憲		工業
	振動工学特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	藤田 聡		工業
	精密測定特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	古谷 涼秋		工業
光応用 システム	光応用工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	堀内 敏行		工業
	光微細加工技術特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常	堀内 敏行		工業
医療・福祉 システム	生体システム特論	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	三井 和幸		工業
	医用工学機器論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	伊藤 裕		工業
	メディカル・メカトロニクス	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常	土肥 健純		工業
その他	科学英語	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	コース主任	コロラド大学英語短期研修	工業
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1	集中		()	1年生のみ履修可能	
	総合技術特別講義	●	●	1	2	選	1・2	通年	常*	陶山 健仁ほか		
	融合技術戦略特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	柏崎 尚也ほか	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に 合わせて開講	
	インターンシップ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	コース主任		
その他	燃料電池工学		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	西川 尚男		工業
	組込みシステム特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	金杉 昭徳		
	映像工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	浮ヶ谷 文雄		
	ネットワークロボティクス	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常*	鈴木 剛		工業

注1) 開講区分欄 「○●」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講

注2) 常勤非常勤欄 「*」＝兼任者、「△」＝客員教員

注3) 「公開科目」は、本学大学院生以外の一般社会人向けに受講生募集を行っている科目。

2015（平成 27）年度カリキュラム

機械工学専攻 機械工学コース 修士課程 カリキュラムマップ

		1 年		2 年		備考	
		前期	後期	前期	後期		
専門性の涵養	材料・加工システム分野	破壊力学特論 2	材料力学特論 2	材料工学特論 2	有限要素法特論 2		
		環境材料学特論 2	塑性学特論 2	破壊力学特論 2	材料力学特論 2		
		設備安全工学 2	機械加工学特論 2	環境材料学特論 2	知能化製造工学特論 2		
			有限要素法特論 2	設備安全工学 2			
	機素・潤滑システム部門分野		トライボロジー特論 2	CAD／CAM特論 2	トライボロジー特論 2		
	熱・流体システム部門	圧縮性流体力学特論 2	数値流体力学特論 2	圧縮性流体力学特論 2	渦流体力学特論 2		
		燃焼工学特論 2	エネルギー工学特論 2	熱工学特論 2			
				粘性流体力学特論 2			
	計測・制御システム部門	バイオ・マイクロマシン特論 2	振動工学特論 2	振動のモデリングと解析 2	振動工学特論 2		
		メカニカル制御特論 2		知能ロボット工学特論 2	精密測定特論 2		
				バイオ・マイクロマシン特論 2			
	光応用システム部門	光微細加工技術特論 2			光応用工学特論 2		
	医療・福祉システム部門	メディカル・メカトロニクス 2	生体システム特論 2		医用工学機器論 2		
		機械工学特別演習Ⅰ 2		機械工学特別演習Ⅱ 2			
		機械工学グループ輪講 2					
		機械工学全体輪講 2					
		機械工学特別研究 6					
						燃料電池工学 2	
学際性の涵養		ネットワークロボティクス 2	MOT概論 2	映像工学 2	MOT概論 2		
					組込みシステム特論 2		
		総合技術特別講義 2		総合技術特別講義 2			
国際性の涵養		科学英語 2		科学英語 2		集中	
		Practical English for Global Engineers 2				集中	
キャリア形成		インターンシップ 2		インターンシップ 2		集中	
		融合技術戦略特論 2				集中	

※2年次科目で、網掛けの科目は、1・2年配当、毎年開講科目
※ピンクは必修

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《機械工学専攻》

●機械工学コース

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
新 井 雅 隆 1号館 10801B (2720)	・ ディーゼル機関 ・ 噴霧燃焼工学	・ ディーゼル噴霧の挙動解析 ・ 燃料液滴の蒸発特性 ・ ナノカーボン粒子の製造とその酸化過程 ・ 液体の微粒化
伊 東 明 俊 1号館 10911B (2714)	・ 生物制御工学 ・ ロボット工学 ・ マイクロマシン	・ 原生生物の行動制御とその機械的利用 ・ ICPFアクチュエータの位置決め制御 ・ 跳躍・舞踏ロボット用バイオメテックアクチュエータ ・ 凹曲率生成弾性鰭を持つマグロ型魚ロボットの開発
岩 津 玲 磨 1号館 10904B (2709)	・ 数値流体力学	・ 層流混合の研究 ・ 飛翔体の空力の研究 ・ 音波伝播の数値計算 ・ 高精度高解像度数値スキームの研究
栗 栖 正 充 1号館 10913B (2707)	・ ロボット工学 ・ 制御工学	・ 作業用移動ロボットの動作計画と制御 ・ 視覚フィードバックによる移動ロボットの制御 ・ ロボットによる非把持操作に関する研究 ・ 遠隔操作型歩行ロボットの開発
小 林 佳 弘 1号館 10905B (2712)	・ 内燃機関	・ 自動車エンジン排出物についての基礎研究 ・ 粒子状物質の特性や生成メカニズムの調査 ・ 燃料中に含まれる芳香族の影響
児 山 秀 晴 1号館 10905A (2711)	・ 流体力学 ・ 流体機械	・ 人工竜巻を用いた排気システムの開発 ・ 円筒容器内における渦崩壊現象に関する研究 ・ マイクロチャンネル内流れの速度場計測 ・ 剛体回転流体における拡散現象に関する研究 ・ 小型電磁ポンプの流動特性に関する研究
五 味 健 二 1号館 10912B (2716)	・ 材料評価	・ バイオマス繊維強化プラスチックの開発 ・ 塗膜密着力の評価法の開発 ・ レーザ光弾性法の改良
齋 藤 博 之 1号館 10915A (2717)	・ 材料力学 ・ 環境材料学 ・ 金属材料	・ 水素エネルギー利用環境下での金属材料の挙動 ・ 高強度鉄鋼材料の環境強度 ・ 構造物への雪氷の付着強度 ・ はんだ合金と接合強度

新入生へ	教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
学修案内			
KMJ			
KMH			
KMS			
KMK			
KMF			
KMC			
履修案内			
UNIPA			
生活案内	高 橋 直 也 1号館 10903 (2710)	・流体工学 ・流体物理学	・翼端渦と乱流場との相互作用に関する研究 ・境界層での層流―乱流遷移過程に関する研究 ・回転する球周りの流れの空力特性の研究 ・振動液滴内の混合現象の実験
施設			
学則・規程			
沿革			
校歌・学生歌	田 中 一 郎 1号館 10906 (2704)	・計算機援用設計 ・製品モデリング ・設計工学	・製品のライフサイクルコストに関する研究 ・製品モデルに基づくNC加工の効率化 ・ポリゴン簡略化を用いた数値解析用モデルの作成支援
キャンパス案内	辻 裕 一 1号館 10913A (2706)	・固体力学 ・供用適性評価	・燃料電池自動車圧縮水素容器の技術基準および試験法 ・フランジ継手の漏洩リスク評価 ・圧力設備の構造健全性評価 ・発電プラント用材料の疲労特性評価
	藤 田 聡 1号館 10904A (2708)	・振動工学	・形状記憶合金を用いたスマートセンサーに関する研究 ・コイルスプリングを用いた免震床に関する研究 ・画像処理技術を応用した構造物倒壊計測・手法の研究開発 ・超長周期アクティブ免震構造に関する研究
	松 村 隆 ★ 1号館 10914B (2713)	・機械加工 ・生産システム ・トライボロジー	・サファイアのマイクロエンドミル切削に関する研究 ・エンドミルによるガラスのトリミング加工 ・固体表面の微細構造による表面機能の制御 ・超微細結晶粒鋼の微細加工 ・Whirling切削加工に関する研究 ・高硬度材料の高エネルギーマイクロディンプル加工 ・微細構造のマイクロインクリメンタルローリング加工 ・表面・表層機能の評価に関する研究
	水 原 和 行 1号館 10914A (2703)	・トライボロジー ・表面分析 ・バイオメカニクス	・ころがり疲労に及ぼす雰囲気の効果 ・CVTの伝達効率改善に関する研究 ・なじみの進行過程に関する研究 ・吸盤による生体軟組織固定に関する研究 ・タッチパッドの操作性に関する研究

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
吉 田 亮 1 号 館 10912A (2715)	・ 熱工学 ・ 燃焼工学	・ 高負荷燃焼における乱流予混合火炎の構造 ・ 燃焼速度に及ぼすウォーターミストの影響 ・ ウォーターミストによる拡散火炎の消炎現象 ・ 噴流拡散火炎の構造と安定機構に及ぼすウォーターミストの影響

☆：専攻主任 ★：専攻主任補佐

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-PA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

機械工学専攻 先端機械コース

Mechanical Engineering
Precision Machinery Engineering Course

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

機械工学専攻 先端機械コース

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

機械工学専攻は、学部教育で養った機械技術及び機械システムとその関連分野及び周辺分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術をさらに発展・進化させ、機械工学分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を育成することを目的とします。

すなわち、機械工学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理感を持ち、現代社会での機械工学分野の問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行います。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

工学研究科の機械工学専攻・先端機械コースは、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、修士（工学）の学位を授与します。

- （1）機械技術及び機械システムとその周辺分野に関する多様な基礎知識を有機的に統合し、深い考察力に基づいた多種多様な技術的課題解決能力を備えること。
- （2）技術的課題に関する目的、問題点、対応方法、結果等を的確にまとめ上げ、文書及び口頭で報告できる能力を有すること。
- （3）機械技術及び機械システムのみならず、その周辺分野にわたる広範囲な視野を有すること。

※標準修業年限は 2 年。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

工学研究科の機械工学専攻・先端機械コースは、機械技術・機械システム分野における専門的知識と技術を修得でき、かつ論理的思考力を涵養する科目を体系的に学習できるように教育課程を編成し、実施します。

また、幅広く深い学識、研究能力及び課題探求能力を身につけた国際性豊かな人材を養成します。

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
		H27	H28									
	機械工学特別演習Ⅰ	随時	随時	1	2	必	1	通年	常	コース主任ほか		工業
	機械工学特別演習Ⅱ	随時	随時	1	2	必	2	通年	常	コース主任ほか		工業
	機械工学グループ輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	工業
	機械工学全体輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	コース主任ほか		工業
	機械工学特別研究	随時	随時	3	6	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	
材料・加工 システム	有限要素法特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	五味 健二		工業
	材料工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	大澤 基明		工業
	材料力学特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	一瀬 謙輔		工業
	機械加工工学特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	森田 晋也		工業
	塑性学特論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	柳田 明		工業
計測・制御 システム	振動のモデリングと解析		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	佐藤 太一		工業
	知能ロボット工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	栗栖 正充		工業
	バイオ・マイクロマシン特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	伊東 明俊	公開科目	工業
	メカニカル制御特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	藤田 壽憲		工業
	車両運動制御特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	清水 康夫		工業
	精密測定特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	古谷 涼秋		工業
光応用 システム	光応用工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	堀内 敏行		工業
	光微細加工技術特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常	堀内 敏行		工業
医療・福祉 システム	生体システム特論	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	三井 和幸		工業
	医用工学機器論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	伊藤 裕		工業
	メディカル・メカトロニクス	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常	土肥 健純		工業
	科学英語	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	コース主任	コロラド大学英語短期研修	工業
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1	集中		()	1年生のみ履修可能	
	総合技術特別講義	●	●	1	2	選	1・2	通年	常*	陶山 健仁ほか		
	融合技術戦略特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	柏崎 尚也ほか	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間に 合わせて開講	
	インターンシップ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	コース主任		
	燃料電池工学		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	西川 尚男		工業
	ネットワークロボティクス	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常*	鈴木 剛		工業

注1)開講区分欄「○●」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講

注2)常勤非常勤欄「*」=兼担者、「△」=客員教員

注3)「公開科目」は、本学大学院生以外の一般社会人向けに受講生募集を行っている科目。

2015（平成 27）年度カリキュラム

機械工学専攻 先端機械コース 修士課程 カリキュラムマップ

		1 年		2 年		備考
		前期	後期	前期	後期	
専門性の涵養	材料・加工システム分野		材料力学特論 2	材料工学特論 2	有限要素法特論 2	
			塑性学特論 2		材料力学特論 2	
			機械加工学特論 2			
			有限要素法特論 2			
	計測・制御システム部門	バイオ・マイクロ 2 マシン特論		振動のモデリング 2 と解析	精密測定特論 2	
		メカニカル制御特 2 論		知能ロボット工学 2 特論		
				バイオ・マイクロ 2 マシン特論		
				メカニカル制御特 2 論		
	光応用システム部門	光微細加工技術特 2 論			光応用工学特論 2	
	医療・福祉システム部門	メディカル・メカ 2 トロニクス	生体システム特論 2		医用工学機器論 2	
	機械工学特別演習 I 2		機械工学特別演習 II 2			
	機械工学グループ輪講				2	
	機械工学全体輪講				2	
	機械工学特別研究				6	
				燃料電池工学 2	2	
学際性の涵養		ネットワークロボ 2 ティクス	MOT 概論 2		MOT 概論 2	
		総合技術特別講義 2		総合技術特別講義 2		
		融合技術戦略特論 2				集中
国際性の涵養		科学英語 2		科学英語 2		集中
		Practical English for Global Engineers 2				集中
キャリア形成		インターンシップ 2		インターンシップ 2		集中

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目

※ ピンクは必修

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《機械工学専攻》

●先端機械コース

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
伊 藤 裕 1号館 10813 (3104)	・メカトロニクス ・医用精密工学	・VRを利用した機械作業シミュレーション ・機構設計のための会話型メカトロニクスシミュレータの開発 ・障害者支援機器・装置の開発研究
大 澤 基 明 1号館 10814B (3108)	・材料工学	・鋼の表面改質 ・ステンレス鋼のレーザ成形 ・鋼の相変態シミュレーション ・金属組織の画像解析
佐 藤 太 一 1号館 10814A (3109)	・振動工学 ・音響工学	・構造物の動的設計法に関する研究 ・防振要素・技術の開発 ・音響情報によるヒトの動作制御に関する研究 ・医療・福祉のための音の利用に関する研究
清 水 康 夫 1号館 11413B (3114)	・自動車工学 ・メカトロニクス ・車両運動制御	・次世代磁石レスモータの実用化研究 ・操舵装置の操舵感と次世代機能開発の研究 ・自律走行のための操舵理論の研究 ・モータ応用技術（電動ダンパ回生）の研究と開発
土 肥 健 純 1号館 10806 (3107)	・医療・福祉工学	・手術支援ロボット ・手術支援3次元医用画像表示 ・手術支援MEMSセンサ ・過冷却凍結保存（血小板、女子卵巣） ・福祉用磁気刺激
藤 田 壽 憲 1号館 10803B (3113)	・流体計測制御 ・空気圧システム	・空気圧ペロースによるナノ位置決め制御 ・マイクロ空気圧吸着機器の開発 ・風力コンプレッサの開発 ・サーボ弁特性を考慮した空気圧システムの制御

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
古 谷 涼 秋 ☆ 1号館 10804A (3111)	・ 計測工学 ・ 精密測定	・ 三次元位置の超精密測定 ・ 三次元測定機用プローブの研究 ・ 三次元測定機の動的挙動の研究 ・ 光学式三次元測定機の評価法 ・ 三次元測定機の機構パラメータの校正法 ・ シミュレーションメソッドによる不確かさ推定に関する研究
堀 内 敏 行 1号館 10804B (3103)	・ リソグラフィ ・ 光応用技術 ・ 機械設計	・ 光リソグラフィ用簡易露光装置の研究 ・ 光リソグラフィ用新露光技術の研究 ・ 光露光を応用したマイクロ部品製作技術の研究 ・ 小型飛翔ロボットに関する研究
三 井 和 幸 1号館 10805A (3102)	・ 医用精密工学 ・ 機能性材料 ・ 生体計測 ・ システム工学	・ EAM（電氣的吸引材料）を用いた福祉機器の開発 ・ EHD現象を応用した新しいソフトアクチュエータの開発と医療ロボットへの応用 ・ 心臓不整脈解析シミュレーション
森 田 晋 也 1号館 10803A (3106)	・ ナノ精度加工 ・ 光学素子製造技術 ・ 加工計測形状処理	・ 超精密加工におけるオンマシン計測 ・ 離散的形状処理手法によるCAM ・ 光学素子における魔鏡効果シミュレーション ・ 新奇光学素子製造技術に関する研究
柳 田 明 1号館 10805B (3105)	・ 塑性加工 ・ 計算力学	・ 強加工を利用した高強度・高機能材料の開発 ・ 熱間・冷間板成形におけるトライボロジー ・ 熱間流動応力の高精度測定に関する研究 ・ 塑性加工の数値シミュレーション

☆：専攻主任 ★：専攻主任補佐

情報通信工学専攻

Information and Communication Engineering

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導教員等の専門分野と研究指導テーマ

情報通信工学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

情報通信工学専攻は、学部教育で養った情報・コンピュータ技術と通信技術の両分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術をさらに発展・進化させ、情報通信分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を育成することを目的とします。

すなわち、情報通信工学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理感を持ち、現代社会での情報通信工学分野の問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行います。

学位授与方針（ディプロマポリシー）

工学研究科の情報通信工学専攻は、本研究科の学位授与方針をもとに、本専攻に所定の期間在学し（※）、以下のすべてを満たした者に対して、修士（工学）の学位を授与します。

- (1) 高度情報化社会における困難な技術課題に対応できる問題解決能力、並びに深い考察力と課題解決力を兼ね備えること。
- (2) 専門的な知識・技術・技能に基づいて自立した研究活動を行い、その結果を論文化して報告できる能力を有すること。
- (3) 情報・コンピュータ技術と通信技術の両分野に関して、幅広い視野を有すること。

※標準修業年限は2年。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）

工学研究科の情報通信工学専攻は、情報通信工学分野における装置の設計製作からシステムの運用評価まで、幅広いカリキュラムを体系的に学習できるように教育課程を編成し、実施します。

また、現代社会及び近い将来において解決が必要な情報通信工学分野の課題を探究し、国内外の文献調査、学会・シンポジウム等への参加を通じて、国際性を涵養します。

平成27年度入学者カリキュラム												
部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
		H27	H28									
	情報通信工学特別演習Ⅰ	随時	随時	1	2	必	1	通年	常	専攻主任ほか		工業
	情報通信工学特別演習Ⅱ	随時	随時	1	2	必	2	通年	常	専攻主任ほか		工業
	情報通信工学グループ輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	工業
	情報通信工学全体輪講	随時	随時	1	2	必	1～2	年次継続	常	専攻主任ほか		工業
	情報通信工学特別研究	随時	随時	3	6	必	1～2	年次継続	常	研究指導教員ほか	3年制社会人コースは 2・3年次の配当 研究指導教員が担当する	
情報 システム	情報ネットワーク工学特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	吉浦 紀晃		情報
	非同期システム特論		●	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	上野 洋一郎		工業
	ソフトウェア開発論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	佐伯 元司		情報
	人間情報システム特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	川澄 正史		情報
	現代暗号工学	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	齊藤 泰一	公開科目	工業
	アルゴリズム論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	坂本 直志		情報
情報処理	コンピュータグラフィックス特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	齊藤 剛	公開科目	情報
	マルチメディアデータベース	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	井上 潮	公開科目	情報
	パターン認識特論		●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	長谷川 誠		情報
	言語メディア特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	網川 博之		情報
	デジタル音響処理	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常	金田 豊		工業
	人工知能		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	月本 洋		情報
	映像工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	浮ヶ谷 文雄		情報
	音メディア特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	小坂 直敏		
通信 システム	デジタル通信特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	高村 誠之		情報
	通信システム特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	松本 隆男		工業
	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)		()	公開科目	情報
	光通信工学		○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	森 邦彦		工業
	ネットワークロボティクス	○		1	2	選	1・2	半期(前)	常	鈴木 剛		工業
	無線システム工学特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	小林 岳彦		工業
	電波情報工学特論	●		1	2	選	1・2	半期(後)	非	福田 盛介		工業
	アンテナ工学	○		1	2	選	1・2	半期(後)	非	鹿見嶋 憲一		工業
	半導体デバイス特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	本橋 光也		
	科学英語	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	専攻主任	コロラド大学英語短期研修	
	Practical English for Global Engineers	○	○	1	2	選	1	集中		()	1年生のみ履修可能	
	総合技術特別講義	●	●	1	2	選	1・2	通年	常*	陶山 健仁ほか		
	融合技術戦略特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非	渡邊 政嘉	「融合技術戦略特論」は、集中講義で開講	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	柏崎 尚也ほか	e-campus科目のため、理工学研究科授業時間 に合わせて開講	
	インターンシップ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	専攻主任		
	ロボット工学		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	五十嵐 洋		工業
	バイオマゲネティズム	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常*	栗城 眞也		工業
	知能ロボット工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	栗橋 正充		工業
	ビジュアルコンピューティング特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常*	高橋 時市郎		情報
	デジタルフィルタ特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	陶山 健仁		情報
	現代制御論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常*	吉田 俊哉		情報

注1) 開講区分欄 「○●」＝昼夜開講、「○」＝昼間開講、「●」＝夜間開講、「随時」＝随時開講

注2) 常勤非常勤欄 「*」＝兼任者、「△」＝客員教員

注3) 「公開科目」は、本学大学院生以外の一般社会人向けに受講生募集を行っている科目。

2015（平成 27）年度カリキュラム

情報通信工学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

		1 年		2 年		備考
		前期	後期	前期	後期	
専門性の涵養	共通	情報通信工学特別研究				6
		情報通信工学グループ輪講				2
	情報システム	ビジュアルコン 2 ピューティング特 論	バイオマグネティ 2 ズム	ロボット工学 2	半導体デバイス特 2 論	
				知能ロボット工学 2 特論	デジタルフィル 2 タ特論	
				ビジュアルコン 2 ピューティング特 論	現代制御論 2	
		人間情報システム 2 特論	現代暗号工学 2 アルゴリズム論	非同期システム特 2 論	情報ネットワーク 2 工学特論	
	情報処理	ディジタル音響処 2 理	コンピュータグラ 2 フィックス特論	パターン認識特論 2	コンピュータグラ 2 フィックス特論	
		音メディア特論 2	マルチメディア 2 データベース 言語メディア特論 2	映像工学 2	言語メディア特論 2	
	通信システム	ディジタル通信特 2 論	デジタル放送論 2	通信システム特論 2	光通信工学 2	
		ネットワークロボ 2 ティクス	電波情報工学特論 2 アンテナ工学 2	無線システム工学 2 特論	デジタル放送論 2	
	学際性の涵養	情報通信工学全体輪講				2
		総合技術特別講義		総合技術特別講義		2
国際性の涵養		情報通信工学特別演習 I		情報通信工学特別演習 II		2
		科学英語		科学英語		2 集中
		Practical English for Global Engineers				2 集中
キャリア形成			MOT 概論 2		MOT 概論 2	
		インターンシップ		インターンシップ		2 集中
		融合技術戦略特論 2				集中

※ 2 年次科目で、網掛けの科目は、1・2 年配当、毎年開講科目

※ ピンクは必修

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《情報通信工学専攻》

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
井 上 潮 1号館 11209A (2311)	・データ工学 ・データベースシステム	・地理情報システムの研究 ・インターネット情報検索の研究 ・教育支援データベースの研究
金 田 豊 1号館 11218A (2302)	・音響信号処理	・音響計測技術の研究 ・音源方向検出の研究 ・高品質受音処理の研究 ・電車内放送音声高品質化の研究
小 林 岳 彦 1号館 11216B (2310)	・ワイヤレスシステム工学	・UWB ワイヤレスシステム ・次世代モバイル通信ネットワークとそのトラ ヒック特性 ・モバイル通信の電波伝搬 ・ワイヤレスシステムにおける失敗例の研究
齊 藤 泰 一 1号館 11205A (2312)	・情報セキュリティ	・暗号理論・暗号アルゴリズムの研究 ・代数的アルゴリズムの研究 ・ネットワークセキュリティの研究
鈴 木 剛 1号館 11409A (2304)	・ネットワークロボティクス ・マルチロボットシステム ・ロボットの遠隔操作シス テム	・マルチロボットセンサネットワーク ・マルチロボット協調システムおよび要素技術の 開発 ・ロボット群の遠隔操作
月 本 洋 ☆ 1号館 11208B (2318)	・人工知能 ・データマイニング	・脳機能画像解析法の研究 ・ロボットの自律的言語機能の研究
長 谷 川 誠 1号館 11213A (2313)	・画像処理	・画像処理 ・画像データ圧縮 ・パターンマッチング
松 本 隆 男 1号館 11213B (2309)	・通信システム	・光ファイバネットワーク構成法 ・光および電波によるネットワーク構成法
本 橋 光 也 4号館 40706B (2320)	・半導体工学 ・マイクロナノデバイス	・Si 系量子構造膜の作製と特性 ・ナノ構造シリコンの作製とデバイス応用 ・プラズマの生成と表面特性改善

☆：専攻主任

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第3章 履修案内

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 皆さんへの情報伝達・連絡の方法

みなさんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDA+UNIPA（以下、UNIPA（ユニパ））で「掲示」します。「掲示」とは、UNIPA の閲覧システムに表示される通知や連絡のことです。

講義の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録（受講する科目の選択）や成績の発表、学生生活に必要な情報など、あらゆる連絡・手続きの手段として UNIPA を利用します。

自分で責任を持って、必ず毎日複数回 UNIPA を確認し、見落としや手続き漏れが生じないように注意して、充実した学生生活を送ってください。

UNIPA に関しては、P.67「学生ポータルサイト「DENDAI-UNIPA」操作マニュアル」で詳しくご案内していますので確認してください。

The screenshot displays the TDU Student Portal Site (DENDAI-UNIPA) interface. At the top, there's a header with the TDU logo and navigation links like 'ホーム', 'メール設定', 'サイトマップ', and 'ログアウト'. Below the header, there's a main content area with a sidebar on the left containing a calendar for December 2014 and a section for '授業情報' (Lecture Information) showing dates 12月16日(火) and 12月17日(水). The main content area has several announcement sections: '教員からのお知らせ' (Announcement from Teachers), '休講・補講・教室変更' (Lecture/Supplementary Lecture/Class Change), '授業に関するお知らせ' (Lecture Related Announcements), and '学生生活全般に関するお知らせ' (General Student Life Announcements). Each section has a '全授業' (All Lectures) button and a list of announcements.

UNIPA 画面

2 履修登録

授業科目配当表、時間割表をもとに研究指導教員に確認のうえ、指示された方法に従い、履修登録を行ってください。履修登録をしていない科目（無届科目）の受講・受験は許されません。また、単位の認定も行われません。

履修登録の変更、追加は履修登録期間中、履修登録確認および修正期間中に UNIPA で行って下さい。履修登録の詳細（方法や期間）は、掲示等で案内します。

3 履修することができる授業科目

履修登録をすることにより、次の授業科目を履修することができます。

① 自分の所属する専攻の授業科目

Web にて履修登録を行います。

（注）以下の各専攻の科目は、工学研究科の在学年限中受講し、修了年次において成績評価がされる科目となります。

- ① グループ輪講
- ② 全体輪講
- ③ 特別研究

② 工学研究科内の他専攻・他コースの授業科目

工学研究科内の自己の所属する専攻及びコースに配当されていない授業科目は、学習上必要な場合、研究指導教員の許可を得て、UNIPA にて履修登録をすることができます。履修科目数の制限はありませんが、修了要件単位に算入することのできる単位は「他研究科の科目」「特例扱いの科目」等とあわせて 10 単位までです。

③ 本学学部・他研究科における授業科目

工学研究科では、下記の科目は、研究指導教員および専攻主任の承認に基づき、事前に科目担当教員の承認印を得た①は聴講願、②は履修登録願を工学部・未来科学部事務部へ提出することで①は聴講、②は履修登録の許可を行います。

①本大学学部の科目

聴講のみ可能とします。単位認定は行いません。

②本学大学院の他の研究科の科目

「他専攻・他コースの科目」「特例扱いの科目」等とあわせて 10 単位を上限として修了要件単位に算入することができます。

④ 特例扱い

以下のものについては、所定の要件を充たせば本学で履修したものと同様に扱われます。「他専攻・他コースの科目」「特例扱いの科目」等とあわせて10単位を上限として、修了要件単位に算入できます。研究指導教員と相談のうえ、工学部・未来科学部事務部で手続きを行い、工学研究科委員長の承認を得る必要があります。詳細は大学院学則第15条～第17条をお読み下さい。

- (1) 他大学の大学院（東京理工系4大学・首都大学院コンソーシアム）または外国の大学院において履修した授業科目
- (2) 入学前の既修得単位
- (3) 他の大学院または研究所等における研究指導

4 他大学院との単位互換協定に基づく 授業科目履修の扱い

工学研究科では、大学間の学術交流を通じて大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、首都大学院コンソーシアム、東京理工系4大学と単位互換協定を結んでいます。

本協定により、希望者は所定の手続きをとることにより、各大学院の授業科目を受講することができます。これにより取得した単位は、本学工学研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その取得した単位のうち10単位を超えない範囲で、工学研究科における授業科目の履修により取得したものとしてみなされます（大学院学則第15条）。この協定に基づく履修手続きの詳細は履修登録期間前にお知らせします。科目によっては、有料となる場合があります。

協定大学

- ・ 首都大学院コンソーシアム大学
共立女子大学、順天堂大学、専修大学、玉川大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学
- ・ 東京理工系4大学
東京都市大学（旧：武蔵工業大学）、工学院大学、芝浦工業大学

5 3年制社会人コースの履修

3年制社会人コースに在籍する学生の履修については、次のとおりとなりますが、ここに記載されていないことについては、一般の学生と同様となります。他の項目にも十分目を通して下さい。

- ① 各年度の授業科目配当は、専攻毎の科目配当表のとおりです。
- ② 必修科目のうち「特別演習Ⅰ」は1年次、「特別演習Ⅱ」は2年次の修得を推奨します。
- ③ 必修科目の「全体輪講」は原則1～2年次の配当、「特別研究」「グループ輪講」は

2～3年次の配当とします。
いずれの科目についても、2年間の履修で単位認定します。

6 昼夜開講制の実施

工学研究科では「昼夜開講制」を実施しております。具体的には、授業科目によっては昼間5時制限の時間帯に加え夜間6時限（18：10～19：40）7時限（19：50～21：20）の時間帯を設けています。

7 授 業

① 授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目および単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

② 学 期

前 期 4月1日～9月上旬まで

後 期 9月上旬～翌年3月31日まで

詳細はその年の学事日程を確認してください。

③ 授業時間

時 限	時 間
1時限	9：00～10：30
2時限	10：40～12：10
3時限	13：10～14：40
4時限	14：50～16：20
5時限	16：30～18：00
6時限	18：10～19：40
7時限	19：50～21：20

④ 休講・補講・集中講義

（1）休講

学校行事を行う場合、科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、掲示等で知らせます。

（2）補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や掲示等により連絡します。

（3）集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。
なお、詳細な日程については、決まり次第、掲示等で連絡します。

⑤ 交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置については原則、下記のとおり
の対応となりますが、緊急事態の発生状況により別途授業措置が行われる場合があります。
この授業措置については、大学発表の大学ホームページ及びポータルサイトにて周知しま
す。また授業開始以後に発令された場合には、学内放送等でも最新情報を発信しますので
注意してください。

（1）交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏ＪＲ各線及び東京千住キャンパス最寄駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗り入れる
私鉄・地下鉄各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取扱いは次のとお
りです。

- 1) 午前 6 時において運休の場合は、第 1・2 時限目の授業は休講となります。
 - 2) 午前 9 時において運休の場合は、第 3・4・5 時限目の授業は休講となります。
 - 3) 午後 3 時において運休の場合は、第 6・7 時限目の授業は休講となります。
- ※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

（2）台風等による暴風警報が発令された場合

東京 23 区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- 1) 午前 6 時において暴風警報が発令されている場合は、第 1・2 時限目の授業は休講
となります。
- 2) 午前 9 時において暴風警報が発令されている場合は、第 3・4・5 時限目の授業は
休講となります。
- 3) 午後 3 時において暴風警報が発令されている場合は、第 6・7 時限目の授業は休講
となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化する
ことがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を
必ず確認してください。

また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、大学ホームページ及び
ポータルサイトで授業措置の情報を発信します。

（3） その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があ

ります。その場合には、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自確認してください。

8 シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは UNIPA にて閲覧できます。

9 学力考査及び成績評価

① 学力考査

学力考査は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって学力考査に代えることがあります。

なお、学力考査は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

② 成績評価

成績は S・A・B・C および D の評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

可否	評点	成績評価	GPA ポイント
合格	90～100	S	4
	80～89	A	3
	70～79	B	2
	60～69	C	1
不合格	0～59	D	0
	放棄	—	0

※自由科目は、GPA 計算には含まれません。

※ R…認定された科目。GPA 計算には含まれません。

※ 成績証明書には D・— は表記されません。

※ $GPA = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得た GPA ポイント}) \text{の合計}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$

※ GPA は小数点第 4 位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

③ 成績通知

前年度末までの成績通知は3月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前9月に行います。
成績通知の方法、期間はUNIPAにて知らせます。

10 研究指導実施体制

① 指導体制

- (1) 各専攻主任・コース主任は、学生の希望を考慮に入れて、学生の所属する専攻・コースの研究指導教員（MO合）の資格を有する研究指導教員を決定します。
- (2) 各専攻主任・コース主任及び研究指導教員は、前期終了までに副研究指導教員1名を決定し、効果的な指導のための複数指導体制を整えます。場合によっては、各専攻主任・コース主任及び研究指導教員の責任において、指導体制を変更することを可能とします。
- (3) 副研究指導教員は、研究指導教員（MO合）の資格を有する者とし、原則、学生の所属する専攻・コースの者としします。

② 研究指導内容

- (1) 専門分野に関わる知識・情報を学生に提供しつつ、学生の進める研究活動を指導します。
- (2) 研究指導教員及び副研究指導教員は、学生に研究計画書を作成させ、定期的に面談を行い、以下の指導・助言を行います。
 - ・研究課題の設定。
 - ・授業履修（専門研究科目の選択など履修全般）の計画。
 - ・修了に向け、研究活動の進捗状況を確認。必要に応じて研究課題、研究方法また学会発表などの研究スケジュール等の計画・見直し。
- (3) 研究指導教員は、研究指導の一環として、必要に応じ国内外の学会等における学生の論文発表等の指導を実施します。
- (4) 本研究科が定める『修士論文の審査基準』に基づき、研究指導教員を含む複数の審査員が修士論文の審査を行います。

③ 他の大学院または研究所等において指導を受ける学生（連携大学院方式を含む）

- (1) 研究指導教員は、学生の受入先である学外研究機関と連携を密にとり、①・②の指導体制・研究活動等の体制を整えます。

11 修了要件

① 修了単位

課程を修了するためには、修士課程に2年以上在学し、自由科目を除き、各専攻が定める所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければなりません。

在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができます。

② 修士論文の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されている本研究科の『人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的』に即し、当該研究領域における修士としての確かな基礎学力を有し、独創性、創造性のある研究能力、実践的問題解決能力等を中心に、次の基準に基づき審査されます。

なお、論文審査及び学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は、公聴会形式で行うとともに、最終試験として、研究指導教員を含む審査員による口答試問が行われます。

- (1) 当該研究領域において修士としての確かな基礎学力を修得しているか。
- (2) 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行および論文作成にあたっての問題意識が明確であるか。
- (3) 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験を行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされているか。
- (4) 論文記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、序文・本文・結論までが首尾一貫した論理構成となっているか。
- (5) 問題点の的確な整理、把握、判断、解決までの実践的問題解決能力が身についているか。
- (6) 該当研究領域において、独自の価値、新規性、有用性、信頼性を有するものとなっているか。

③ 早期修了条件について

「優れた業績をあげた者」については、1年間以上の在学期間での修了を認めます。早期修了を希望する場合には、専攻主任、研究指導教員に相談してください。

12 学 位

工学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類およびそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

電気電子工学専攻	修士（工学）
物質工学専攻	修士（工学）
機械工学専攻	修士（工学）
情報通信工学専攻	修士（工学）

13 修士論文の取扱い

修士論文の提出および審査手順については「東京電機大学学位規程」（後掲）およびそれに基づく手順内規等があるので、工学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従ってください。

修士論文の提出スケジュール等については、修了年次に UNIPA で確認してください。

論文作成上の注意事項

- （１） 原稿は A 4 判とし、Word 等で作成します。
- （２） 1 ページ目は、表紙とします。
- （３） 本文、資料は通しページにします。「修士論文表紙見本」を参照し、作成して下さい。
- （４） 行数、文字数の指定はありませんが左右 2 センチの余白をとります。

論文予稿の提出（参考：平成 27 年度の場合 平成 28 年 1 月 18 日（月）～ 20（水）まで）

- ① 原稿は A 4 判 4 枚とし、紙媒体で提出します。（提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入してください。）
 - ② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照してください。
詳細は修了年次生に UNIPA で案内します。
- ※予稿は、専攻毎に製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

論文の提出（審査用）（参考：平成 27 年度の場合 平成 28 年 1 月 30 日（土）まで）

- ① 研究指導教員、審査員に 1 部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照してください。

論文の提出（大学保存用）（参考：平成 27 年度の場合 平成 28 年 2 月 29 日（月）まで）

最終版 1 部を PDF ファイル化し、元のデータ（word 等）とともに提出してください。
提出方法は修了年次生に UNIPA で案内します。
※CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

論文審査

論文（審査用）提出後、研究指導教員、審査員による論文審査（通常口頭又は文書）が行われます。試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けてください。

修士論文発表会（参考：平成 27 年度の場合 平成 28 年 2 月 13 日（土）予定）

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は 1 月より準備を開始して下さい。

発表方法等は、UNIPA にて、1 月初旬に発表者へ詳細を連絡します。

【修士論文予稿見本】

論 文 題 目 (英 文 名)	
学籍番号 研究指導教員	氏名 教授 氏名
本 文	

【修士論文表紙見本】

修 士 論 文 論 文 題 目 (英 文 名)
東京電機大学大学院工学研究科 修士課程〇〇〇専攻 学籍番号 氏名 研究指導教員 教授 〇〇 〇〇

14 教育職員免許状

① 取得することのできる教育職員免許状

教育職員免許状には学部卒業を基礎資格とする「1種免許状」と大学院修士課程を基礎資格とする「専修免許状」があります。本研究科修士課程の専攻を修了することにより次の免許教科の専修免許を取得することができます。

専攻	取得できる免許状の種類および教科
電気電子工学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」、「情報」
物質工学専攻	高等学校教諭専修免許状「理科」 中学校教諭専修免許状「理科」
機械工学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報通信工学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」、「情報」

② 専修免許状取得に必要な資格・条件等

次の2つの条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 修士課程修了者または修士課程に1年以上在学し修士課程修了見込みの資格を有する者。
- (2)すでに、同一教科の「高等学校教諭1種免許状」を取得しているか、または免許状を取得してはいないが取得に必要な単位を取得済みであること。
高等学校教諭1種免許状については、学部の教職課程要覧を参照してください。
※1種免許状に必要な単位を取得していない場合は以下の⑤を参照

③ 専修免許状取得に必要な単位

それぞれの免許教科に係わる自専攻科目の単位が24単位以上必要です。

どの授業科目が教科科目の単位として認定されるかは次によります。

- (1)「工業」の専修免許取得に必要な単位
電気電子工学専攻、機械工学専攻、情報通信工学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「工業」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「工業」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。
- (2)「情報」の専修免許取得に必要な単位
電気電子工学専攻、情報通信工学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「情報」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「情報」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。

- (3) 「理科」の専修免許取得に必要な単位
物質工学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「理科」である科目の単位は、中学校教諭専修免許状「理科」、高等学校教諭専修免許状「理科」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。

④ 免許状申請手続

- (1) 一括申請（修士課程修了時に専修免許状を取得）
大学で免許取得希望者の手続を一括して東京都教育委員会に申請し、修了式の当日に各自へ教育職員免許状を交付します。
- (2) 個人申請
修士課程修了後に個人で教育職員免許状を取得することもできます。住所地の都道府県教育委員会に問い合わせ、必要な手続を行ってください。

⑤ 学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者、又は学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していても免許状をもっていない者

学段落階で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者であっても、修士課程で教育職員免許状を取得する道があります。いろいろなケースがありますので、学年始めに必ず工学部・未来科学部事務部にて個別に相談してください。

また、学部在学中に適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わることがあります。その場合は取得しなければならない科目が増えたりすることもありますので注意してください。手続き等の詳細については、UNIPAで配信される掲示の指示に従ってください。

15 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学

先端科学技術研究科博士課程（後期）に進学を希望する者は、できるだけ多くの科目を幅広く履修しておくことが望まれます。

なお、被推薦資格等については、先端科学技術研究科博士課程（後期）学内推薦入試募集要項を参照してください。

16 留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での語学研修や留学プログラムに参加することを、推奨しています。3週間程度の語学研修から1年未満の留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等も含めて計画的に検討するようにしてください。

(1) 留学・海外語学研修の種類

①英語短期研修

海外協定校にて実施されている英語短期研修プログラムは以下のとおりです。各大学の語学教師による少人数教育であり、所定の成績を修めれば「科学英語Ⅰ」の単位として認定されます。

1) コロラド大学ボルダー校（米国）：8月に実施（約3週間）、募集は5月頃

②その他の海外研修

単位の認定はありませんが、上記に加えて以下の語学研修等を実施しています。

（いずれも主に学部生を対象としていますが、応募者数等により大学院生の派遣も検討しますので、国際センターに問い合わせをしてください）

1) 韓国語研修：大邱大学（韓国）にて、8月に実施（約3週間）、募集は5月頃

2) 中国語研修：中原大学（台湾）にて、3月に実施（約3週間）、募集は10月頃

3) インドネシア研修：ヌサンタラマルチメディア大学（インドネシア）にて3月に実施（約2週間）、募集は10月頃

③協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

④認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

※本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。

留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があり、事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないので注意してください。

(2) 留学・海外語学研修への参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

①海外語学短期研修

これまでに語学研修の募集要項や参加した学生の報告を国際センターで閲覧できますので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

②留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、TOEFL（Test of English as a Foreign Language）などの受験とそのスコアカードが必要です。留学先により基準となる点数があり、それを満たすためには通常半年から1年の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科および工学部・未来科学部事務部の履修指導を受けてください。

(3) 国際センターについて

国際センター（東京千住キャンパス 2 号館 3 階 9 時～17 時）

「国際センター」では TDU の特色を活かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流を進めるために、あるときは留学生の日常的な相談相手として、またあるときは日本人学生の海外留学のお手伝い役として、さまざまな支援を行っています。

国際センター千住ラウンジ（東京千住キャンパス 1 号館 4 階 10 時～17 時）

「国際センター千住ラウンジ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

17 連携大学院協定研究所

本学大学院では、教育研究の充実を図るとともに、学術及び科学技術の発展に寄与することを目的とし、大学院生の研究指導を以下の研究機関と連携して行っています。

研究機関名	客員教員名
独立行政法人 理化学研究所	吉田稔 杉岡幸次 高橋俊二 姫野龍太郎
独立行政法人 産業技術総合研究所	富永淳二 高辻利之 鎮西清行
財団法人 電力中央研究所	植本弘明 中島慶人
財団法人 国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研究所	田辺圭一 安達成司
独立行政法人 宇宙航空研究開発機構	高戸谷 健
独立行政法人 海上技術安全研究所	—
独立行政法人 情報通信研究機構	山本直克
独立行政法人 物質・材料研究機構	高野義彦 北澤英明
日本放送協会放送技術研究所	菊池 宏
独立行政法人 労働安全衛生総合研究所	佐々木哲也 本田尚 山際謙 山口篤太志

18 履修証明プログラム

本プログラムの詳細は、工学部・未来科学部事務部窓口で問い合わせてください。

学生ポータルサイト 「DENDAI – UNIPA」

操作マニュアル

（「シラバス閲覧」「履修登録」
「授業資料のアップ・ダウンロード」「成績確認」等）

2015 年 4 月版

新入生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施設

学則・規程

沿革

校歌・学生歌

キャンパス案内

学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」

目次

■	学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」	
1.	学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」について	69
2.	「DENDAI－UNIPA」閲覧可能パソコンについて	69
■	「DENDAI－UNIPA」へのアクセス・ログイン	
1.	「DENDAI－UNIPA」へのアクセス・ログイン方法	70
2.	「DENDAI－UNIPA」の画面構成	72
3.	注意事項	73
■	掲示情報の確認	
1.	掲示について	75
■	シラバスの閲覧	
1.	オンラインシラバスについて	76
2.	シラバスの閲覧方法	77
3.	他画面からのシラバス参照	79
■	Webによる履修登録方法	
0.	全体の流れ	80
1.	「DENDAI－UNIPA」へのログイン	81
2.	履修希望科目の選択	82
3.	エラーチェック	84
4.	履修登録の確定	86
5.	卒業見込判定	87
6.	履修登録科目の確認方法	88
7.	履修登録に関するFAQ	89
■	クラスプロフィール	
1.	クラスプロフィールについて	90
2.	授業資料のダウンロード方法	91
3.	授業課題の提出方法	92
■	出席確認	
1.	出席情報の確認について	94
■	成績確認	
1.	成績の確認について	96
■	その他の主な機能	
1.	個人別情報について	97
2.	メール設定について	98
3.	時間割について	99

学生ポータルサイト 「DENDAI－UNIPA」

1. 学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」について

学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」は、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・成績照会・課題提出など、様々な機能を使用することができるシステムです。

本学で学生生活を送るためには必ず使用することになります。

また、個別の学生呼出しなども「DENDAI－UNIPA」上で行いますので、1日に複数回、確認するよう心がけてください。

なお、学生の時間割確認・成績照会・出席情報については、保証人も閲覧できるように、入学時の前期の成績通知までにIDを発行しています。

2. 「DENDAI－UNIPA」閲覧可能パソコンについて

「DENDAI－UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコンであれば、学内外を問わず自由に閲覧することができます。

動作環境について

Internet Explorer 7/8/9/10、Mozilla Firefox、Safari 5.1、Chrome のブラウザで動作確認をしています。

※ Mozilla Firefox、Chrome は最新版の利用を推奨します。

本文中に記載の「画面デザイン」や「メニュー（機能）構成」等は今後変更になる場合があります。

「DENDAI – UNIPA」 へのアクセス・ログイン

1. 「DENDAI – UNIPA」 へのアクセス・ログイン方法

1 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセスします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>

2 ログイン画面が開きます。

3 User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、

ログイン

をクリックします。(図 1)



- ※ ログインには本学のネットワークを利用するための ID（学籍番号）およびパスワードが必要です（例：15ej999 ※学籍番号の英字部分は小文字で入力してください）。
- ※ 新入生への初期パスワードは入学時にお知らせします。

TDU

東京電機大学
学生ポータルサイト

ログイン

User ID

15ejXXX

PassWord

●●●●

ログイン

ゲストユーザー

ログインにはユーザID(学籍番号)と共通パスワードが必要です。
 (学籍番号の英文字は小文字で入力してください。)
 (※教職員は専用のパスワードを入力してください。)

※Internet Explorer10、Firefox22以上で動作確認を行っています。
 ※携帯電話には対応していません。

毎日、下記時間にシステムメンテナンスを行いますので、
 この間は、システムをご利用いただけません。

停止時間: 深夜3時00分～5時30分

【ポップアップブロックについて】

ポータルサイト内では、ポップアップを多用しています。

ポップアップブロック機能が有効な場合、ページが開かない場合がございますので、

以下の方法で解除を行ってください。

Internet Explorerの場合

Firefoxの場合

Google Chromeの場合

Googleツールバーを利用している場合

図 1 ログイン画面

4 入力に誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されます。(図 2)

正しく入力しているにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は総合メディアセンターまたは工学部・未来科学部事務部に申し出てください。

The screenshot displays the login interface of the TDU (Tokai University) student portal. At the top, a light gray banner contains a lightbulb icon and the text "ユーザIDまたはパスワードが正しくありません。" (User ID or password is incorrect). Below this, the TDU logo and the text "東京電機大学 学生ポータルサイト" (Tokai University Student Portal Site) are centered. The main login area is a gray box titled "ログイン" (Login). It contains two input fields: "User ID" with the text "15ejXXX" and "PassWord" which is empty. Below these fields is a "ログイン" (Login) button. To the right of the login box, there is a link labeled "ゲストユーザー" (Guest User) with a small icon. The entire interface is enclosed in a thin black border.

図 2 ログインエラー表示

2. 「DENDAI – UNIPA」の画面構成

① メニュー

各種機能のメニューです。項目は変更する場合があります。

② トップページ切り替えタブ

トップページの画面を切り替えることができます。

ポータル お知らせ・スケジュール・授業情報などが表示される画面です。

クラスプロファイル 授業ごとに様々な機能を使用することができます。

マイステップ 自分自身の学習記録を記録することができます（教職カルテなど）。

③ お知らせ

各種掲示情報や学生呼出、授業の休講・補講・教室変更、ガイダンス情報、履修に関する連絡等、大切な情報が表示されます。

④ スケジュール・授業情報

大学側があらかじめ登録した学内のイベント・授業情報等のスケジュールが確認できます。

また、**スケジュール** ボタンから自分の予定を登録することもできます。

⑤ お気に入り

大学側があらかじめ設定したリンクのほか、**編集** ボタンから自分のお気に入りのWeb サイトの登録ができます。



図3 トップページ（ポータル画面）

3. 注意事項

(1) セッションタイムアウト

ログインしてから 30 分間操作がない場合、自動的に接続が切断され、再度ログインが必要になります。履修登録の際は特に注意してください。



図 4 セッションタイムアウト

(2) システムメンテナンスによる停止

毎日深夜 3：00 から 5：30 に、システムメンテナンスを行います。
この時間帯は「DENDAI－UNIPA」を使用することはできません。
その他、臨時メンテナンスを行う場合があります。

(3) 前の画面に戻る

前の画面に戻る場合、必ず「DENDAI－UNIPA」の画面内の **戻る** ボタンを使用してください。

画面内に **戻る** ボタンがない場合は、画面上部の **ホーム** ボタンや、各種メニュータブから元の機能に戻ってください。

ブラウザの「戻る」機能では、ブラウザによっては「Web ページの有効期限が切れています」などが表示される場合があります。

(4) ポップアップブロック

「DENDAI－UNIPA」では、ポップアップ画面として表示される画面がいくつかあります。操作方法どおりに操作しても次の画面が表示されない場合、ブラウザのポップアップブロック機能が働いている可能性があります。

そのような場合、ポップアップブロック機能を解除する必要があります。ブラウザによって設定方法が異なりますので、ログイン画面下部の「ポップアップブロックについて」を参照してください。

TDU 東京電機大学
学生ポータルサイト

ログイン

User ID

PassWord

ログイン

 ゲストユーザー

ログインにはユーザID(学籍番号)と共通パスワードが必要です。
(学籍番号の英文字は小文字で入力してください。)

※Internet Explorer7以上、Firefox3.6以上で動作確認を行っております。
※携帯電話には対応しておりません。

毎日、下記時間にシステムメンテナンスを行いますので、
この間は、システムをご利用いただけません。

停止時間:深夜3時00分～5時30分

【ポップアップブロックについて】
ポータルサイト内では、ポップアップを多用しています。
ポップアップブロック機能が有効な場合、ページが開かない場合がございますので、
以下の方法で解除を行ってください。

Internet Explorerの場合
Firefoxの場合
Googleツールバーを利用している場合

掲示情報の確認

1. 掲示について

1. 掲示について

東京千住キャンパスでは、みなさんへの連絡を「DENDAI－UNIPA」上で掲示します。掲示には、学生個人宛のもの、該当する学年・専攻宛のもの、対象科目を限定したものなどの種類がありますが、全て関係のあるものが配信されますので、一日に複数回「DENDAI－UNIPA」を確認してください。

The screenshot displays the TDU (Tokyo Denai University) student portal interface. At the top, there's a header with the TDU logo and navigation links like 'ホーム', 'メール設定', 'サイトマップ', and 'ログアウト'. Below this, a sidebar on the left contains a calendar for December 2014, with the 16th highlighted. The main content area is divided into several sections: '教員からのお知らせ' (Notifications from Faculty), '休講・補講・教室変更' (Class Cancellations, Recitations, and Room Changes), '授業に関するお知らせ' (Notifications about Classes), and '学生生活全般に関するお知らせ' (General Student Life Notifications). Each section includes a '全表示' (Show All) button. The '授業に関するお知らせ' section lists specific notifications about attendance reporting and class recitations.

掲示情報画面



- ※ 各種手続き等の方法や期間などが掲示されますので、毎日必ず確認してください。
- ※ 大学からメールや電話で連絡が届く場合もありますが、原則的には「DENDAI－UNIPA」での掲示にて各種連絡を行います。

シラバスの閲覧

1. オンラインシラバスについて

1. オンラインシラバスについて

授業担当教員が作成する講義要目（シラバス）は、オンライン（web）のみから閲覧することができます。

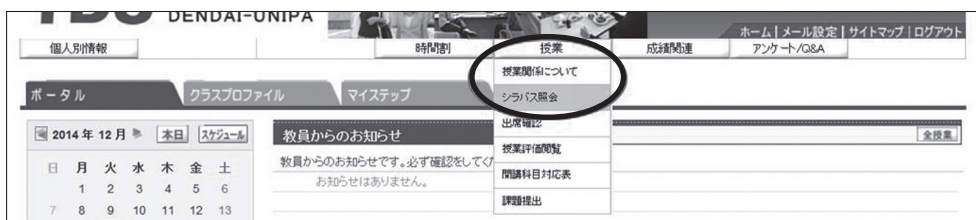
シラバスには、科目名、単位数、担当教員名、目的概要、テーマ・内容、評価方法、教科書名、質問への対応（オフィスアワー）、クラス分け情報、ガイダンス情報等が掲載されています。授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成するためによく確認してください。授業の進度に応じて、シラバス内容を更新する場合もあるので、常時確認してください。

2. シラバスの閲覧方法

- 1 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセス、ログインします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>

- 2 画面上部のメニューから **授業** ⇒ **シラバス照会** をクリックしてください。



- 3 シラバス検索画面が開き、科目名称／教員氏名／曜日時限／キーワード（シラバスの全文検索ができます）の一部または全部を入力し、**検索** をクリックしてください。

シラバス検索

管理部署	全て対象
開講	年度
科目名称	(部分一致:カナ、英語含む)
教員氏名	(部分一致:カナ、英語含む)
学科組織	全て対象
開講キャンパス	全て対象
曜日時限	全て対象 全て対象 ☐ 集中講義など
キーワード	(部分一致)

クリア

検索



- ※ シラバス検索画面の【学科組織】欄にはログインしている学生の所属が自動的に選択されます。
学部や他研究科・他専攻などのシラバスを検索したい場合などは、【学科組織】欄を変更してから検索してください。
- ※ うまく検索結果が表示されない場合、【教員氏名】などの語句を全角カタカナで入力することを推奨します（漢字の表記の違いによる検索漏れを回避できます）。

3. 他画面からのシラバス参照

オンラインシラバスは、「履修登録画面」「学生時間割画面」「クラスプロファイル」からも参照することができます。科目名をクリックすると、シラバス画面が開きます。

履修登録中／履修登録後に自分の履修予定／履修済の授業内容を確認したい場合は、上記各メニューの画面から閲覧すると便利です。

Web による履修登録方法

0. 全体の流れ

履修登録は、原則として学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」上で行うことになります。履修登録は以下のような手順で行います。

1 「DENDAI－UNIPA」 へのログイン

2 履修希望科目の選択

3 エラーチェック

4 履修登録の確定

5 卒業見込判定

6 履修登録科目の確認方法

7 履修登録に関する FAQ

1. 「DENDAI－UNIPA」へのログイン

学生ポータルサイト「DENDAI－UNIPA」へアクセスします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>



※ 「DENDAI－UNIPA」は、ログイン後 30 分間操作がないとタイムアウトになり、再度ログインが必要になります。
確定前の履修登録情報が消えてしまう可能性がありますので、あらかじめ紙に履修計画を書くなどしてから履修登録を行ってください。

2. 履修希望科目の選択

1 「履修登録」画面の選択

画面上部のメニューから **履修登録** をクリックします。(図1)



図1 メニュー

2 授業時限の選択

編集したい授業時限のコマの中の選択ボタンをクリックします。(図2)

※集中講義は画面左下の **集中講義** にある選択ボタンから履修できます。

履修登録

1 授業の選択 ▶ 2 エラー確認 ▶ 3 最終確認 ▶ 4 完了

▶ 履修する授業を選択してください。 ◀

振替状況の確認

時間割表示 一覧表示 履修合計単位 0.0 チェック

2012年度 後期 後期単位 0.0

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	選択	選択	選択	選択	選択	
2		選択	選択	選択	選択	選択
3	選択	選択	選択	選択	選択	選択
4	選択	選択	選択	選択	選択	選択
5	選択	選択	選択	選択	選択	

図2 履修登録画面

3 履修可能科目から科目を選択

「授業の追加」画面に開講科目が表示されますので、履修したい科目にチェックを入れて **確定** をクリックします。(図 3)



※ 同じ科目名が複数ある場合は、ガイダンスの指示やシラバスのクラス分け情報、掲示などで教員氏名をよく確認してから選択してください。

※ 「授業の追加」画面では、科目名をクリックすることでシラバスを確認できます。

授業の追加

閉じる

2012年度 後期 月1

	授業コード	科目名	単位
☐	102282003	化学II【藤本 明】	2.0
☐	102332001	化学実験II【篠崎 閑】 ※	1.0
☐	106142001	物理実験II【長澤 光晴】 ※	1.0
☐	1G0072004	トリムスポーツII【古賀 初】 ※	2.0

確定

図 3 授業の追加画面

4 選択した科目の確認および取消方法

「授業の追加」画面で追加した科目が、履修登録画面に表示されているか確認します。(図 4)

科目を取り消す場合は **削除** をクリックします。

1 授業の選択

2 エラー確認

3 最終確認

4 完了

履修する授業を選択してください。◀

履修状況の確認

時間割表示

一覧表示

履修合計単位 2.0

チェック

2012年度 後期 後期単位 2.0

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	選択 削除 1102282003 化学II【藤本 明】 2603	選択	選択	選択	選択	
2	選択	選択	選択	選択	選択	選択
3	選択	選択	選択	選択	選択	選択
4	選択	選択	選択	選択	選択	選択
5	選択	選択	選択	選択	選択	

図 4 履修した科目の確認

3. エラーチェック

- 1 履修希望科目を全て選択したら、**チェック** ボタンをクリックします。

何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割の曜日
時限コマがピンク色に表示されます。(図5)

- 2 エラーメッセージが出た場合は、画面上部の[登録内容にエラーがあります]のメッセージをクリックし、「エラー内容の確認」画面でエラー内容を確認の上、修正してください。(図6)

- 3 エラーがなくなるまでチェックを繰り返します。

※エラー内容について不明な点がある場合は、速やかに工学部・未来科学部事務部に
申し出てください。

- 4 エラーが全てなくなると最終確認に進みます。

履修登録

1 授業の選択 2 エラー確認 3 最終確認 4 完了

登録内容にエラーがあります。<こちらより内容を確認できます。>

時間割表示 一覧表示 履修合計単位 8.0

2012年度 後期 後期単位 8.0

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
☐ 1102282003 化学II【藤本 明】 2603 ☐ 1102282006 化学II【保倉 明子】 2905 ☐ 1106142003 物理実験II【西田 憲吾】 2603 ☐ 11L0062004 総合英語IV【古成 雄一郎】 2404	☐ 1104402001 情報理論【小山 裕徳】 21003 ☐ 1106142003 物理実験II【西田 憲吾】 2603 ☐ 1106112005 物理学II(標準)【丹羽 翔聡】 2901	☐ 1104822016 線形代数学II【藤澤 太郎】 2505 ☐ 1106112005 物理学II(標準)【丹羽 翔聡】 2901 ☐ 1101292002 フーリエ解析【三橋 聡司】 2504	☐ 11G0162001 大学と社会【大江 正比古】 2505 ☐ 1106392002 量子物理学【千葉 健二】 2503		
☐ 11G0272001 企業と経営【世良 耕一】 21005 ☐ 1105972002 微分積分学および演習II【中島 幸吾】 2603					

図5 チェック後の画面（エラーあり）



- ※ エラーが出ている場合は、登録が未完了です。必ずエラーは修正してください。
- ※ エラーの修正を試みてもエラーが消えない場合には放置せず、履修登録期間内に工学部・未来科学部事務部まで申し出てください。

主なエラーメッセージの例

【同名科目（または同一科目）を複数履修している場合】

⇒「既修得。」

⇒「科目重複。同じ科目がすでに登録されています。」

⇒「複数回修得不可の科目を複数回履修しています。」

⇒「同じ振替科目を複数履修することは出来ません。」

【同じ曜日時に履修することが出来ない複数の科目を選択している場合】

⇒「時間割重複。」

【履修上限単位数を超えて履修登録をした場合】

⇒「履修できる単位数は〇〇単位までとなります。」

■ エラー内容の確認

閉じる

■ 基本、条件エラー

授業コード	開講学期	開講曜日	科目名	単位	メッセージ
1102512002	2012年度 後期	金4	回路理論Ⅱ【西方 正司】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1102512004	2012年度 後期	火4	回路理論Ⅱ【飯田 祥二】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1102512003	2012年度 後期	金4	回路理論Ⅱ【大内 幹夫】	2.0	科目重複。同じ科目がすでに登録されています。
1104822016	2012年度 後期	木1	線形代数学Ⅱ【蔵澤 太郎】	2.0	既修得。
1106112012	2012年度 後期	金3	物理学Ⅱ(標準)【桃沢 信幸】	2.0	既修得。
1105972002	2012年度 後期	月3 木4	微分積分学および演習Ⅱ	4.0	既修得。

■ 制限エラー

制限エラーはありません。

図6 「エラー内容の確認」画面

5. 卒業見込判定

2 年次生は「卒業見込判定」を行うことができます。

- 画面上部のメニューから **成績関連** ⇒ **卒業見込判定** を選択してください。
(図 8)

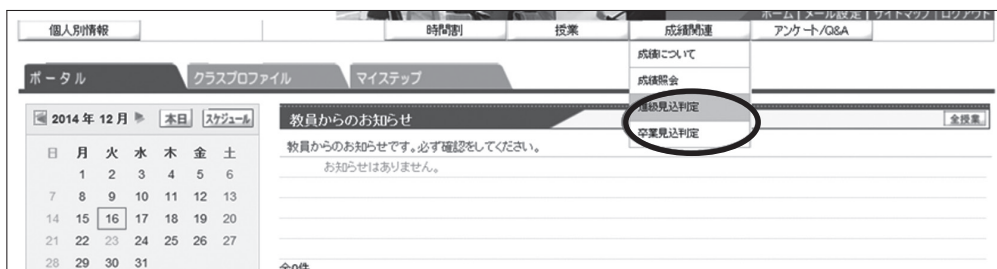


図 8 卒業見込判定選択

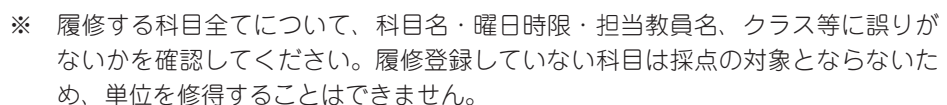
- 判定結果が表示されます。(図 9)
単位数や科目数の不足が表示された場合は、不足を補うよう履修計画を立ててください。

■ 卒業見込判定			
卒業見込条件を満たしていません。			
コード	要素No	要件不足詳細	不足数
1038	1	修了には、30単位以上修得済であること(修了所要単位に算入できる任意選択科目は10単位)。	6.0単位
1042	1	修了には、プログラム必修科目を修得していること。	1科目

図 9 卒業見込判定結果



- ※ 卒業見込判定は何度でも行うことができます。履修登録内容を変更するたびに見込判定画面を確認することをお勧めします。
- ※ 判定は、履修登録した科目を全て修得した場合に、各判定の要件を満たすか否かを表示する機能です。



7. 履修登録に関する FAQ

- Q 携帯電話等から履修登録できますか？
 A 動作確認されていません。動作確認済みの環境で履修登録してください。
- Q 履修登録できない科目がある。
 A すでに修得している、時間割上重複している、カリキュラム年度が異なる等、さまざまな理由が考えられます。工学部・未来科学部事務部に申し出てください。
- Q 何度修正してもエラーメッセージが消えない。
 A そのまま放置せずに、速やかに工学部・未来科学部事務部に申し出てください。
- Q 深夜 3 時～5 時 30 分の間は履修登録期間であっても履修登録ができないのですか？
 A システムメンテナンスを行っていますので、履修登録はできません。
- Q 必修科目も履修登録するのか？
 A 必修科目は、大学で履修登録を行います。各自で履修登録することはできません。
- Q 再履修はどのように履修登録するのか？
 A 大学で履修登録を行う科目以外は、自分自身で履修登録を行ってください。また授業内・シラバス・掲示などで指示がある場合はそれに従ってください。
- Q 履修登録したはずなのに、確認画面に載っていないのはなぜか？
 A 履修登録画面で「チェック」または「確定」をクリックしていない可能性があります。「チェック」または「確定」をクリックしないと、選択内容は登録されません。
- Q 履修登録後に登録間違いに気がついた
 A 一度履修確定した後も、履修登録（履修登録修正）期間内であれば、履修内容の変更は可能です（一部科目を除く）。期間終了後は変更が不可能ですので、注意してください。
- Q Web 履修登録中（ログイン中）に履修登録受付終了時間となったが、履修登録は可能なのか？
 A ログイン中であっても、履修登録受付終了時間を過ぎると、履修登録は不可能となります。時間の余裕をもって履修登録をしてください。
- Q 担当教員が履修登録を許可しているのに、履修登録できない科目がある。
 A 工学部・未来科学部事務部に申し出てください。

クラスプロフィール

1. クラスプロフィールについて

クラスプロフィールは、履修している授業について、授業資料のダウンロードや課題の提出などができる機能です。

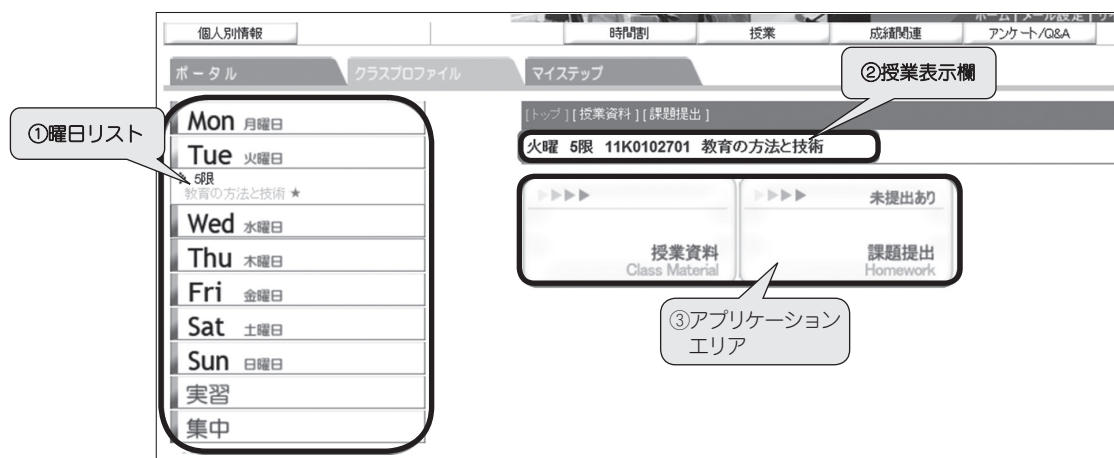
教員からの指示等に応じて、クラスプロフィールの各機能を使用してください。

1 「DENDAI-UNIPA」にログインし、トップページから **クラスプロフィール をクリックします。**

2 画面左の①曜日リストから曜日を選択すると、その曜日に履修している授業科目が表示されます。

[課題管理]に新着情報がある場合は授業名の右に★が表示されます。科目名をクリックすると、②授業表示欄に表示されます。

3 画面中央の③アプリケーションエリアから、使用したい機能のボタンをクリックします。



- ※ 履修登録を行っていない授業科目については、クラスプロフィール機能を使用することができませんので注意してください。
- ※ クラスプロフィールの各機能は、追加・削除を行う場合があります。
- ※ クラスプロフィールの閲覧、データのダウンロードなどは当該科目の学期最終週後に使用できなくなります。必要な資料は各自の環境に保存してください。

2. 授業資料のダウンロード方法

教員が「DENDAI－UNIPA」上にアップロードした授業資料をダウンロードすることができます（履修登録した学生のみ）。

- 1 曜日リストから授業を選択し、アプリケーションエリアから **授業資料** をクリックすると、選択した授業の資料が一覧で表示されます。

The screenshot shows the DENDAI-UNIPA interface. On the left, a sidebar contains a weekly calendar. The 'Mon' (Monday) tab is selected, showing a list of classes. One class, 'パワーエレクトロニクス' (Power Electronics), is highlighted. An arrow points from this class to the '授業資料' (Class Material) button in the main application area. Below this, another screenshot shows the '授業資料' page for the selected class, displaying a table of materials.

授業資料グループ	授業実施日	タイトル	コメント	資料
A先生クラス	2011/11/18(金)	2011/11/18の講義資料		
Bグループ	2011/10/18(火)	2011/10/18の講義資料		
	2011/10/18(火)	2011/10/18の講義資料		

- 2 授業資料一覧画面でタイトルをクリックすると、下に詳細情報が表示されます。ファイル名の右の  をクリックすると資料をダウンロードできます。

The screenshot shows the detailed view of a class material. The title '20111018講義資料7.pdf' is highlighted. An arrow points to the download icon (a small 'd' in a circle) next to the file name. Below the table, there is a section for '作成者' (Creator) and a note about the website.

作成者
次回授業までに下記のサイトをよく確認しておくこと。
<http://atom.dendai.ac.jp/> <http://atom.dendai.ac.jp/>

20111018講義資料7.pdf
20111018講義資料7.pdf
課題用テスト

3. 授業課題の提出方法

教員から出された課題を「DENDAI－UNIPA」上で確認・提出することができます。

- 1 アプリケーションエリアの **課題提出** をクリックすると、選択した授業に課題があれば、課題の一覧が表示されます。

- 2 課題一覧画面で課題名をクリックすると、次画面に教員の登録した課題の詳細内容が表示されます。教員が添付ファイルを登録した場合は、この画面に表示されます。

3 「提出」欄では「コメント」もしくは「添付ファイル」で課題の提出を行います。添付ファイルで提出する場合は、**参照** をクリックします。

4 添付するファイルの選択をした後、必ず **追加** をクリックします。 **追加** をクリックすると、下に添付したファイル名が表示されます。



※ 教員が設定した提出可能ファイル数によっては、ファイルを複数添付することも可能です（1 ファイルにつき 10MB がアップロードできる上限です）。
なお、拡張子のないファイルや、exe 形式のファイルは添付できません。

ファイル添付前

※URLをハイパーリンクとして登録する場合は、{}内に記述してください

提出するファイルを指定し、追加ボタンを押下してください。（最大5ファイルまで可）

添付 **参照...** **追加**

戻る **提出**

ファイル添付後

添付 **参照...** **追加**

添付ファイル	KByte	削除
A_001_11ee001_DendaiTaro.doc	20KB	削除

戻る **提出**

5 最後に右下の **提出** をクリックします。

6 課題の提出後は、課題一覧画面に提出日時が表示されます。

必ず提出できているか否か（添付資料がある場合、アップロードされているか否か）を自身で確認してください。

7 課題によっては、提出後、提出期限内であれば修正することができます。

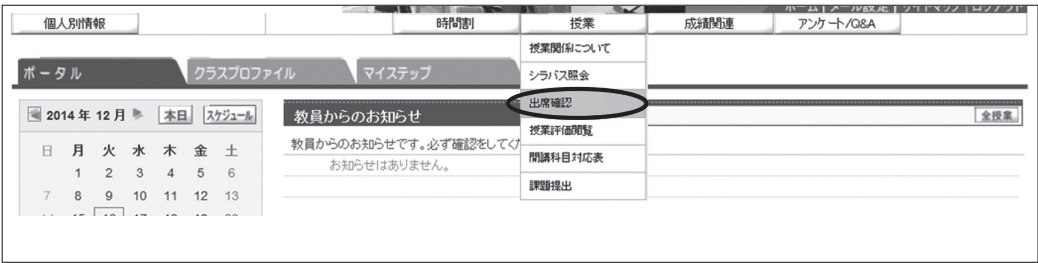
その場合は、上記の提出日時をクリックし、課題の修正を行い、再度 **提出** をクリックしてください。

出席確認

1. 出席情報の確認について

学生証による出席管理が可能な教室で授業を行っている科目については、出席情報を「DENDAI－UNIPA」で確認することができます。

- 1 画面上部のメニューから **授業** ⇒ **出席確認** をクリックすると、出席状況が表示されます。



- 2 出席確認画面で、反映されているデータを確認することができます。

2012年度 後期 2012/12/17 を基準に出席率を算出します。 検索

曜日時限	授業コード	科目名	出席率	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回
月4	1105292002	電気電子計測(五島 孝文)	50%	○	○	○	○	○		○								／
火3 火4	1105332001	電気電子工学基礎実験Ⅱ(原 和裕)	0%															／
水1	1104402001	情報理論(小山 裕徳)	67%	○	○		○	○	○	○	○	○					休	
水2	1105442001	電子回路Ⅱ(榎野 彰規)	85%	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
水3	11030392003	中国語Ⅱ(費 燕)	77%		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
木2	1101292002	フーリエ解析(三橋 聡司)	77%	○	○	○	○	○			○	○			○	○	○	
木3	1106422002	論理システム設計Ⅱ(五島 孝文)	79%	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	
金2	1106392002	量子物理学(平栗 健二)	82%	休	○	○	○	○	○	○	○	○	○					／
金3	1105582001	電磁気学Ⅱ(原 和裕)	92%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			／
金4	1102512003	回路理論Ⅱ(大内 幹夫)	100%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			／

○：出席 ▽：早退 △：遅刻 ×：欠席 -：公欠 休：休講 /：未実施 ■：定期試験 ■：追試験 ■：再試験

出席情報の確認画面



- ※ 出席情報が反映されるのは、履修登録が完了した後です。学期の始めのうちは、出席情報が反映される科目とされない科目があります。出席情報が正確に反映される準備が整った後、掲示にてその旨周知します。それまでは暫定的な情報として確認してください。
- ※ その他、次ページ「よくある質問」を参照してください。

出席確認に関するよくある質問

Q 出席データはいつ UNIPA へ反映されますか？

A 原則授業日の翌日午前 5 時 30 分に UNIPA へ反映されます。

Q 学生証をタッチしましたが出席になっていないのはなぜですか？

- A ①当該授業であると認識できる範囲は、授業開始の 10 分前から授業終了までです。
 そのため、授業開始の 10 分以上前にタッチしてしまうと出席として扱われません。
 学生証をタッチした時間については、入退館管理システム（MARCO（マルコ）システム※）より確認できます。
 学籍番号と共通パスワードを入力後、メニューの「出席管理」→「あなたの足跡」を選択すると別ウィンドウが開きますので、「読取日」に確認したい日付を設定し、「レポートの表示」をクリックしてください。10 分以上前にタッチしてしまったことが確認できた場合は、画面のハードコピーを印刷し授業担当教員に相談してください。
- ②出欠を厳格に管理されている先生の場合、タッチされた時間や授業態度等を基に UNIPA の出席記録を修正されることがあります。身に覚えがある場合は授業担当教員に質問してください。

Q 連続した授業は最初のコマの部分しか出席が反映されないのですか？

A はい。その通りです。他方、出席率はコマ数を基準に計算されます。
 例えば月曜日 3、4 限の授業に全て出席した場合の出席率は原則的に「50%」と表示されます。

Q 授業に出席しましたが MARCO システムにも反映されていません。どうすればよいですか？

A 学生証が正しく認識されなかった可能性がありますので授業担当教員に相談してください。
 その際、授業当日のノート、配布物等を事前に用意しておいてください。なお、工学部・未来科学部事務部では出席の確認は行えません。

Q 学生証を忘れてしまったのですが、どうすればよいですか？

A 2 号館 1 階の受付にて学生証忘れカードの発行を行ってください。当日はそのカードを使用してください。

※入退館管理システム（MARCO（マルコ）システム）

<https://marco.ms.dendai.ac.jp/>

成績確認

1. 成績の確認について

自分の成績を「DENDAI－UNIPA」で確認することができます。

- 1** 画面上部のメニューから **成績関連** ⇒ **成績照会** をクリックすると、成績照会画面が表示されます。

成績照会

表示パターン

☒ 通常
 ☐ 年度学期別

表示設定

☒ 評価名称
 ☒ 不合格科目
 ☒ 履修中科目
 ☒ 単位修得状況欄

表示

科目名	単位	評価	年度	学期	教員氏名
<必修科目>					
電気電子工学特別演習I	2.0	A	2011	後期	柳父 悟
電気電子工学特別演習II	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学グループ輪講I	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学全体輪講I	2.0	A	2012	後期	平栗 健二
電気電子工学特別研究I	6.0	A	2012	後期	平栗 健二

〈注〉科目名の先頭に※が出力された科目は現在履修中です。

単位修得状況

科目分類	修了要件					合計							
		必修	選択										
				自専攻	任意選択								
修得済単位	32.0	14.0	18.0	6.0	12.0	32.0							
履修中単位	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							
合計単位	32.0	14.0	18.0	6.0	12.0	32.0							

成績照会画面



※ 「単位修得状況」欄の修了要件は研究科・専攻により異なります。

その他の主な機能

1. 個人別情報について

自分の個人情報を「DENDAI－UNIPA」で確認することができます。

1 画面上部のメニューから **個人別情報** ⇒ **学籍情報照会** をクリックすると、学籍情報照会画面が表示されます。

【主な情報】

- ・ 氏名、住所、保証人の連絡先など、個人に関する情報
- ・ 専攻、学年、カリキュラム年度など、学籍に関する情報
- ・ 過去の GPA 値など、学業に関する情報

※項目は追加・削除される場合があります。

学籍情報照会

戻る

学籍基本情報

学籍番号	
学生氏名	
カナ氏名	
英語氏名	
旧姓氏名	
旧姓氏名(カナ)	
性別	男性
生年月日	
所属学科組織	大学 EEC
カリキュラム学科組織	EC
学年	3
国籍	日本
異動履歴	進級(2012年04月01日)
就学種別	一般入学生
入学期NO	1
カリキュラム年度	2010
入学年度	2010
入試種別	公募制推薦入試
セメスタ	
入学日付	2010年04月01日
出学日付	
卒業・修了予定年月	2014年03月
修了予定日	
専攻コース種別	履修上限単位数
	

個人情報照会画面



※ 住所や保証人の連絡先など、個人に関する情報が変わった場合は、速やかに学生支援センター（学生厚生担当）に申し出て変更手続きを行ってください。

2. メール設定について

メールアドレスの登録を「DENDAI－UNIPA」で行うことができます。

- 1 画面上部のメニュー項目の上にある **メール設定** をクリックすると、メールアドレスの登録が表示されます。

「受信メールアドレス(PC)」には、大学から付与される学籍番号がついているメールアドレスが設定されています(変更不可)。

このアドレスのほか、「受信メールアドレス(携帯)」の欄にメールアドレスを登録することが可能です(「携帯」とありますが、携帯電話のメールアドレス以外でも登録可)。

メールアドレス設定画面



※ 掲示情報は原則として「DENDAI－UNIPA」のみに配信されますが、急を要するものや重要度の高い掲示はメールアドレスにも同時配信されることがあります。

3. 時間割について

時間割情報を「DENDAI－UNIPA」で確認することができます。

- 画面上部のメニューから **時間割** をクリックすると、時間割メニューが複数表示されます。

時間割は「カレンダー表示」または「一覧表示」で見ることができます。

時間割の種類	表示される内容
学生時間割表	履修登録をした科目が表示される時間割。 履修確定前でも、履修状態にある科目は表示されます。
教員時間割表	教員ごとの時間割表を検索することができます。
授業時間割表	自分のカリキュラム、自分の所属する学年次以下の科目が 全て表示されます。

上級学年や自学科以外の時間割を表示させる方法

※「一覧表示」の形式です。

「戻る」⇒「条件検索」
授業時間割表画面で「戻る」を押すと、条件検索が画面になります。
学年を上級学年にすると、上級学年の今年度開講する時間割が見られます。
※カリキュラムが異なる場合、科目名等が違う場合がありますので注意してください。



※ 時間割を見る際は、授業科目担当教員名の間違い等がないように注意してください。特に自分の学年以外の科目・他研究科の科目などを見る際は、大学院要覧の「授業科目配当表」なども確認し間違いのないように気をつけてください。

新入生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNIPA
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第4章 生活案内

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施
設
学則・規程
沿
革
校歌・学生歌
キャンパス案内

1 事務取扱事項と取扱時間

部 署 名		取扱時間	主な事務取扱事項	備 考
工学部・未来科学部事務部 (2号館3階)		月～金曜日 8:50～13:10 14:10～21:30 土曜日 8:50～13:10 14:10～19:40	・授業、試験、成績等に関すること ・履修登録の手続き ・教職課程の履修手続き ・成績証明書、卒業証明書等の発行 ・レポート・欠席届の受付など	証明書の申込み等は21:30まで受け付けます。 ※但し、土曜日は19:40までです。
学 生 支 援 セ ン タ ー	学生厚生担当 (2号館3階)	月～金曜日 8:50～13:10 14:10～21:30 土曜日 8:50～13:10 14:10～19:40	・休学・退学・復学等の学籍手続き ・課外活動の手続き ・各種奨学金 ・学生証、学割証の発行 ・在学証明書等の発行 ・学生教育研究災害傷害保険の取扱い ・学生生活相談、遺失物・拾得物の取扱い ・学生の学外活動補助等の受付	
	健康相談室 (2号館3階)	月～金曜日 8:50～13:10 14:10～21:00 変更時は入口の掲示にてお知らせします。	・定期健康診断 ・平常の健康相談 ・傷病応用処置 ・健康診断証明書発行の相談	
	学生相談室 (2号館3階)	学生相談室の入口の掲示板にて知らせします。	・学業上、生活上などの個人的な相談 ・専門家によるカウンセリング	
	キャリア支援・就職担当 (2号館3階)	月～金曜日 8:50～13:10 14:10～20:00 土曜日 8:50～13:10 14:10～17:00	・キャリア支援、低学年指導 ・就職の斡旋・就職支援と相談 ・インターンシップ情報 ・アルバイトの紹介など	学内業務により窓口の停止や時間短縮となることがあります。
国際センター	(2号館3階)	月～土曜日 9:00～17:00	・海外語学研修を含む外国留学に関すること ・外国人留学生の受入れに関すること	
	千住ラウンジ (1号館4階)	月～金曜日 10:00～17:00	・海外語学研修を含む外国留学に関すること ・外国人留学生の受入れに関すること ・日本人学生と留学生の交流に関すること	
経理部(会計担当) (1号館5階)		月～土曜日 9:00～17:00	・学費の取扱い ・学費振込用紙の再発行 ・手数料等の収納	

- ・取扱停止、時間変更等がある場合は部署ごとに、その都度掲示によりお知らせします。
- ・長期休業期間は、窓口取扱時間及び証明書自動発行機の稼働時間が通常と変更になりますので、事前に掲示を確認してください。

2 主な書類の提出先と証明書の申込先

願・届・証明書の取扱部署は次のとおりです。

なお、証明書の発行は日数を要しますので、それぞれ取扱部署で確認して申し込んでください。

2－1 願出・届出

願出・届出の名称		取扱部署	手続き・必要添付書類等
変更届	保 証 人	学生支援センター (学生厚生担当) (2号館3階)	学生証(学生) ※新旧保証人の署名・捺印を要する
	改姓(学生・保証人)		変更が分かる書類(戸籍抄本など)、学生証(学生)
	連絡先(学生・保証人)		学生証(学生)
	住所(学生・保証人)		学生証(学生)
	勤 務 先(学 生)		学生証(学生)
学 内 集 会 願	2週間前、学外参加者がいる場合はその名簿		
学 外 活 動 願	2週間前、参加者名簿		
休 学 願	願い用紙、(診断書等)、在籍料振込用紙本人控のコピー		
復 学 願	願い用紙、(診断書等)		
退 学 願	願い用紙、(診断書等)		
学 費 延 納 願	所定の用紙を学費納入期限日までに提出		
転 学 部・ 転 学 科 願	願い用紙		
履 修 届	工学部・未来 科学部事務部 (2号館3階)	所定の期日(別途掲示) 【注】履修に関する他の願出・届出は「履修案内」を参照してください。	
欠 席 届		医師の診断書または理由書 (1週間以上欠席の場合)	
追 試 験 願		医師の診断書または理由書 (1日のみ欠席の場合も必ず添付のこと)	
科 目 等 履 修 生 願		願書、卒業証明書、成績証明書、健康診断書、資格審査料	
学 費 振 込 用 紙 再 発 行 願		経理部 (会計担当) (1号館5階)	電子メールによる申請可【第4章7参照】

2-2 証明書

各種証明書は2号館3階の証明書自動発行機で取扱います。ただし証明書によっては申込み用紙を出力した上で取扱い部署に申し込みます。

証明書の名称		手数料 (円)	取扱部署	備考
成績証明書	日本語	300	工学部・未来科学部事務部 (2号館3階)	
	外国語	1,500		発行までに1週間を要する
修了見込証明書	日本語	200		
	外国語	1,200		発行までに1週間を要する
修了証明書	日本語	500		
	外国語	1,200		発行までに1週間を要する
修了成績証明書	日本語	500		
	外国語	2,000		発行までに1週間を要する
人物に関する証明書		500		(在学生)
		1,000		(修了生)
元在学成績証明書		1,000		
科目等履修生単位取得証明書		1,000		
建築士試験の大学院における実務経験に係る修得単位証明書		500		平成21年度以降建築学専攻に入学し、修了した者
在学証明書	日本語	200	学生支援センター (学生厚生担当) (2号館3階)	
	外国語	700		発行までに1週間を要する
元在学証明書	日本語	500		
	外国語	700		発行までに1週間を要する
通学証明書		無料		
学生証再発行		2,000		翌日発行(土日祝除く)
学生旅客運賃割引証		無料		
健康診断証明書		200	健康相談室	

※ 学部学生時の証明書は卒業生扱いとなります。卒業生用の申請書に卒業時の所属を記入の上、申し込んでください。

3 正課授業による閉館時間中の施設利用

開館時間は平日 7:30 ~ 22:30 まで（休日・祭日は閉館）となります。

研究等の理由により、やむを得ず研究室等に残留を希望する場合には、あらかじめ指導教員へ申し出てください。許可が得られた場合に限り、指導教員が該当施設の施錠・解除の予約設定（平日 22:30 ~ 翌日 7:30（休日は 9:00 ~ 18:00））をします。

4 大学院研究費による補助取扱い

【取扱い】

大学院研究費は、旅費補助・総合メディアセンター利用料（プリンタポイント、文献複写費用、他）に適用されます。

【旅費補助】

大学院生が旅費補助申請できるのは、国内外の学会に参加する場合（発表・聴講）に限ります。

また、特別な専攻分野で、研究指導教員が特に必要と認める現地調査についても、同様に申請することができます。

〈手続き〉

「出張旅費（概算・精算）請求書（学生用・研究員等用）」に、

・「見積・納品・請求書」または「領収書（立替払いの場合）」

・学会に参加する場合は、「学生本人の発表が確認できるもの、または聴講内容の確認できるもの（プログラム等）」

・現地調査の場合は、「現地調査計画書」（工学部・未来科学部事務部に有り）を添付の上、研究指導教員に提出してください。

※「出張旅費（概算・精算）請求書（学生・研究員等用）」は、研究指導教員に配布されています。

または、工学部・未来科学部事務部にあります。

※宿泊費及び日当については、別表 1、別表 2 のとおりです。

※連名による学会発表で本人が直接発表しない場合は当該専攻主任の承認も必要です。

別表 1. 国内出張旅費支給基準

宿泊費（※ 1）	日当（宿泊出張および所要往復距離数 300km以上の日帰り出張）（※ 2）	日当（所要往復距離数 100km以上 300km未満の日帰り出張）（※ 2）
11,000 円	3,000 円（ただし、午後出発又は午前帰着の場合は半額の 1,500 円）	1,000 円

（※ 1）上表の額を上限とし、実費を支給します。

（※ 2）東京都内、埼玉県内および千葉県内に所在する本法人の施設への出張については、支給しません。

別表 2. 海外出張旅費支給基準

A 地方（※ 1）		A 地方以外		機中泊 （日当のみ）
宿泊費（※ 2）	日 当	宿泊費（※ 2）	日 当	
12,100 円	4,000 円	8,100 円	2,700 円	2,700 円

（※ 1）A 地方に該当する指定都市及び地区（「国家公務員等の旅費に関する法律」による指定都市又は甲地区という）は、研究指導教員に配布されている「海外出張旅費地方早見表」を参照してください。

（※ 2）上表の額を上限とし、実費を支給します。

5 学 籍

学生のみなさんは、入学により本学の学生としての身分を取得し、修了により失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。入学後、諸般の事情により退学や休学の許可を得なければならない時には、学生支援センター（学生厚生担当）で次の手続きをしてください（いずれも所定の願用紙を使用してください）。

① 休 学

傷病その他の理由で引き続き 3 ヶ月以上出席できないときは、休学願を提出し許可を受ける必要があります。なお、傷病により休学願を提出する場合は、医師の診断書を休学願に添付して提出してください。

休学できる期間は許可を受けた年度に限ります。また、休学の申請期間は学期途中から休学する場合でも半期ごと（6 ヶ月）ですが、前期の申請時期のみ通年（前期と後期）での休学申請も可能です。なお、特別な事情があると認められた場合は、再休学を許可することがありますが、その場合は再度手続きが必要です。休学期間は在学年数に算入されません。休学は合計 2 年間まで許可することがあります。

また、休学期間中は在籍料の納入が必要です（半期 60,000 円）。ただし前期休学または通年休学は 4 月末日、後期休学は 10 月末日までに願を提出する必要がありますので、詳細は学生支援センター（学生厚生担当）に問い合わせてください。

※手続きを進めるにあたり、指導教員・専攻主任との面談を行い、休学願への決裁が必要です。

② 復 学

休学の理由が消滅したときには、復学願を提出し許可を受けてください。傷病等により休学していた場合は、復学願に医師の診断書を添付して提出する必要があります。復学時期は原則として学期の始めとなります。休学期間満了後、復学する場合は、当該学年の正規進級学年次生の学費が適用され、学費を納入しなければ復学できません（詳細な手続き方法は休学期間満了の時期に本人宛に郵送で通知します）。

③ 退 学

傷病その他の理由により退学しようとするときは、退学願（学生証添付）を提出し、許可を受ける必要があります。退学の期日は原則として学期末（前期：9月10日、後期：3月31日）となります。退学願を提出するためには、退学を希望する学期末までの学費を納入していることが必要です。退学を希望する学期末を経過した場合には、次の学期末での退学扱いとなりますが、前年度末（3月31日）付退学は4月末日、前期末（9月10日）付退学は10月末日までに退学願を提出すれば期日を遡って退学を許可する場合もありますので、詳細は学生支援センター（学生厚生担当）窓口にお問い合わせください。

※手続きを進めるにあたり、指導教員・専攻主任との面談を行い、退学願への決裁が必要です。

④ 除 籍

次のいずれかに該当する場合は除籍となります。

- （1）最長在学年限（学則第6条：修士課程4年、博士課程（後期）6年）を超えた者
- （2）休学期間を超えてなお復学しない者
- （3）学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
- （4）正当な理由がなく、無届けで、引き続き3ヶ月以上欠席した者
- （5）所定の学費納入期限から起算して3ヶ月以内に学費を納入しないとき
（ただし、年度末を越えてはこれを認められないので、年度内の指定された日に必ず納入のこと）

⑤ 再入学

本大学院を退学した者または除籍された者が、同一の課程および専攻へ再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しません。

6 学生証

① 学生証の携帯

学生証は、みなさんが本学の学生であることを証明するものです。学生証は常に携帯し、学内では専用ストラップ付ケースに入れて首から提げてください。また、盗難や悪用などされないよう大切に扱ってください。学生証は、東京千住キャンパス内のセキュリティゲートの通過や、授業の出席、証明書自動発行機での各種証明書発行、図書館での本の貸出の際や、大規模災害時の安否確認にも必要です。特に、学力考査を受ける際には必要ですので注意してください。

万一学生証を忘れて登校してしまった場合は、2号館1階受付で学生証忘れカード発行手続きが必要となります。学生証忘れが頻繁に続く場合、何らかの措置をとる場合があります。

学生証の取扱いは、2号館3階学生支援センター（学生厚生担当）で行っています。

② 学生証の交付と年度更新

新入生：入学式当日に交付。

在学生：毎年4月に学生証の年度更新（裏面シールの交換）を実施しますので、定められた期間内に必ず学生支援センター（学生厚生担当）にて手続きを行ってください。裏面シール配付時期については、UNIPAにてお知らせします。

③ 学籍番号について

学生証に記載された7桁の数字・記号を学籍番号といいます。この番号は、みなさんの修了・満期退学後も各種証明書の発行等で利用します。

学籍番号のしくみ



所属専攻記号

学内においては、各専攻を簡単にアルファベット記号で表しています。

電気電子工学専攻 電気電子システムコース…KMJ
 電気電子工学専攻 電子光情報コース…KMH
 物質工学専攻…KMS
 機械工学専攻 機械工学コース…KMK
 機械工学専攻 先端機械コース…KMF
 情報通信工学専攻…KMC

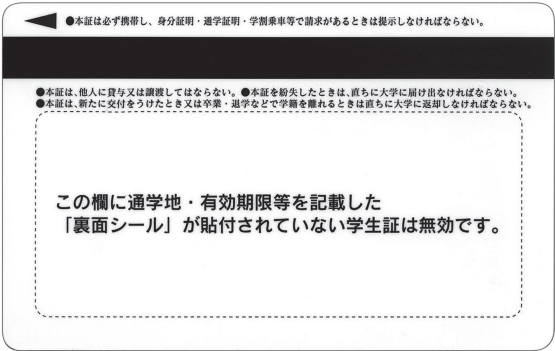
④ 学生証の紛失・汚損

学生証を紛失・汚損した場合は、直ちに学生証再発行の手続きをとってください。2号館3階の証明書自動発行機で学生証再発行の申請書（2,000円）を出力し、必要事項を記入の上、学生支援センター（学生厚生担当）へ提出してください。原則として、翌日に交付します。

なお、退学・除籍の場合は、学生証を直ちに返納してください。



〔表面〕



〔カード裏面〕

通学地	東京都足立区千住旭町5番 03-5284-5340(ダイヤルイン)					有効期限
現住所						2016.3.31
通学区間	～					東京電機大学
通学定期乗車券発行控	発行年月日	通学期間	発行駅	発行年月日	通学期間	発行駅
		箇月			箇月	
		箇月			箇月	
		箇月			箇月	
						大学記載欄

〔裏面シール〕

7 学 費

(1) 納入期限（平成 27 年度）及び学費振込用紙の発送時期

新入生

納入期限		学費振込用紙の発送
前期	後期	
(入学手続時に前期分学費は納入済)	10 月末日	後期分の振込用紙を 7 月下旬に発送。

新入生以外

納入期限		学費振込用紙の発送
前期	後期	
4 月末日	10 月末日	4 月上旬に 1 年分（前・後期の 2 枚）を発送。

※納入期限が金融機関の休日にあたる場合は翌営業日

(2) 納入方法

本学所定の学費振込用紙を用いて銀行から振り込んでください。前期と後期の年 2 回払いです。事情により、ATM やネットバンキングを使用する場合は、学籍番号・学生カナ氏名・金額を正確に入力して振り込んでください。

(3) 学費振込用紙について

- ① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。
- ② 保証人住所及び氏名は、学生支援センター（学生厚生担当）に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は、学生支援センター（学生厚生担当）にて手続きしてください。
- ③ 保証人以外の宛先を希望する場合は、経理部（会計担当）にて手続きしてください。
- ④ 紛失した場合は、経理部（会計担当）にて再発行の手続きをしてください。

※上記④は、電子メールでの手続きも可能です。

⇒経理部（会計担当）メールアドレス : gakuhi@jim.dendai.ac.jp

(4) 学費延納

- ① 経済的な理由等により学費を納入期限内に納入できず延納を希望する場合は、納入期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。
- ② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由の記入が必要です。納入期限までに提出できるよう準備してください。用紙は学生支援センター（学生厚生担当）にて配付します。
- ③ 延納が許可される期間は、前期は 6 月末日、後期は 12 月末日迄です。

(5) その他

- ① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は、学則により除籍となります。
- ② 留年者の学費は、当該学年の正規学年次生と同額となります。
- ③ 休学の場合は、半期6万円の在籍料がかかります。在籍料の振込用紙は、学生支援センター（学生厚生担当）で受け取ってください。

学費に関する情報はホームページにて確認できます。
<http://web.dendai.ac.jp/campuslife/expenses>

8 奨学金制度

奨学金制度は教育の機会均等の精神に基づき、本学独自の奨学金や日本学生支援機構をはじめ、各種の団体により設けられており、学業成績・人物ともに優秀であって経済的に困窮している学生に対して奨学金を貸与または給付するものです。

奨学金関係の事務は学生支援センター（学生厚生担当）で扱っています。募集をはじめ奨学金関係の連絡はすべて UNIPA で行いますので、見落とすことのないよう十分注意してください。

なお、家庭の経済事情の急変などのため奨学金を希望する場合は、随時、相談してください。主な奨学金制度には次のものがあります。

① 東京電機大学学生救済奨学金（本学独自：貸与・無利子）

保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難となり、学業半ばにして学業継続を断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるものです。

資 格	大学院・学部 に在学し、保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難な学生（卒業年次生優先）。貸与は在籍期間中1回に限る。
募 集 時 期	4 月と 9 月の年 2 回
採 用 時 期	6 月下旬頃・11 月下旬頃
貸 与 額	該当学期（セメスター）分の学費相当額。奨学金は学費に充当する。
返 還	無利子・卒業後 5 年間（繰り上げ返還可）
採 用 者 数	27 名（平成 26 年度実績）

② 東京電機大学学生支援奨学金（本学独自：貸与・無利子）

本学主催の海外英語短期研修への参加および高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するものです。

資 格	大学院・学部に進学し、本学主催の海外英語研修への参加および高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生。貸与は在籍期間中1回に限る。
募集時期	随時 （＊海外英語研修参加者には、参加決定後別途連絡）
採用時期	随時
貸 与 額	30万円の範囲内で査定
返 還	無利子・卒業後5年間（繰り上げ返還可）
採用者数	10名（平成26年度実績）

③ 東京電機大学校友会・新電気奨学金（本学独自：貸与・無利子）

東京電機大学校友会が昭和59年度より設立した制度で、家庭の経済的事情の急変により、学業継続が困難な学生に対して貸与される奨学金です。

資 格	大学院・学部に進学し、家庭の経済的事情の急変により学業継続が困難な学生（主に卒業年次生対象）。貸与は在籍期間中1回に限る。
募集時期	随時。ただし、学費に充当するため、学費納入期限以前の応募が望ましい。
貸 与 額	1回に納入する学費等の相当額
返 還	無利子・卒業後5年間
採用者数	1名（平成26年度実績）

④ 東京電機大学大学院貸与奨学金（本学独自：貸与・無利子）

資 格	大学院に進学し、人物優秀にして学業成績が良好、かつ学費の支弁が困難な者。年度毎に、半期学費相当額の貸与が可能。
募集時期	4月と9月の年2回
採用時期	6月下旬頃・11月下旬頃
貸 与 額	該当学期の学費相当額
返 還	無利子・卒業後5年間（繰り上げ返還可）
採用者数	工学研究科17名、未来科学研究科4名、理工学研究科5名、情報環境学研究科4名（平成26年度実績）

⑤ 日本学生支援機構による奨学金

「第一種」(貸与・無利子)

貸与期間	最短修業年限(修士2年)の終期まで ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取り消される場合があります。
募集時期	原則として4月上旬の1回限り
貸与月額	50,000円または88,000円
資格	成績が特に優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができると認められる者。

「第二種」(貸与・有利子)

貸与期間	最短修業年限(修士2年)の終期まで ※奨学生として適格性を失ったときは、奨学金貸与が停止または取り消される場合があります。
募集時期	原則として4月上旬の1回限り
貸与月額	5万・8万・10万・13万・15万円の中から選択
資格	以下のいずれかに該当する者。 (ア) 成績が優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができると認められる者。 (イ) 学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められる者。

9 副手制度

① 副手制度とは

本学には、大学院の学生が自分の学業・研究の負担にならない範囲で学部の実験・演習等の授業について授業の補助業務を担当することができ、一定の手当てが支給される副手制度があります。

この制度は、学部と大学院の相互教育を促進することを主旨としており、大学院の学生にとっては理論を実験に生かす貴重な場であり、学部の学生にとっては先輩から気軽に学ぶことができますという多くのメリットを持っています。

このような点から、他大学からも評価されている制度の一つです。

最近では、大学院学生の増加に伴い、希望者全員がこの制度に採用されるとは限りませんが、採用された者は良き先輩であり、かつ良き指導者として業務に取り組む意識を持ってください。

② 業務内容

(1) 授業補助

学部の実験、演習等の授業の補助を行います。

(2) 授業外業務

授業実施に関連する前準備、後始末等のほか、留学生や身体にハンディキャップを持つ学生に対する教育上の補助業務、学習サポートセンターに関する業務、学科の諸業務を行います。

(3) 試験監督等

授業補助を担当した者は、学部の学力考査等の試験監督等を行わなければなりません。

③ 手当

毎月決められた支給日に月額が支給されます。

月額は、1 授業担当につき下記のとおりです。

	A	B
	授業補助担当分	授業外業務担当分
修士課程在学者	8,000 円	2,600 円
博士課程（後期）在学者	9,000 円	3,000 円

摘 要

A 欄は毎週授業 1 コマ（2 時間）の勤務につき支給する月額。

※授業補助の勤務時間は、1 コマ＝2 時間として取り扱います。

B 欄は毎週 1 時間の勤務につき支給する月額。

詳細は、副手採用の際に交付される細則等をご覧ください。

10 健康管理

充実した学生生活をおくるには、健康が第一に挙げられます。とくに若い人たちは、自己の体力を過信して、限界を超えた不規則な生活が元で健康を害する事がありがちです。食事・睡眠・運動のバランスの取れた規則的な生活で、自己管理に努めてください。

(1) 学生相談

学生相談室では、進路、単位などの学業上の問題、不眠、無気力などの精神的な問題、家族、友人とのトラブルなど様々な悩みについて、臨床心理士の資格をもったカウンセラーが相談に応じています。一人で考えても、解決策が見つからない時は、抱え込まずに、気軽に相談室を利用してください。相談内容に関しては、担当者以外にもれることはありません。

場所 2号館3階、健康相談室の隣です。

開室時間 月曜～金曜（曜日によって担当者、開室時間は違います。HP、パンフレットなどで確認してください。）

予約は電話、あるいは、メールで受け付けています。

電話番号 03-5284-5346

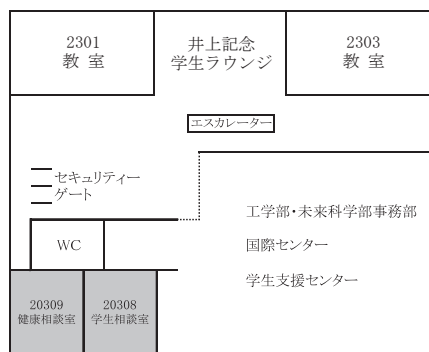
メールアドレス ko-gakuso@cck.dendai.ac.jp

※本学では、平成25年度からは、学生やその保証人を対象として、外部機関を利用した、『電話相談サービス』も開始いたしました。詳細は、別配布のパンフレット等を参照してください。

(2) 健康相談

授業中や課外活動中など学内で気分が悪くなったり、思わぬケガをした時は、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもとに看護師の資格をもった職員がそれぞれの応急の処置にあたっています。また、必要時、近隣の医療機関を紹介します。

また、平常の健康相談にも応じています。身長計、体重計のほか自動血圧計や体組成計等も設置して、自由に利用できますので、気軽に来室してください。



* 事務室自動ドア入口から入って奥

〈2号館3階〉

(3) 健康保険証について

一部の健康保険証は、ひとり1枚のカードになっています。携帯しやすくなると、便利な反面、紛失しやすくなりますので、注意してください。

一家に1枚しか保険証が発行されていない場合、親元を離れて生活を始める学生は、急な受診に備えて、『遠隔地被扶養者健康保険証』を用意してください。必要書類（手続き）等は加入している健康保険の発行者に問い合わせてください。

(4) 健康診断

① 定期健康診断

毎年春に、全学生を対象とした定期健康診断を実施しています。これは法に基づいたもので、学校が集団生活の場である事と、疾病の予防、早期発見を目的としています。

受診しない場合、就職や進学、アルバイト等で健康診断証明書を必要とした時に発行されない他、体育実技の授業、英語短期研修、その他の実習等の参加にも影響します。必ず受診してください。

〔定期健康診断実施項目〕

- ① 胸部X線間接撮影
- ② 身体計測（身長、体重、視力）
- ③ 内科診察
- ④ 尿検査
- ⑤ 血圧

② 健康診断証明書

学生証を用いて、証明書自動発行機にて発行されます。

料金：1通200円

(5) TDU ところとからだのサポート 24

電話（フリーダイヤル）による24時間・年中無休で、外部委託の専門機関が、心身の健康相談を受けています。詳細は、学生支援センター（学生厚生担当）窓口設置の専用パンフレットで確認してください。

11 保険制度

① 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

「学生教育研究災害傷害保険」（学研災）は、正課および課外活動中または通学途中などに発生した傷害事故を補償する制度です。入学手続時に修業年限分の保険料を納入し、全員が加入者となっています。

この保険の窓口は学生支援センター（学生厚生担当）です。学内外を問わず、事故にあったときは、必ず連絡してください。

正規の修業年限を超えて在籍する場合は、保険料を納入し再加入する必要があります。保険期間を確認して必ず学生支援センター（学生厚生担当）にて手続を行ってください。

●保険金の種類・金額

	担保範囲	保険金金額	死 亡	後遺障害	医 療	入院（日額）
学研災 2,000万円 コース	正課中 学校行事中		2,000 万円	120 万～ 3,000 万円	0.3 万～ 30 万円	4,000 円
	上記以外で学校施設内にいる間		1,000 万円	60 万～ 1,500 万円	3 万～ 30 万円	4,000 円
	学校施設以外での課外活動中		1,000 万円	60 万～ 1,500 万円	3 万～ 30 万円	4,000 円
通学特約	「通学中」 「学校施設等と相互間の移動中」		1,000 万円	60 万～ 1,500 万円	0.6 万～ 30 万円	4,000 円

（注） 1）医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療期間に応じて異なります。

2）正課・学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が1日から支払われます。また、上記以外の学校施設内にいる間の事故、課外活動中の事故は、実治療日数が14日以上、移動中の事故は、実治療日数が4日以上の場合に支払われます。

●保険料・保険期間（学生教育研究災害傷害保険 + 通学中等傷害危険担保特約）

保険期間	保険料適用区分	
	昼間部	夜間部
1 年間	1,000 円	450 円
2 年間	1,750 円	750 円
3 年間	2,600 円	1,100 円

（注） 1）保険期間は所定の修業年限です。

2）保険期間の切れた者（留年・休学者）は1年間の保険料を納入し再加入してください。

3）詳細は「学生教育研究災害傷害保険のしおり」を参照のこと。

② 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）

「学研災付帯賠償責任保険」（学研賠）は、学外機関での研究期間中、正課、学校行事中、およびその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害を補償します。

この保険は任意加入制となっていて学外の研究機関に実習へ行く際には、学生支援センター（学生厚生担当）で手続きを行ってください。また申し込みには学生教育研究災害傷害保険（学研災）に加入していることが義務付けられています。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険の概要		活動内容
		正課、学校行事およびその往復
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	

（注）学外での実習先決定後、学生支援センター（学生厚生担当）で加入の手続きを行ってください（詳細は「学研災付帯賠償責任保険のしおり」（加入時に配付）を参照のこと）。

●保険料・保険期間

保険料（1 年間）	340 円
-----------	-------

（注）保険期間は加入日の翌日～年度末

③ インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険（インターン賠）

「インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険」（インターン賠）は、学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等での就業体験（インターンシップ）中や教育実習期間中、ボランティア活動中およびその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害を補償します。

任意加入制でインターンシップは、学生支援センター（キャリア支援・就職担当）、教育実習は工学部・未来科学部事務部で手続きをしてください。また申し込みは学生教育研究災害傷害保険（学研災）の加入が義務付けられています。

●保険金の種類・金額

賠償責任保険の概要		活動内容
		インターンシップ、教育実習、ボランティア活動およびその往復
補償内容	対人賠償	1 事故 1 億円限度
	対物補償	

(注) インターンシップ受入企業決定後、学生支援センター（キャリア支援・就職担当）で加入の手続きを行ってください（詳細は「学研災付帯賠償責任保険のしおり」（加入時に配付）を参照のこと）。

●保険料・保険期間

保険料（1 年間）	210 円
-----------	-------

(注) 保険期間は加入日の翌日～年度末

12 教育訓練給付制度

「教育訓練給付制度」とは

働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

雇用保険の一般被保険者又は一般被保険者であった者が、厚生労働大臣の指定する職業に関する教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の 20%（支給要件期間が 3 年以上、ただし、初回に限り 1 年以上の者）に相当する額（上限 10 万円）がハローワークから支給されます。

本研究科は平成 21 年 4 月より教育訓練給付施設として指定されました。この指定によって、所定の条件を満たす大学院生は給付金を受けることができます。なお、現在開設している修士課程すべての専攻が講座の指定対象となっています。

※概要、対象者、申請手続き等について、下記のホームページに掲載されています。よく読んで申請をしてください。

http://www.kyufu.javada.or.jp/kensaku/T_M_seido

13 校友会

みなさんが学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を目にする機会が多々あると思います。ここではその校友会・同窓会活動について紹介します。

1 校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方も多いと思いますが、本学園と連携し、在学生のみなさんへの支援も行っています。学園祭等の全体行事援助、奨学金貸与、クラブ活動への補助など、積極的な支援活動を展開しています。

2 校友会組織と活動

現在、校友会には各校（大学、中学校・高等学校）の同窓会、各県支部（みなさんの出身地にもあります）や公認団体として、職域電機会（企業内同窓会）があります。将来、これら支部組織が就職活動等でみなさんの力になることと思います。

また、卒業生情報の管理や会誌「工学情報」の編集・発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しています。

3 東京電機大学校友会新電気奨学金

この奨学金制度は、各学期の学費納入期限までに募集しています。学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じた場合に、書類審査及び面接により校友会が貸与するものです。

貸与を希望する方は下記の要件を確認した上で、学生アドバイザーあるいは学生支援センター（学生厚生担当）に相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の 1/2 相当額

返 還：卒業後半年据え置いた後、5 年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済（一括返済可・無利息）

4 大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、卒業後のクラス会の開催はもとより、在学生のクラブ活動や諸行事にも校友会本部と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大で約 11 万名に達しています。

大学同窓会では学園と協力して“仕事研究セミナー”を開催しています。また、産業界で活躍している先輩による就職進路相談は就活生に好評です。さらに、卒業生と在学生との交流行事“OB 交歓会”を各キャンパスで開催し、優秀な学生団体に丹羽賞、同窓会奨励賞を授与しています。

①丹羽賞

初代学長の丹羽保次郎先生が、生前同窓会に寄せられた基金を基に創設されたもので、

在学会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去 1 年間に優秀な課外活動成果をあげた学生団体に贈られます。

- ②同窓会奨励賞
 昭和 60 年度より設けられた賞で、丹羽賞の対象にはならないが、地道に着実な活動を行っている団体を応援する目的で贈られます。

5 校友会を訪ねてください

校友会は、東京千住キャンパス 1 号館 2 階にあります。在学中に先輩のこと、出身地の校友会支部のこと等、知りたいことがありましたら気軽に相談してください。

一般社団法人 東京電機大学校友会
 〒120-8551 東京都足立区千住旭町 5 番
 東京電機大学東京千住キャンパス 1 号館 2 階 1203 室
 TEL : 03-5284-5140
 FAX : 03-5284-5187
 E-mail : kouyukai@jim.dendai.ac.jp
 URL : <http://www.tduaa.or.jp/koyu/>
 業務時間 9:00 ～ 17:00

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。

そのためには、学生等が教育・研究などの諸活動を相互信頼のもとに進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において相手を対等な関係と見ることなく、差別したり、性的な対象として心理的、身体的に傷つけたりすることはあってはならないことです。

しかし不測の事態に備え、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じてハラスメント対策委員会委員長が、適切なハラスメント相談員を紹介あるいはハラスメント調査委員会を組織して事実関係を調査するなど、ハラスメントの防止に取り組むことを宣言します。

平成16年4月1日宣言



TDU

東京電機大学

TOKYO DENKI UNIVERSITY

東京千住キャンパス
ハラスメント対策委員会

ハラスメント相談受付窓口

ハラスメントに少しでも悩んでいたら、一人で悩まず、ハラスメント相談受付窓口を利用してください。

詳細は専用パンフレットで確認してください。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。

教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。



セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の2つに分けられます。

対価型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 学席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環境型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ヌードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの?」、「子供はまだなの?」と聞く。

アカデミック・ハラスメントとは

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。

拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身が
ハラスメントを受けていると
感じたら

- 勇気をもって、「NO」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

ハラスメントの現場に
居合わせたなら

周りの人にも
できることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっている人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

加害者にならないために



私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施
設
学則・規程
沿
革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第5章 各種施設の利用

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、学園全体にさまざまなサービスを提供しています。総合メディアセンターのサービスは、東京千住キャンパスはもとより、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）、千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも1つのIDとパスワードで利用することができます。

学生証

図書資料の貸出、コンピュータの利用（印刷）、入退室管理など、総合メディアセンターのサービスを利用するときに必要です。学内では必ず学生証を首から下げるようにしてください。

パスワード

パスワードは、総合メディアセンターの各種サービスとポータルサイト（DENDAI-UNIPA）を利用するために必要です。他人に乱用されるなどの悪用を防ぐよう、責任を持って管理してください。個人データとシステムを守るために初期パスワードは必ず変更してください。推測されやすいパスワードは危険ですので、他人に判らず、自分が忘れないものにしましょう。また、パスワードは定期的に変更し、セキュリティの確保に努めるようにしてください。

サービス時間

授業期間中は下記時間帯に利用できます。

場所	施設	開館時間
2号館 1、2階 (入口は1階のみ)	図書館	月～土（休講日除く） 8:45～21:45 (一部施設は21:30まで)
2号館 4階	PC教室	月～土（休講日除く） 9:00～21:30

都合により変更になる場合があります。また、休業期間中にも開館している日がありますので、詳細は総合メディアセンターのWebページもしくは掲示を確認してください。

総合メディアセンターのWebページ

<http://www.mrcl.dendai.ac.jp/>

各サービスのメニューが表示されます。

見たいサービスやカテゴリをクリックしてください。

利用上の注意

■環境保持のため、施設内に飲食物を持ち込むこと・喫煙は強く禁止します。

※ただし、図書館内では、蓋のできる密閉容器に入った飲み物に限り、持込みを認めています。

- 総合メディアセンター施設内には、濡れたままの傘を持ち込むことを禁じています。濡れた傘は、備え付けの傘袋に入れて持ち込んでください。
- 他の利用者の迷惑とならないようマナーを守って利用してください。
- 携帯電話の通話は禁止します。どうしても使用したいときは、総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
- 総合メディアセンター内ではスタッフの指示に従ってください。指示に従わない場合は退出していただきます。
- 総合メディアセンターの施設および資源は、教育・研究を目的としたものです。目的以外に利用した場合、その他、不正行為を行った者は、学則に則って処分します。

図書サービス

(1) 図書資料の貸出

借用したい図書資料に学生証を添えて、カウンターへ提出してください。自動貸出機を利用して貸出手続きをすることもできます。また、他キャンパス所蔵の図書資料も、取り寄せて利用することができます。

■貸出冊数と貸出期間

対象	貸出冊数	貸出期間
学部1～3年生	5冊	2週間
卒業年次生（学部4年生）	10冊	1ヶ月
大学院生	10冊	1ヶ月

※予約者がいなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出機を利用するか、または、図書 Web ページからIDとパスワードを入力するだけで簡単に手続きすることができます。

注意！

図書資料を延滞した場合、遅れた日数分貸出停止となりますので注意してください。なお、借用中の図書資料を紛失したり汚損した場合には、弁償していただきます。

■館内利用の資料

1	禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
2	雑誌
3	修士論文および学位論文（複写も不可）
4	視聴覚資料（DVD など）
5	貴重書

※表にある 1 ～ 4 の他キャンパス資料は取り寄せが可能です。
カウンターで手続きをしてください。

■コピーについて

図書資料の複写は図書館内の複合機を利用してください。
著作権に関しては、利用者が全責任を負うものとします。

※著作権に関する注意（著作権法第 31 条より抜粋）

図書館においては、次に掲げる場合には、図書資料を複製することができる。
図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。

(2) 図書資料の返却

借用図書は、定められた期日までに返却してください。返却はどのキャンパスでも可能です。返却期限日は、図書 Web ページから簡単に確認することができます。修了・退学・除籍・休学などの場合は、貸出残余期間にかかわらず即時返却してください。
休館日、開館時間外の返却は、ブックポストを利用してください。ブックポストは、各キャンパスの総合メディアセンター正面出入口に設置されています。
東京千住キャンパスでは、2 号館 1 階に設置しています。

(3) 図書資料の購入

購入希望の図書資料は、図書 Web ページから依頼することができます。購入不可の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

(4) 図書資料の予約

図書資料は、図書 Web ページから予約することができます。図書資料が到着したらメールでお知らせします。貸出可能日以降にカウンターへ取りに来てください。

	所属キャンパスの資料	他キャンパスの資料
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7 日間	

※資料が各キャンパスに届くまでの日数
 東京千住 ⇄ 埼玉鳩山・千葉NT 1 ～ 2 日
 埼玉鳩山 ⇄ 千葉NT 2 ～ 3 日
 ※状況によって日数に変更になる場合があります。

(5) 各種サービス

レファレンスサービス	図書資料および利用方法に関する質問、学内（外）の情報検索等についてカウンターのスタッフが相談に応じます。
相互利用サービス	必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写・図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介をします。
検索サービス	本学で所蔵している図書資料は、図書館内のパソコンで自由に検索できます。また、総合メディアセンターの図書 Web ページを利用して検索することも可能です。
当日貸出サービス	グループスタディ（予約制）の利用や、プロジェクター・ノート PC などの各種機器、USB 扇風機・ひざかけなどの貸出を行っています。

Web によるお知らせとサービス (<http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/>)

図書 Web ページで以下の情報を公開、サービスを提供しています。

- ・ 資料検索
- ・ 図書資料予約
- ・ 返却期限の確認（自分が借用している図書資料の返却期限の確認）
- ・ 借用図書の貸出期間の更新
- ・ 文献複写・図書資料貸借依頼〈有料〉
- ・ 図書購入依頼（購入希望図書の申込）
- ・ 新着図書情報
- ・ ベストリーダ情報（よく利用される図書資料）
- ・ オンラインジャーナル（IEL Online、ACM Portal、他多数）
- ・ 各種データベース
- ・ 電子図書館

メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。メールはすべて学籍番号宛になります。学生の場合は、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。以下のような連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

- ・ 予約図書資料到着のお知らせ
- ・ 貸出・更新・返却履歴（前日分）のご案内
- ・ 返却期限日のお知らせ（返却期限日の 1 日前に連絡）
- ・ 延滞のお知らせ（返却期限日以降に連絡）
- ・ 文献複写・図書資料貸借到着のお知らせ
- ・ 購入希望図書到着・却下のお知らせ

(6) 各種設備

メディアゾーン	開架書架・集密書架エリアには、図書がNDC（日本十進分類法）により主題別に分類されています。また、集密書架エリアには学術雑誌（バックナンバー一部含む）も配架されています。受験書や就職本、旅行・レジャー・地図などの図書のコーナーも設置しています。読みたい本を自由に探して閲覧することができます。静粛閲覧エリアもあります。
ラーニングゾーン	グループスタディエリアは、ディスカッションしながらの学習や、プレゼンテーションの練習等、グループで使うことができます。ラーニングcommonsエリアは、相談しながら学習が可能なエリアです。可動式のホワイトボードを設置しています。
リーディングゾーン	閲覧エリアとブラウジングエリアがあります。ブラウジングエリアは、くつろいで新聞や雑誌を読みたいときに利用してください。また、日替わりで本学の所蔵しているDVDを放映しています。

図書サービスに関するお問い合わせは下記まで

2号館 1 階または 2 階のカウンター
 メール：k-library@mrcl.dendai.ac.jp

コンピュータサービス

総合メディアセンターでは、コンピュータ関連のシステムを数多く整備しています。ここでは、みなさんが直接利用するシステム、サービスを紹介します。活用してください。

(1) ユーザ端末システム

総合メディアセンターが管理運用しているPCです。1つのID(学籍番号)とパスワードで、全キャンパスのユーザ端末システムが利用できます。

授業が実施されていないPC教室は自習利用として開放しています。また、自分のPCからユーザ端末システムと同等な環境を利用できるリモートサービスも備えています。授業・研究で利用するための多種多様なソフトウェアがインストールされていますので活用してください。

ただし、システム保護のため、ソフトウェアのインストールや各種設定の変更等はできませんのでご了承ください。

(2) プリントシステム

ユーザ端末をはじめ、学内ネットワークに接続されたPCから利用できるオンデマンド方式の印刷環境です。プリント・コピー・スキャンができる複合機やモノクロ・カラー大判プリンタがあります。ただし、教育・研究目的以外の利用は禁止しています。

プリントシステムは印刷ポイントによる出力管理を行っています。毎年度初めに各ユーザに初期ポイントとして 1,000 ポイントを付与し、利用の度に利用種別に応じたポイントが消費されます。ポイントの追加には、申請書が必要です。必要ポイント数の証明書発行願を購入し、2 号館 4 階 PC カウンターへ提出してください。ただし、年度をまたぐポイントの持ち越しはできないので注意してください。

参考) ユーザ端末、プリンタ設置台数

場所	室名	ユーザ端末	複合機	モノクロ大判	カラー大判
1 号館 6 階	学生ラウンジ		1 台		1 台
2 号館 1 階	閲覧エリア 1		1 台		1 台
2 号館 2 階	閲覧エリア 4	4 台	2 台※		
	静粛閲覧エリア		1 台		
2 号館 4 階	PC 教室 1	84 台	1 台		
	PC 教室 2	42 台	1 台		
	PC 教室 3	68 台	1 台		
	PC 教室 4	56 台	1 台		
	PC 教室 5	80 台	3 台	2 台	
	PC 教室 6	50 台	2 台	1 台	1 台
	PC 教室 7		1 台		1 台
	プリントルーム	2 台	1 台	1 台	1 台

※閲覧エリア 4 に設置している複合機の 1 つは現金利用複合機です。

※設置場所や設置台数は変更する場合があります。最新の情報は、Web ページで確認してください。

(3) メールシステム

学生には入学と同時にメールアドレスが付与されます。

メールアドレスは、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。

ブラウザを利用した Web メールシステムも提供しています。自宅、外出先から、Internet Explorer などのブラウザが使える環境があればメールの送受信が可能です。また、メールを他のメールアドレスや携帯電話に転送するよう設定ができますので活用してください。

大学からのお知らせが個人宛に送られてきますので、日々確認してください。

マナーを守り、コミュニケーションツールとして利用してください。

(4) ネットワーク

■無線 LAN

東京千住キャンパス内では、ほぼ全域で無線 LAN の利用ができます。

■情報コンセント

東京千住キャンパスでは、以下の場所に情報コンセントを備えています。

場所	施設名称
1 号館 2 階	丹羽ホール
2 号館 1 階	図書館
2 号館 2 階	図書館
2 号館 4 階	PC 教室 5（一部）、PC 教室 6（一部）、PC 教室 7
2 号館 9 階	2901、2903 教室
2 号館 10 階	21001、21003、21004、21005 教室

利用に際しては認証が必要になります。利用方法については Web ページを参照してください。

インターネットの利用について

- ・インターネットを経由して学外のコンピュータへ接続することは、学外他機関の通信用コンピュータや専用回線などを利用することになります。快適な利用をするために、無駄な接続やデータ転送をしないよう心がけて利用してください。
- ・総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、ネットワークの利用状況を常時モニタリングしています。
- ・メールアドレスを間違えたり、むやみに大量データの送受信をしたりしないでください。
- ・インターネット上の情報（文章・画像・音声等）の取り扱いは、著作権を侵害しないよう細心の注意を払ってください。また、「学内ネットワークを利用した営利行為」「迷惑メールの発信」「個人・特定団体への誹謗・中傷」「著作権侵害行為」などの悪質な行為は、学則に則って処分します。
- ・コメントの書き込みや記事の投稿が可能なソーシャルメディアを利用する場合には、不用意な言動が、あなた自身や家族に深刻な状況をもたらすことがあります。投稿内容は様々な地域や立場の人たちが目にします。それぞれ様々な文化的背景や価値観を持っている人たちです。ある人には問題のない言動であっても、別の人に対しては攻撃的であったり、配慮に欠けた言動と捉えられる場合があります。投稿する話題の選び方、言葉遣いと表現には注意しましょう。

(5) ソフトウェアライセンス

学生所有の PC においても大学で契約しているライセンス形態に応じて、利用できるソフトウェアがあります。

例) Microsoft 製品 ,Autodesk 製品 ,Mathematica,MATLAB,Chem Bio Draw 等ソフトウェアによりサービス内容が異なりますので、詳しくは Web ページを確認してください。

(6) PC 周辺機器貸出サービス

2 号館 4 階 PC カウンターでは、以下の PC 周辺機器を貸し出しています。必要な場合には窓口まで申し出るようにしてください。

- ・外付け DVD ドライブ
- ・ヘッドセット（授業利用優先）
- ・LAN ケーブル（1m）
- ・カードリーダー（SD カード、MS、CF 等対応）

貸出日当日に返却してください。

(7) サイネージ（電子掲示板）・KIOSK 端末

東京千住キャンパスのラウンジやロビーの各所にはサイネージ・KIOSK 端末が設置されています。

サイネージには休講補講情報や大学からのお知らせ等が表示されますので確認してください。また、KIOSK 端末に学生証をかざすと、ポータルサイト（DENDAI-UNIPA）や図書館の Web ページ、またサイネージの掲示を確認することができますので活用してください。

(8) 相談、申請

■パソコン操作やプログラム作成時のエラーなどで困ったとき

本学の大学院生が白衣を着用し利用相談員として勤務しています。

期間 : 授業期間中

場所 : 2 号館 4 階 PC 教室

※原則、自習開放している教室に勤務しています。

メール : pg-soudan@ms.dendai.ac.jp

※メールでの質問は授業期間中ならば随時受け付けています。

■各種申請手続き

総合メディアセンターへの申請手続きは、2号館4階PCカウンターにて受け付けています。

- ・プリントポイント追加申請

申請書の他に証明書自動発行機で「総合メディア印刷ポイント」の購入が必要です。

- ・パスワード初期化申請

パスワード初期化には2運営日かかります。初期化が必要とならないよう注意しましょう。

場 所： 2号館4階PCカウンター

メール： k-computer@mrcl.dendai.ac.jp

第6章 学則および諸規程

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 東京電機大学大学院学則

第1章 総 則

- 第1条（目的）** 本大学院は、本大学の使命に従い、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の向上と産業の発展に寄与することを目的とする。
- 2 本大学院は、第3条第1項に定める研究科及び専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各研究科の研究科規則に定める。
- 第2条（自己評価等）** 本大学院は、その教育研究水準の向上を図り、大学院の目的及び社会的使命を達成するため、大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。
- 2 前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。
- 3 本大学院は、第1項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。
- 4 本大学院は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 編 成

- 第3条（研究科・課程・専攻）** 本大学院に工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科及び先端科学技術研究科を設け、各研究科に次の課程及び専攻を置く。
- | | |
|----------|---|
| 工学研究科 | |
| 修士課程 | 電気電子工学専攻
物質工学専攻
機械工学専攻
情報通信工学専攻 |
| 理工学研究科 | |
| 修士課程 | 理学専攻
生命理工学専攻
情報学専攻
電子・機械工学専攻
建築・都市環境学専攻 |
| 情報環境学研究科 | |
| 修士課程 | 情報環境学専攻 |
| 未来科学研究科 | |
| 修士課程 | 建築学専攻 |

	情報メディア学専攻	
	ロボット・メカトロニクス学専攻	
先端科学技術研究科		
博士課程（後期）	数理学専攻	
	電気電子システム工学専攻	
	情報通信メディア工学専攻	
	機械システム工学専攻	
	建築・建設環境工学専攻	
	物質生命理工学専攻	
	先端技術創成専攻	
	情報学専攻	
2	前項に定める各研究科に、研究科規則を定める。	
3	前項の研究科規則に、次の事項を記載する。	
①	研究科・専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	
②	学年・学期に関する事項	
③	教育課程に関する事項	
④	課程修了の要件	
⑤	その他、大学院学則施行上の必要事項	
第4条（課程の区分・修業年限）	修士課程の標準修業年限は2年とし、工学研究科社会人コースにおいては3年とする。	
2	博士課程（後期）の標準修業年限は3年とする。	
第5条（課程の目的）	修士課程は、広い視野にたつて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。	
2	博士課程（後期）は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。	
第6条（最長在学年限）	最長在学年限は、修士課程を4年、博士課程（後期）を6年とする。 ただし、修士課程のうち工学研究科社会人コースにおいては6年を最長在学年限とする。	
第7条（入学及び収容定員）	各研究科の入学定員及び収容定員は、別表第1のとおりとする。	

第3章 運営の機関

第8条（研究科委員長）	各研究科に、研究科委員長を置く。
2	委員長の選出に関する規則は別に定める。
3	委員長は、当該研究科の校務をつかさどり、第10条に規定する研究科委員会を招集する。
第9条（大学評議会）	大学院並びに大学に大学評議会（以下「評議会」という。）を置く。
2	評議会の構成、運営その他は別に定める。
第10条（研究科委員会）	各研究科に、研究科委員会を置く。
2	研究科委員会は、大学院担当の専任教員で組織する。

- 3 大学院担当の教員の資格・種別、その選考基準及び選考手続ならびに研究科委員会の組織及び運営等については別に定める。
- 第 11 条（研究科委員会の役割、審議事項等）** 研究科委員会は、次の事項のうち、その研究科に関する事項について審議し、学長が決定するに当たり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学・修了に関する事項
 - (2) 学位授与に関する事項
 - (3) 前 2 号の他、大学院に関する重要事項で、その研究科の研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- 2 前項第 3 号の学長が研究科委員会に意見を聴くと定める事項は別に定める。
- 3 研究科委員会は、第 1 項の他、学長及び研究科委員長がつかさどる大学院等に関する次の事項のうち、その研究科に関する事項について審議し、意見を述べることができる。
 - (1) 学生の転学・留学・休学・退学及び賞罰等に関する事項
 - (2) 教育課程及び授業に関する事項
 - (3) 試験及び学位論文審査に関する事項
 - (4) 研究科委員会会員の人事のうち教育研究等の業績審査に関する事項
 - (5) 委員長候補者の推挙に関する事項
 - (6) 大学院学則及び研究科規則の改正に関する事項
 - (7) その他研究及び教育に関する事項
- 4 研究科委員会は、前各項の他、学長及び委員長が諮問した事項を審議する。
- 5 学長は、別に定める事項で通常の研究に関する研究科委員会における審議結果を追認することにより、決定することができる。

第 4 章 学年、学期及び休業日

- 第 12 条（学年・学期）** 学年は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。
 - 2 学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各研究科において定める。
- 第 13 条（休業日）** 休業日は、次のとおりとする。
 - 日曜日
 - 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
 - 創立記念日 9 月 11 日
 - 夏季休業
 - 冬季休業
 - 春季休業
- 2 夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各研究科においてその都度定める。
- 3 必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。
- 4 休業中でも、特別の必要があるときには、授業を行うことがある。

第5章 教育課程

第14条（授業科目・単位等） 各研究科における授業科目及び単位数は、各研究科規則において定める。

- 2 授業科目の単位数算定の基準については、本大学学則第22条を準用する。
- 3 授業科目の履修方法及び博士課程（後期）における必要な研究指導については、各研究科の定めるところによる。
- 4 本大学院は、授業並びに研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

第15条（大学院の教育方法の特例） 各研究科においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、標準修業年限の全期間にわたり、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

第16条（他の大学院における授業科目の履修） 学生が各研究科の定めるところにより、他大学の大学院または外国の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その修得した単位のうち10単位を超えない範囲で、その研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第17条（入学前の既修得単位の認定） 学生が、本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科委員会が教育上有益と認めた場合、本大学院に入学した後の本大学院当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、本大学院において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

第18条（他の大学院または研究所等における研究指導） 学生が、他の大学院または研究所等において課程修了に必要な研究指導の一部を受けることが教育上有益であると研究科委員会が認めた場合、当該大学院（もしくは研究科）または研究所等の協議に基づき、その研究指導を受けることを認めることができる。

- 2 前項の規定により研究指導を受けることのできる期間は、1年を超えないものとする。ただし、修士課程を除き、研究科委員会が教育上有益と認めた場合、さらに1年以内に限り延長を認めることができる。
- 3 前2項の規定は、学生が外国の大学院または研究所等において研究指導を受けようとする場合に準用する。

第19条（学部等における授業科目の履修） 修士課程においては、教育上有益と当該研究科委員会が認めた場合で、次の各号に掲げる科目を修得したときは、当該研究科の修士課程における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- (1) 本大学学部の科目
- (2) 本大学院の他の研究科の科目

- 2 前項第1号の科目は、各修士課程の修了要件に含めないものとする。

第20条（教員の免許状取得資格） 教育職員の免許状を取得しようとする者は、本学で定めている教職課程に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。

2 本大学院において取得できる免許状の種類は別表第2のとおりとする。

第6章 課程修了の要件とその認定

第21条（修士課程修了の要件） 修士課程の修了要件については、修士課程を置く各研究科の研究科規則において定める。

第22条（博士課程（後期）修了の要件） 博士課程（後期）の修了要件については、博士課程（後期）を置く各研究科の研究科規則において定める。

第23条（課程修了の認定・成績評価） 課程修了の認定は、各研究科委員会が行う。

2 学位論文審査及び最終試験の成績評価は、各研究科委員会が定める手続、方法等に従い、当該研究科委員会から委嘱された論文審査委員及び最終試験委員が行う。

3 科目及び論文審査の評価は、次のとおりとする。

〔先端科学技術研究科〕

(1) 科目及び論文審査

A 合格

B 合格

C 合格

D 不合格

(2) 最終試験

合格

不合格

〔工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科〕

(1) 科目及び論文審査

S 合格

A 合格

B 合格

C 合格

D 不合格

(2) 最終試験

合格

不合格

第7章 学位授与

第24条（学位の授与） 本大学院の課程を修了した者には、「東京電機大学学位規程」の定める手続により、研究科委員会の議を経て修士または博士の学位を授与する。

2 博士課程（後期）を経ないで論文を提出し、博士の学位を請求した者に対する論文審査及び学力の確認は、「東京電機大学学位規程」及び「東京電機大学博士課程によらない学位請求の審査規程」の定めるところによる。

第 25 条（学位の種類・名称） 学位の種類及び名称は、別表第 3 のとおりとする。

第 8 章 入学、学籍の異動及び賞罰

第 26 条（入学の時期） 入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

第 27 条（入学資格） 修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
 - (5) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者
 - (7) 大学に 3 年以上在学し、又は、外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本大学院当該研究科委員会が、特に優れた成績で所定の単位を修得したものと認めた者
 - (8) 本大学院当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者
 - (9) その他本大学院当該研究科委員会が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- 2 博士課程（後期）に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 修士の学位を有する者
 - (2) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (4) 大学を卒業し、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本大学院当該研究科委員会が、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - (5) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - (6) 本大学院当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達した者
 - (7) その他本大学院当該研究科委員会が、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

第 28 条（入学志願手続） 入学志願者は、指定の期間内に、所定の入学志願手続をとらなければならない。

第 29 条（修士課程入学者の選考） 修士課程への入学者の選考は、学科試験、人物考査及び健康診断等の方法による選抜試験により行う。

2 学科試験は、主として筆記とし、必要があるときは口述を加えることがある。

3 筆記試験は、専門に関する学科目と外国語について行う。

第 30 条（博士課程（後期）入学者の選考） 博士課程（後期）への入学者の選考は、筆記試験、口述試験、修士課程における学業成績、修士論文、人物考査及び身体検査等の方法による選抜試験により行う。

第 31 条（入学手続） 入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに保証人連署の誓約書その他の必要な書類に別表第 4 に定める学費を添えて、入学手続をしなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第 32 条（転学） 他の大学院の学生が、所属大学の学長または研究科の長の承認書を添えて本大学院に転学を志望したときは、選考の上、学年または学期の始めに入学を許可することがある。

2 学生が、他の大学院への転学を願い出たときは、事情によって許可することがある。

第 33 条（再入学） 大学院を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

第 34 条（留学） 学生が、外国の大学院等の授業科目の履修または研究指導を受けるために留学を願い出たとき、その学生の所属の研究科委員会が、本人の教育上有益であると認めた場合、許可することができる。

2 留学期間は 1 年を原則とし、その期間は 1 年を限度として、第 21 条もしくは第 22 条に定める在学年数に算入できる。

3 留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

第 35 条（休学） 傷病その他の理由で引き続き 3 ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書もしくは理由書を添え、休学届を提出し、研究科委員長の許可を受けなければならない。

2 休学は当該年度限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。

3 休学期間は、各課程それぞれ 2 年を超えることはできない。

4 休学の理由が消滅したときには、復学届を提出し、研究科委員長の許可を受けなければならない。

5 休学期間は、在学年数に算入しない。

6 休学者は学期ごとに、60,000 円の在籍料を納入する。

第 36 条（退学） 傷病その他の理由により退学しようとする者は、理由書を添え、保証人連署の退学届を提出し、許可を受けなければならない。

第 37 条（除籍） 次の各号のいずれかに該当する者は除籍とする

(1) 第 6 条に定める最長在学年限を超えた者

- (2) 第 35 条第 3 項に定める通算休学期間を超えても復学しない者
- (3) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
- (4) 正当な理由がなく、無届けで、引き続き 3 ヶ月以上欠席した者
- (5) 所定の学費の納入期日から起算して、3 ヶ月以内に学費を納入しない者

第 38 条（表彰） 学生として表彰に価する行為があった者については、学長または委員長は表彰することができる。

第 39 条（懲戒） 学則に基づいて定められている規則、規程等に違反し、あるいはその他学生としての本分に反する行為があった学生に対しては、研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で、改悛の見込みがないと認められた者
 - (2) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第 9 章 科目等履修生

第 40 条（科目等履修生） 本大学院の学生以外の者で、本大学院で開設している 1 または複数の授業科目の履修を希望する者は、選考の上、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

- 2 科目等履修生に関する事項は、別に定める。

第 10 章 外国人特別学生

第 41 条（外国人特別学生） 外国人であって、第 27 条に定める入学資格がある者は、選考の上、入学を許可することができる。

第 11 章 学費及びその他の費用

第 42 条（学費及びその他の費用） 入学検定料、学費及び科目等履修費は別表第 4 のとおりとする。

- 2 学費とは、入学金及び授業料をいう。
- 3 博士の学位論文審査料については、別に定める。
- 4 学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。
- 5 すでに納入した学費その他の費用等は、返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。
- 6 授業料は分納することができる。

新人生へ
学修案内
K M J
K M H
K M S
K M K
K M F
K M C
履修案内
U N I P A
生活案内
施
設
学則・規程
沿
革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第 12 章 改正及び雑則

- 第 43 条（改正） 本学則の改正は、評議会の議を経なければならない。
- 第 44 条（施行細則その他） 本学則の施行に必要な細則等は、別に定めることができる。

附 則（省略）
別表第 1 ～ 4 （省略）

2 東京電機大学大学院工学研究科規則

第1章 総 則

第1条（趣旨） この規則は、東京電機大学大学院学則（以下「大学院則」という。）第3条第2項に基づき、工学研究科（以下「本研究科」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程、課程修了の要件その他大学院則施行上必要な事項を定める。

第2条（人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的） 本研究科は、学部教育で養った科学技術分野に関する知識を基礎とし、さらに幅広く深い学識の涵養を図り、科学技術分野における研究能力及び高度の専門性を要する職業等に必要な卓越した能力を培うことを目的とする。

すなわち、確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理観を持ち、現代社会での問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者を養成する。

2 本研究科の各専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) 電気電子工学専攻は、学部教育で養った電気工学と電子工学及びその統合分野と関連分野に関する総合的な知識と技術をさらに発展・進化させ、電気電子工学分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、電気電子工学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理観を持ち、現代社会での問題に実践的に即応できる電気電子工学分野における研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行う。

(2) 物質工学専攻は、学部教育で養った環境を意識した化学、生物及び物理を基盤とする技術分野に関する基礎から応用までの知識と技術をさらに発展・進化させ、新素材に代表される物質及び環境化学分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、物質・環境化学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理観を持ち、現代社会での物質・環境化学分野の問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行う。

(3) 機械工学専攻は、学部教育で養った機械技術及び機械システムとその関連分野及び周辺分野に関する基礎から応用までの総合的な知識と技術をさらに発展・進化させ、機械工学分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、機械工学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理観を持ち、現代社会での機械工学分野の問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行う。

(4) 情報通信工学専攻は、学部教育で養った情報・コンピュータ技術と通信技術の両分野に関する基礎から応用までの総合的知識をさらに発展・進化させ、情報通信分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を養成することを目的とする。

すなわち、情報通信工学分野に関する確かな基礎力と独創性、創造性のある研究能力と高い倫理観を持ち、現代社会での情報通信工学分野の問題に実践的に即応できる研究者及び高度科学技術者養成のための教育研究を行う。

第2章 組織

第3条（コース制） 本研究科は、電気電子工学専攻及び機械工学専攻に、次のコースを置く。

- (1) 電気電子工学専攻
 - 電気電子システムコース
 - 電子光情報コース
- (2) 機械工学コース
 - 機械工学コース
 - 先端機械コース

第3章 学年及び学期

第4条（学年・学期） 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

- 2 学年を、次の2つに分ける。
 - 前学期 4月1日から9月10日まで
 - 後学期 9月11日から翌年3月31日まで

第4章 教育課程

第5条（授業科目・単位等） 本研究科における授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

第5章 成績及び修了

第6条（成績評価・単位認定） 本研究科は大学院則第22条に基づき、科目の成績評価を行う。

- 2 本研究科における、成績評価及びGPA（Grade point Average）ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPA ポイント
90～100	S	4
80～89	A	3
70～79	B	2
60～69	C	1
0～59	D	0
放棄	—	0

第7条（修士課程修了の要件） 本研究科において修士課程を修了するには、2年以上在学し、

自由科目を除き、所要科目 30 単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1 年以上の在学で修了を認めることができる。

2 前項の場合において、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

第6章 改正

第8条（改正） この規則の改正は、本研究科委員会の議を経なければならない。

附 則（省略）

別表第1（省略）

3 東京電機大学学位規程

第1章 総 則

第1条（目的） 本学学位規程は、本学において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条（学位の種類等） 本学において授与する学位は、博士、修士及び学士であり、それに付記する専攻分野は次のとおりとする。

博士（工学）	博士（理学）
博士（情報学）	
修士（工学）	修士（理学）
修士（情報環境学）	修士（情報学）
学士（工学）	学士（理学）
学士（情報環境学）	学士（情報学）

第3条（学位の授与の要件） 博士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、博士課程（後期）を修了した者に授与する。

2 前項に規定する者のほか、本学大学院学則第23条第2項により博士の学位は、本学に学位論文を提出してその審査及び学力の確認に合格し、かつ、人物学力とも本学大学院の博士課程（後期）に所定期間在学し所定の専攻科目について所定単位以上を修得した者と同等以上と認められた者に授与することができる。

3 修士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、修士課程を修了した者に授与する。

4 学士の学位は本学大学学則の定めるところにより、本大学を卒業した者に授与する。

第2章 学位の授与

第4条（学位の授与） 前条における大学院の修士課程及び博士課程（後期）の修了者については、本学大学院学則第23条第1項の定めるところにより、また本大学の卒業者については、本学大学学則第32条第1項の定めるところにより、それぞれ学位を授与する。

第5条（論文提出による学位の授与） 第3条第2項により、博士の学位論文を提出した者については本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程の定めるところにより審査の上、学位を授与することができる。

第6条（課程の修了及び論文の審査の議決） 研究科委員会は、第3条第1項及び第3項によるものについては本学大学院学則の定めるところにより、それぞれ課程の修了の可否を議決する。

2 前項の研究科委員会は、会員総数（長期海外出張者及び休職者を除く）の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

3 第1項の議決は出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

4 第3条第2項によるものについては本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程

の定めるところに従って決する。

第7条（学長への報告） 研究科委員会が前条の議決をしたときは、当該研究科委員会の委員長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

2 学部教授会が卒業を認定したときは、当該学部長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

第8条（学位記の交付） 学長は、前条の報告に基づいてそれぞれ学位記を授与するものとする。

第3章 論文の公表、学位の名称の使用

第9条（論文要旨等の公表） 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

第10条（学位論文の公表） 博士の学位の授与を受けた者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文全文を公表するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに公表したときはこの限りでない。

2 前項にかかわらず、博士の学位の授与を受けた者は、やむをえない事由がある場合には、研究科委員会の承認を受け、その論文全文に代えて要約したものを公表することができる。この場合、研究科はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学総合メディアセンターの協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

第11条（学位の名称の使用） 学位の授与を受けた者は、学位の名称を用いるときは、当該学位を授与した本学名を、博士（工学）（東京電機大学）、博士（理学）（東京電機大学）、博士（情報学）（東京電機大学）、修士（工学）（東京電機大学）、修士（理学）（東京電機大学）、修士（情報環境学）（東京電機大学）、修士（情報学）（東京電機大学）、学士（工学）（東京電機大学）、学士（理学）（東京電機大学）、学士（情報環境学）（東京電機大学）、学士（情報学）（東京電機大学）のように付記するものとする。

2 学位記の様式は、別表第1から別表第4のとおりとする。

3 外国人留学生に対し、本人からの申請に基づき、別表第1から別表第4の学位記に代えて、別表5の様式で英語版学位記を交付する。

第4章 学位授与の取消、学位記の再交付、学位授与の報告

第12条（学位授与の取消） 学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、当該研究科委員会又は当該学部教授会の議を経て学位の授与を取消することができる。

第13条（学位記の再交付） 学位記（英語版も含む）の再交付は行わない。

第14条（学位授与の報告） 本学において博士の学位を授与したときは、学長は当該博士の学位を授与した日から3月以内に所定の様式により、文部科学大臣に報告するものとする。

2 本規程一部改正を行ったとき、文部科学大臣に報告するものとする。

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

付 則（省略）
別表第 1 ～ 5（省略）

4 学生生活についての規程

第1条（目的） この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適正に保つことを目的とする。

第2条（学生に対する通知・連絡） 学生に対する通知・連絡は掲示又は電子媒体により行う。掲示又は電子媒体にて1週間掲載された通知・連絡事項は、関係ある学生全員に通知・連絡されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

第3条（学生証） 学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年4月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学教職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

2 学生証は卒業・退学・除籍の場合は直ちに返納の手続きを受けること。

3 学生証を紛失したときは直ちに諸手続きを経て再交付を受けること。

4 学生証は他人に貸与又は譲渡してはならない。

第4条（保証人） 学生は、入学手続き時に父母又は、これに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人は原則、日本在住の者とする。保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

第5条（現住所及び連絡先） 学生は、その現住所及び連絡先（通常連絡がとれる電話番号等）を明らかにし、現住所及び連絡先に変更があったときは、直ちに変更届を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

第6条（学生による掲示） 学内における学生による掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし、掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

2 学内における学生の掲示場所は 所定の学生掲示板とする。

3 掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。

4 新入生オリエンテーション、学園祭等特別な行事の際は、所定の学生掲示板以外に特に工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出された学生自治会の特別掲示許可の要望に基づき、期間を定めて掲示を許可することがある。

5 期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

第7条（学生による印刷物の発行・配布） 学生による印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

第8条（学生の学内集会） 学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては各学部事務部長あてに提出すること。

ア 団体名

- イ 団体の責任者の氏名
- ウ 集会の目的
- エ 集会の場所
- オ 集会の日時
- カ 参加者の人数
- キ 学外者参加団体名及び人数
- ク その他

提出期限は原則として、開催日の1週間前とする。

2 集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。

3 集会は、東京千住キャンパスにおいては22時20分、埼玉鳩山キャンパス並びに千葉ニュータウンキャンパスにおいては21時までとする。ただし、東京千住キャンパスにおいては学生支援センター長、他のキャンパスにおいては各学部事務部長が認めた場合は、それ以外の時間を別に定める。

4 学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に次の事項を記載した宿泊願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出し、本学の許可を受けなければならない。又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

- ア 団体名及び宿泊責任者の氏名
- イ 宿泊場所
- ウ 宿泊の目的
- エ 宿泊人数
- オ 宿泊する学生の氏名及び連絡先
- カ 宿泊する学生の保証人の連絡先

5 本条で認められている事項は、第10条で定める手続きを行っている団体に適用される。
 なお、研究室における活動等教育研究に係る活動については別に定める。

第9条（学生の学外における正課外活動） 学生の団体が学外において正課外活動を行おうとするときは、開始日の1週間前までに、所定の学外活動願を工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに提出すること。

第10条（団体の結成） 学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに願い出ること。

2 団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかに工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。

3 学生の団体の継続については、毎年5月末日現在における所属学生の名簿を、工学部、工

学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長あてに、他の学部においては、各学部事務部長あてに届け出ること。届け出のない団体については、工学部、工学部第一部、工学部第二部、未来科学部においては、学生支援センター長が、他の学部においては、各学部事務部長が解散したものとみなす。

付 則（省略）

新人生へ
学修案内
K M J
K M H
K M S
K M K
K M F
K M C
履修案内
U N I P A
生活案内
施 設
学則・規程
沿
革
校歌・学生歌
キャンパス案内

5 東京電機大学学生救済奨学金貸与規程

第1条（目的） この規程は、教育の機会均等の精神に基づき、経済的事由が急変したために修学に困難をきたした者に、救済奨学金を貸与し（以下貸与された者を「救済奨学生」という。）、もって学業継続の機会を与えることを目的とする。

第2条（救済奨学資金） この規程による救済奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第3条（救済奨学生の選考・決定等） 救済奨学生は、東京電機大学大学院及び東京電機大学のいずれかに在籍する学生であって、学業達成に意欲的で心身共に健康であり、かつ、主たる家計支持者の経済的事由の急変が次の各号のいずれかに該当し、学費の支弁が困難であると認められるとともに、救済奨学金の貸与により学業継続が可能であると認められる者のうちから採用する。

- (1) 失業又は事業の倒産
- (2) 被災
- (3) 長期療養
- (4) 死亡
- (5) その他学費の支弁が困難であると救済奨学生選考委員会が認める事項

2 救済奨学生の採用は、救済奨学生選考委員会の選考に基づき、学長がこれを決定する。

第4条（救済奨学金の貸与額） 東京電機大学大学院、東京電機大学工学部、工学部第一部、工学部第二部（平成17年度以前入学者）、理工学部及び未来科学部における救済奨学金の貸与額は、それぞれの学則に定める半期分の学費相当額とする。

2 東京電機大学工学部第二部（平成18年度以降入学者）及び情報環境学部における救済奨学金の貸与額は、当該学期の授業料基礎額及び履修予定単位数分の従量額並びに教育充実費相当額とする。

3 救済奨学金は学費に充当しなければならない。

第5条（採用） 救済奨学生の採用は、原則として毎年4月又は10月とし、各校における在籍期間中1回とする。

第6条（救済奨学生の資格停止） 救済奨学生が休学したときは、救済奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した救済奨学金を返還させることができる。

第7条（救済奨学生の資格取消） 救済奨学生が次の各号のいずれかに該当し、救済奨学生として不適格と認められたときは、救済奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 救済奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により救済奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された救済奨学金の全額を返還しなければならない。

第8条（救済奨学金の返還） 救済奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

2 救済奨学金の返還に係る手数料は、救済奨学生が負担する。

3 返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し5年間とする。

ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子） 貸与した救済奨学金は無利子とする。

第10条（褒賞金の給付・返還の免除） 次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、既に貸与した救済奨学金の一部または全部を褒賞金として給付することがある。ただし、褒賞金は返還金に充当しなければならない。

(1) 卒業あるいは修了時に優秀な成績を修めたとき。

(2) 卒業あるいは修了時に著しい学業成果を修めたとき。

2 救済奨学生が死亡又は不具廃疾のため返還不能と認められたときは、救済奨学金の返還の一部又は全部を免除することがある。

第11条（事務） 救済奨学生の採用等に係る事務は学生支援センターが、救済奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第12条（実施） この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

新人生へ
学修案内
K M J
K M H
K M S
K M K
K M F
K M C
履修案内
U N I P A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

6 東京電機大学学生支援奨学金貸与規程

第1条（目的） この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生に支援奨学金を貸与し（以下貸与された者を「支援奨学生」という。）、もって学生の有為な自己資質向上に資することを目的とする。

第2条（支援奨学資金） この規程による支援奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第3条（支援奨学生の推薦・決定等） 支援奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、次の各号のいずれかに該当する者のうちから採用する。

- (1) 本学主催の海外英語短期研修に参加する者
- (2) 自己資質向上を目的とした教育装置等を購入する者
- (3) その他自己資質向上の実現に意欲があると認められる者

2 支援奨学生は、次の各号のいずれかに該当する者を除く。

- (1) 休学中の者
- (2) 留学中の者
- (3) 所定修業年限を超えて在学している者

3 支援奨学生の採用は、学生支援センター長が推薦し、学長がこれを決定する。

第4条（支援奨学金の貸与額） 支援奨学金の貸与額は、30万円の範囲内で学生支援センター長が査定する。

2 支援奨学金は前条第1項の各号に定める用途に充当しなければならない。

第5条（採用） 支援奨学生の採用は、各校における在学期間中1回とする。

第6条（支援奨学生の資格停止） 支援奨学生が休学したときは、支援奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した支援奨学金を返還させることができる。

第7条（支援奨学生の資格取消） 支援奨学生が次の各号のいずれかに該当し、支援奨学生として不適格と認められたときは、支援奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 支援奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により支援奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された支援奨学金の全額を返還しなければならない。

第8条（支援奨学金の返還） 支援奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

2 支援奨学金の返還に係る手数料は、支援奨学生が負担する。

3 返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し5年間を限度とする。ただし、在学期間中を含め年賦返済又は繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子） 貸与した支援奨学金は無利子とする。

第10条（事務） 支援奨学生の採用等に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が、支援奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第11条（実施） この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

7 東京電機大学大学院奨学金貸与規程

第1条（目的） この規程は、東京電機大学大学院学生に対し奨学金を貸与し（以下貸与された者を「貸与奨学生」という。）、もって有為な人材の育成に資することを目的とする。

第2条（奨学資金） この規程による奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第3条（貸与奨学生の選考・決定） 貸与奨学生は、東京電機大学大学院の学生であって、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、学費の支弁が困難である者のうちから採用する。
ただし、次の各号のいずれかに該当する者は除く。

- (1) 休学中の者
- (2) 留学中の者
- (3) 修士課程2年、博士後期課程3年の修業年限を超えて在学している者

2 貸与奨学生は、大学院各研究科委員会の選考を経て、学長がこれを決定する。

第4条（奨学金の貸与額） 奨学金の貸与額は、当該授業料の2分の1以内の額とする。ただし、特別奨学金の受給者は、本貸与奨学金との合計額が授業料の全額を超えることはできない。

2 奨学金は授業料に充当しなければならない。

第5条（採用） 奨学生の採用は、当該年度限りとする。ただし、引き続き採用することを妨げない。

第6条（貸与奨学生の資格停止） 貸与奨学生が休学したときは、貸与奨学生の資格を停止する。
この場合、既に貸与した奨学金を返還させることができる。

第7条（貸与奨学生の資格取消） 貸与奨学生が次の各号のいずれかに該当し、貸与奨学生として不適格と認められたときは、貸与奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 貸与奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により貸与奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された奨学金の全額を返還しなければならない。

第8条（奨学金の返還） 奨学金の返還は、元金均等年賦返済とする。

2 奨学金の返還に係る手数料は、奨学生負担とする。

3 返還期間は、修士課程、若しくは博士後期課程を修了（或いは満期退学）した年度の翌年度から起算し5年間とする。ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子） 貸与した奨学金は無利子とする。

第10条（事務） 貸与奨学生の採用等に係る事務は学生支援センターが、奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第11条（実施） この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第7章 沿 革

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 沿 革

- 1907.9. (明治 40 年) ・ 東京・神田に電機学校創立 (9 月 11 日)
- 1949.4. (昭和 24 年) ・ 東京電機大学開設<工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置>
- 1950.4. (昭和 25 年) ・ 東京電機大学短期大学部開設<電気科第二部設置>
- 1952.4. (昭和 27 年) ・ 工学部第二部開設<工学部第二部電気工学科設置>
- 1956.2. (昭和 31 年) ・ 東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
- 1958.4. (昭和 33 年) ・ 東京電機大学大学院 (夜間) 開設<工学研究科電気工学専攻 (修士課程) 設置>
- 1960.4. (昭和 35 年) ・ 工学部第一部電子工学科設置
- 1961.4. (昭和 36 年) ・ 工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
・ 工学部第二部電気通信工学科設置
- 1962.4. (昭和 37 年) ・ 大学院工学研究科博士課程開設<電気工学専攻 (博士課程) 設置>
・ 工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
- 1965.4. (昭和 40 年) ・ 工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
- 1975.4. (昭和 50 年) ・ 工学研究科電気工学専攻 (修士課程) (昼間) 設置
- 1977.4. (昭和 52 年) ・ 鳩山キャンパス開設、理工学部開設<数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置>
- 1981.4. (昭和 56 年) ・ 理工学研究科開設<数理学専攻 (修士課程)・システム工学専攻 (修士課程)・建設工学専攻 (修士課程)・機械工学専攻 (修士課程) 設置>
・ 総合研究所開設
- 1983.4. (昭和 58 年) ・ 理工学研究科博士課程開設<応用システム工学専攻 (博士課程) 設置>
- 1984.4. (昭和 59 年) ・ 理工学研究科数理学専攻 (博士課程) 設置
- 1986.4. (昭和 61 年) ・ 理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
- 1990.4. (平成 2 年) ・ 千葉ニュータウンキャンパス開設
・ 工学研究科情報通信工学専攻 (修士課程)・電子工学専攻 (修士課程) 設置
・ 理工学研究科情報科学専攻 (修士課程)・応用電子工学専攻 (修士課程) 設置
- 1991.4. (平成 3 年) ・ 工学研究科機械システム工学専攻 (修士課程)・物質工学専攻 (修士課程) 設置
- 1992.4. (平成 4 年) ・ 工学研究科情報通信工学専攻 (博士課程)・電子工学専攻 (博士課程)、建築学専攻 (修士課程) 設置
・ 理工学研究科数理学専攻 (博士課程) を数理科学専攻 (博士課程) に名称変更
- 1993.4. (平成 5 年) ・ 工学研究科機械システム工学専攻 (博士課程)、物質工学専攻 (博士課程) 設置
・ 工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
- 1995.4. (平成 7 年) ・ 工学研究科建築学専攻 (博士課程) 設置

1997.4. (平成 9 年)	・ 超電導応用研究所、建設技術研究所設立 ・ 産官学交流センター設立
1997.6. (平成 9 年)	・ ハイテク・リサーチ・センター設立
1999.4. (平成 11 年)	・ 理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を智能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更 ・ フロンティア共同研究センター設立
2000.4. (平成 12 年)	・ 理工学部生命工学科、情報社会学科設置
2001.4. (平成 13 年)	・ 情報環境学部開設<情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置> ・ 大学院工学研究科機械工学専攻（修士課程・博士課程）、精密システム工学専攻（修士課程・博士課程）設置
2002.4. (平成 14 年)	・ 工学部第一部情報メディア学科設置 ・ 工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更 ・ 理工学研究科生命工学専攻（修士課程）設置 ・ 理工学研究科数理科学専攻（博士課程）を数理・情報科学専攻（博士課程）、数理学専攻（修士課程）を数理科学専攻（修士課程）、システム工学専攻（修士課程）を情報システム工学専攻（修士課程）、機械工学専攻（修士課程）を智能機械工学専攻（修士課程）に名称変更
2003.4. (平成 15 年)	・ 理工学研究科応用電子工学専攻（修士課程）を電子情報工学専攻（修士課程）に名称変更
2004.4. (平成 16 年)	・ 情報環境学研究科（修士課程）開設<情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）設置> ・ 工学研究科情報メディア学専攻（修士課程・博士課程）設置 ・ 理工学研究科情報社会学専攻（修士課程）設置 ・ 超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更
2005.7. (平成 17 年)	・ 東京電機大学短期大学廃止 ・ 工学研究科機械システム工学専攻（修士課程・博士課程）廃止
2006.4. (平成 18 年)	・ 先端科学技術研究科（博士課程（後期））開設<数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置>（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止） ・ 理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更 ・ 情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止）
2007.4. (平成 19 年)	・ 学園創立 100 周年（9 月 11 日） ・ 未来科学部開設<建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置> ・ 工学部開設<電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置>（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質

新入生へ		化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止)
学修案内		・理工学部理工学科設置<4学系体制:サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系>(※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止)
KMJ		
KMH	2008.4.(平成20年)	・工学部第二部電気電子工学科設置(※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止)
KMS	2009.4.(平成21年)	・未来科学研究科(修士課程)開設<建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置> ・工学研究科電気電子工学専攻(修士課程)設置(※工学研究科電気工学専攻(修士課程)、電子工学専攻(修士課程)、精密システム工学専攻(修士課程)、情報メディア学専攻(修士課程)、建築学専攻(修士課程)の学生募集停止)
KMK		
KMF		・理工学研究科理学専攻(修士課程)、情報学専攻(修士課程)、デザイン工学専攻(修士課程)、生命理工学専攻(修士課程)設置(※理工学研究科数理科学専攻(修士課程)、情報科学専攻(修士課程)、情報システム工学専攻(修士課程)、建設環境工学専攻(修士課程)、知能機械工学専攻(修士課程)、電子情報工学専攻(修士課程)、生命工学専攻(修士課程)、情報社会学専攻(修士課程)の学生募集停止)
KMC		・情報環境学研究科情報環境学専攻(修士課程)設置(※情報環境学研究科情報環境工学専攻(修士課程)、情報環境デザイン学専攻(修士課程)の学生募集停止)
履修案内		・理工学部理工学科学系再編<5学系体制:理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編>
UNIPA		
生活案内	2010.4.(平成22年)	・工学研究科電気工学専攻(修士課程)、電子工学専攻(修士課程)の廃止 ・理工学研究科数理科学専攻(修士課程)、情報科学専攻(修士課程)、情報システム工学専攻(修士課程)、建設環境工学専攻(修士課程)、知能機械工学専攻(修士課程)、生命工学専攻(修士課程)、情報社会学専攻(修士課程)の廃止
施設		
学則・規程	2010.9.(平成22年)	・工学研究科情報メディア学専攻(修士課程)の廃止
沿革	2011.3.(平成23年)	・建設技術研究所の廃止
革	2011.4.(平成23年)	・工学研究科精密システム工学専攻(修士課程)、理工学研究科電子情報工学専攻(修士課程)、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻(修士課程)の廃止 ・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止
校歌・学生歌	2012.4.(平成24年)	・東京千住キャンパス(100周年記念キャンパス)開設(先端科学技術研究科(東京神田キャンパス所属)、工学研究科(修士課程)、未来科学研究科(修士課程)、工学部、工学部第二部、未来科学部が、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転)
キャンパス案内		

- ・情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）の廃止
- ・理工学部情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の廃止
- 2012.10.（平成 24 年）・研究組織等の改編に伴い、研究推進社会連携センター設立
- 2013. 4.（平成 25 年）・理工学研究科電子・機械工学専攻（修士課程）、建築・都市環境学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の学生募集停止）
- ・工学研究科建築学専攻（修士課程）の廃止
- ・工学部第一部機械情報工学科、情報通信工学科の廃止
- ・理工学部数理科学科、建設環境工学科、知能機械工学科の廃止
- 2013. 9.（平成 25 年）・工学部第一部環境物質科学科の廃止
- 2014. 4.（平成 26 年）・工学部第一部電気工学科の廃止
- ・理工学部生命工学化の廃止
- 2014. 8.（平成 26 年）・インスティテューショナル リサーチ センター設立
- 2014. 9.（平成 26 年）・工学部第一部建築学科の廃止
- ・理工学研究科デザイン工学専攻（修士課程）の廃止

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第8章 大学校歌・学生歌

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

1 東京電機大学校歌

歯切れよく 雄大に

草野心平 作詞

平岡照章 作曲



1. に ち り ん は て ん に か が や き
2. て ん た い は い よ よ ち か づ き

は く う ん は ふ じ に わ き た つ と も が ら よ
め ぐ る し き じ か ん は は や し と も が ら よ

ま ゆ あ げ よ お 、 い な る れ き し の な か で
ゆ め も て よ お 、 い な る じ く う を め ざ し

わ れ ら あ た ら し い し ん り を つ く る 一 と う き ょ
わ れ ら あ た ら し い ふ ん か を つ く る 一 と う き ょ

う 一 で ん だ い 一 わ れ ら が 一 ほ こ う 一 あ
う 一 で ん だ い 一 わ れ ら が 一 ほ こ う 一 あ

あ 一 た た え ん か な そ の 一 で ん と う 一
あ 一 さ ん ぜ ん た り そ の 一 み ら い 一

東京電機大学校歌

一、
日輪は
白雲は
朋がらよ
大いなる
われら新しい
東京電大
あ、讃えん哉
その伝統

天にかがやき
富士に沸きたつ
眉あげよ
歴史のなかで
真理を創る
われらが母校

二、
天体は
めぐる四季
朋がらよ
大いなる
われら新しい
東京電大
あ、燦然たり
その未来

いよよ近づき
時間は早し
夢もてよ
時空をめざし
文化を創る
われらが母校

2 東京電機大学学生歌

望月直文 作詞

田辺尚雄 作曲



1. ミヨニッポンノ アサ ボラケ ジュウ ノ テンチ ココニア
2. きけたそがれの かね のこえ へいわ の いのり ここにあ
3. アアイクマンノ ハラ カラヨ ワレラ ノ ホコリ ココニア



リ レイ ロ ウ フー ジ ャー アオ ギ ツ ツ
リ あー い とー まこ とをー たた え つ つ
リ シン リ ャー キー ワ メー ワザ ャ ネ リ



キ ョ キ コ コ ロ ノー ワ カ ウ ド ハ ジリッ キョーワノ
あつき ちし ほ のー わ か う ど は つくや ひびきも
モ ュ ル キ ボ ウ ノー ワ カ ウ ド ハ イマキ ンテツノ



ハ タ タ カ ク ミンシュノセカイ サキガケン
おーらかに くおんのりそう ぐげんせん
イシカタク ブンカノハギョウ ナシトゲン

東京電機大学学生歌

一、見よ日本のあさばらけ

自由の天地ここにあり

玲瓏富士を仰ぎつつ

高潔き心の若人は

自律協和の旆高く

民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音

平和の祈願ここにあり

信愛と誠実をたたえつつ

熱き血潮の若人は

撞くや響もおほらかに

久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ

我等の誇りにここにあり

真理を究め技術を練り

燃ゆる希望の若人は

今金鉄の意志かたく

文化の覇業なしとげん

新人生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

第9章 東京千住キャンパス案内

新人生へ

学修案内

KMJ

KMH

KMS

KMK

KMF

KMC

履修案内

UNIPA

生活案内

施

設

学則・規程

沿

革

校歌・学生歌

キャンパス案内

新入生へ
学修案内
KMJ
KMH
KMS
KMK
KMF
KMC
履修案内
UNI-P/A
生活案内
施設
学則・規程
沿革
校歌・学生歌
キャンパス案内

東京千住キャンパス案内

東京千住キャンパスは、4つの建物と別館（東京千住アネックス）で構成されています。
ここでは主に、4つの建物の「教室部分」についてのみ、紹介します。

部屋番号の表現について

教室には「部屋名称」と「部屋番号」が与えられています。
建物ごとの特質に合わせて二つの値が使い分けられています。

名称	説明、構造について
部屋名称	例：1204 セミナー室 / 2504 教室 部屋毎の名称です。 「●●研究室」、「教員室●●」、「カフェラウンジ」、「体育館等」、「1204 セミナー室」等の名称がこれに相当します。 DENDAI-UNIPA 上で表示されるのはこちらの名称です。
部屋番号	例：10204 / 20504 部屋に通して振られている5桁の番号です。 東京千住キャンパスでは2号館を除き、部屋の入口やフロア配置図などに表示しています。1桁目＝建物番号、2桁目・3桁目＝階数、4桁目・5桁目＝同一フロア内の連番（その後にA、B等の枝番がある場合もあります）。 「10107」は1号館1階の7番目の部屋、 「11017B」は1号館10階17番目の部屋のうち、Bの部屋という意味です。

注意：部屋番号ではなく、部屋名称が表示されている場合があります。

「2301 教室」などの「教室」は4桁で表記されています。

この場合、左から1桁目＝建物番号、2桁目＝階、3桁目・4桁目＝同一フロア内の連番

実験室、実習室、ゼミ室、研究室、教員室や千葉ニュータウンキャンパスの教室等について

各号館・各フロアの壁面にあるフロア別案内図や事務部のホームページにて確認してください。

【工学部・未来科学部ホームページ】→【学生要覧】→【建物別フロア案内】の項にある各フロアのページを確認してください。

<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/index.html>

東京千住キャンパス配置図

【2号館】（教育棟）

10F 教室・学生ラウンジ
9F 教室
8F 教室
6F 教室
5F 教室
ルーフガーデン2
4F PC教室
3F 教室
講師室
工学部・未来科学部事務部
学生支援センター
国際センター
健康・学生相談室
学生ラウンジ
2F 総合メディアセンター
図書館
1F 受付
IRセンター
B1F 駐輪場

【3号館】 （厚生棟・学生会館・体育館）

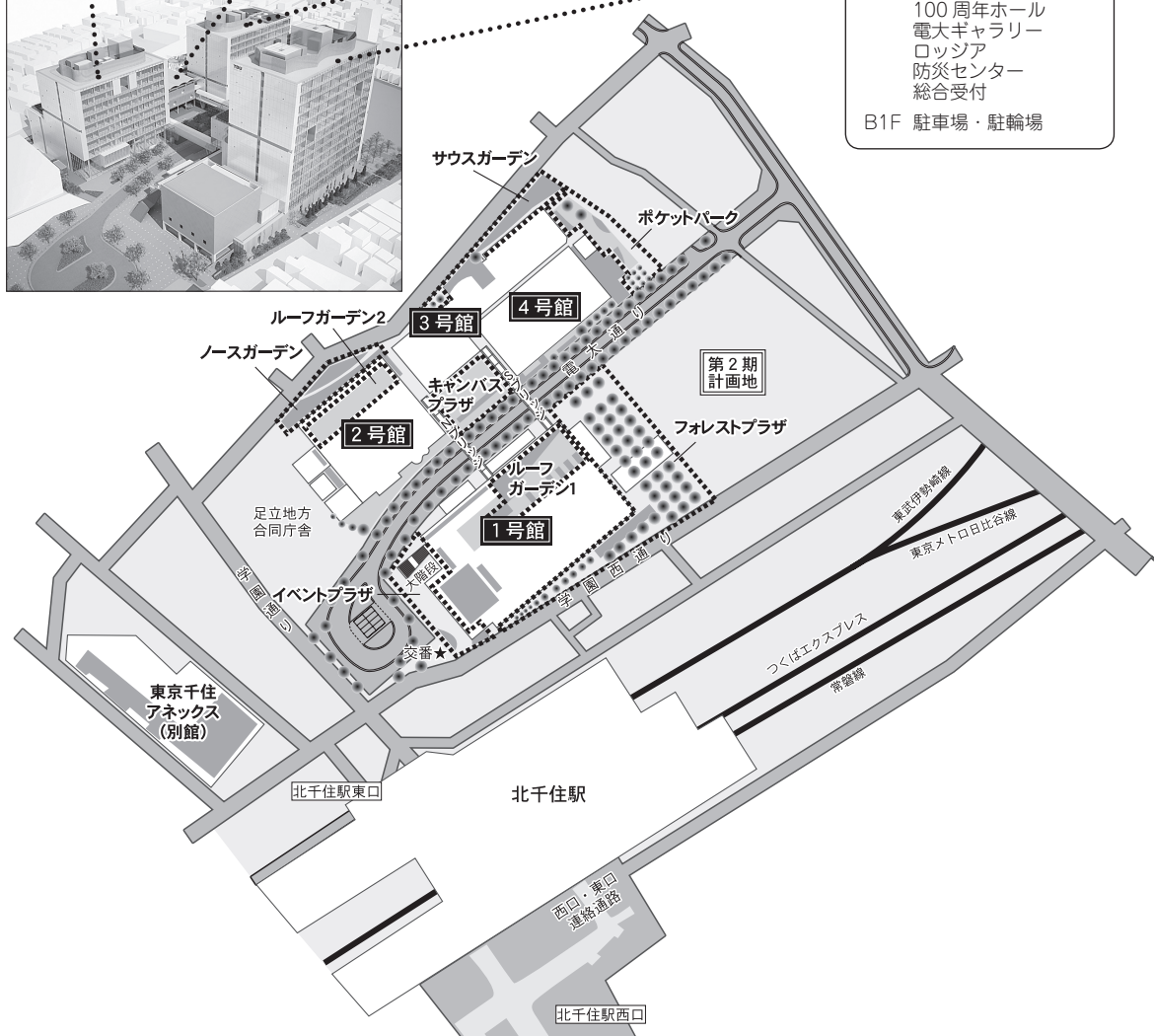
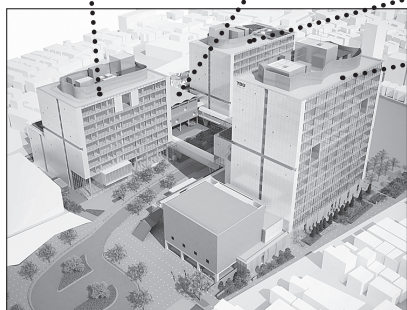
4F 学生部室
3F 学生部室
売店
学生ラウンジ
2F 体育館
トレーニング室
食堂
M2F 学生部室
食堂
1F 武道場
学生部室
カフェ

【4号館】（研究棟）

10F 教員室・研究室
9F 教員室
8F 教員室・研究室
6F 教員室・研究室
5F 実験室・実習室
4F 学習サポートセンター
教室
実験室・実習室
学生ラウンジ
2F 教室
実験室・実習室
学生ラウンジ
1F 実験室・実習室
受付

【1号館】（複合棟）

14F 教員室・研究室
セミナー室
13F 教員室・研究室
7F 教員室・研究室
6F 実験室・実習室
学生ラウンジ
ルーフガーデン
5F 実験室・実習室
法人本部
4F 実験室・実習室
セミナー室
入試センター
国際センター
大学本部
3F 実験室・実習室
ワークショップ教室
カシオホール
2F 丹羽ホール
セミナー室
校友会
1F 実験室・実習室
カフェ
100周年ホール
電大ギャラリー
ロッジア
防災センター
総合受付
B1F 駐車場・駐輪場



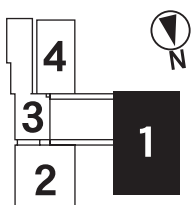
第4章

屋上ランニングコース		RF		3号館 (学生会館・体育館)		RF		屋上ランニングコース	
教室	教室	10F	教室	PC教室 総合メディアセンター	4F	学生部室 体育館5層	3号館(厚生棟)	教室	10F
教室	教室	9F	教室	教室 ラウンジ	3F	連絡通路	売店・ラウンジ	共通教育 (I,b) 設備スペース	10F
教室	教室	8F	教室	総合メディアセンター 図書館	2F	連絡通路	食堂	共通教育 (g,f) 共通教育 (g,f,b)	9F
教室	教室	7F	教室	総合メディアセンター 図書館	1F	キャンパス プラザ	中階 食堂 一階カフェラウンジ	研究室・教員室 研究室・教員室 (EE(EJ, EH) 共通教育 (b))	8F
教室	教室	6F	教室	IRセンター				研究室・教員室 研究室・教員室 (EE(EJ, EH), EC(EW), EE(EJ, EH), EC(EH))	7F
教室	教室	5F	教室					実験室・教員室 (ES)	6F
教室	教室							実験室・実習室 (EE (EJ, EH))	5F
教室	教室							実験室・実習室 (EE (EJ, EH))	4F
教室	教室							教室・実習室 ラボ・実習室 (ES+共化)	3F
教室	教室							教室 実習室 (ES,b 共化)	2F
教室	教室							実習室・実習室 (EM(EK, EF)) (EE(EJ, EH))	1F

工学部・未来科学部事務部、講師室、
学生支援センター（学生厚生担当、
キャリア支援 就職担当）、学生・健康
国際センター、掲示コーナー

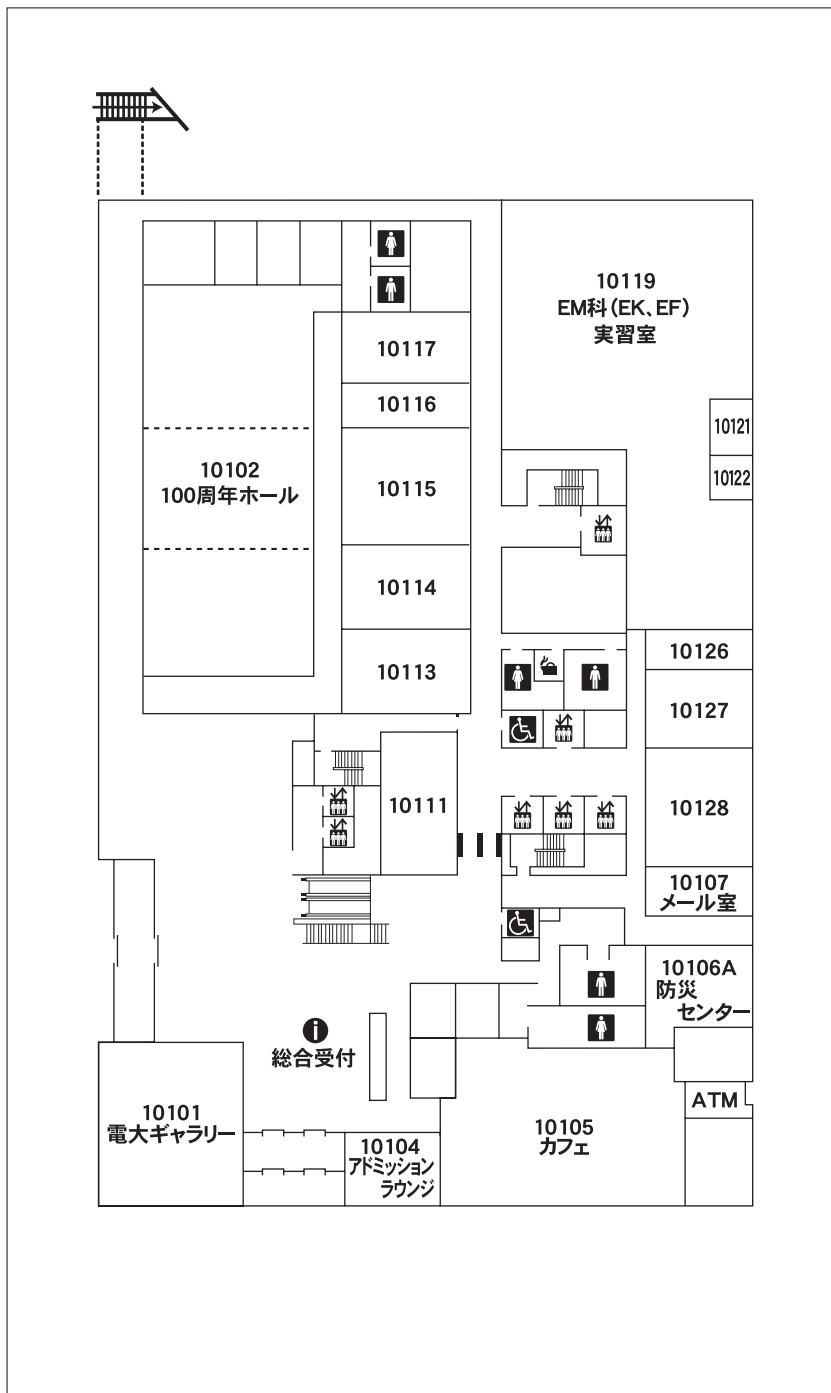
— 国際センター千住ラウンジ

【工学部】	【未来科学部】	【系列】
EE科 (EJコース/EHコース)	FA科	g 系列……人間科学系列
ES科	FI科	i 系列……英語系列
EM科 (EKコース/EFコース)	FR科	f 系列……数学系列
EC科		b 系列……物理系列



1号館 フロア案内

1階



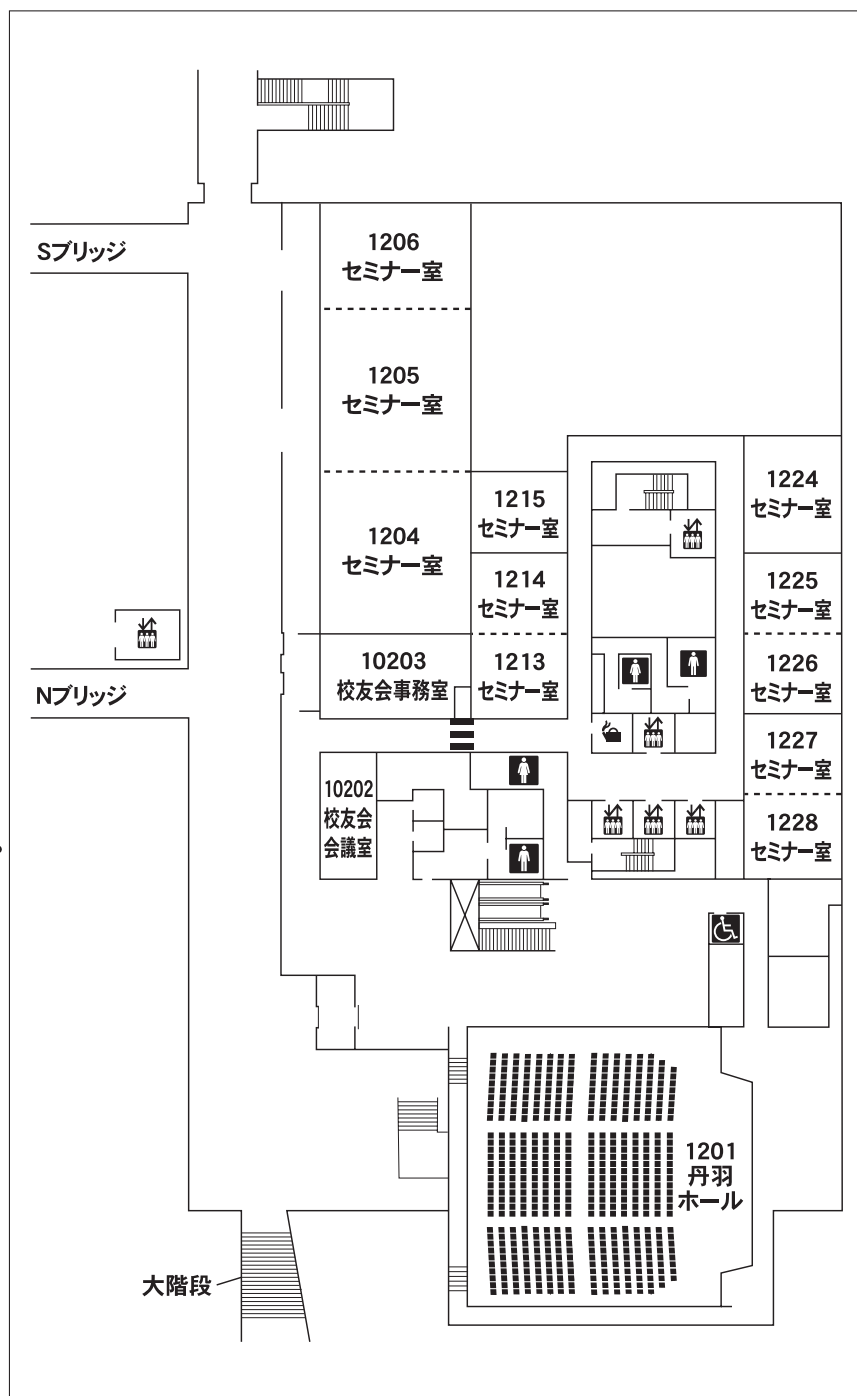
RF	
14F	
13F	
12F	
11F	
10F	
9F	
8F	
7F	
6F	ルーフガーデン1
5F	経理部（会計）
4F	国際センター 入試センター
3F	カシオホール・ 共用会議室 他
2F	デッキ 校友会 セミナー室
1F	交流施設 100周年ホール・カフェ
B1	

2 階

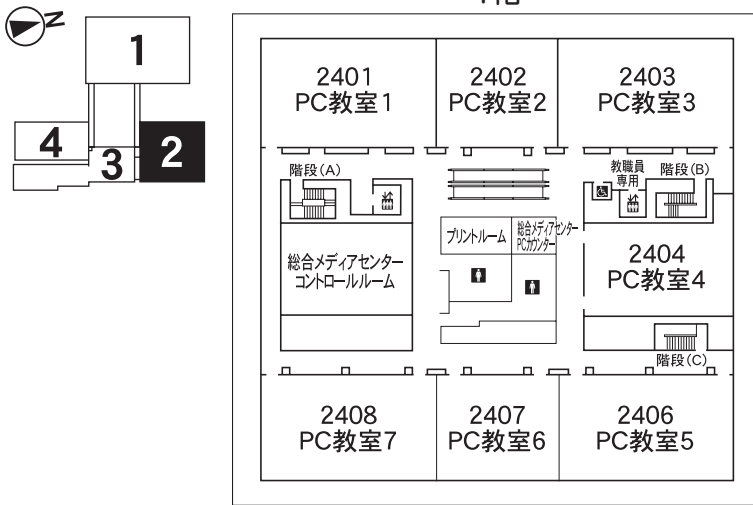
1号館

法人	教員室・研究室 (EC,FI,FR+未来共通)
	教員室・研究室 (EE (EJ, EH))
	教員室・研究室(EC)
	教員室・研究室(FI)
	教員室・研究室(FR)
	教員室・研究室 (EM (EK))
	教員室・研究室 (EM (EK, EF))
	教員室・研究室・実習室 (FA)
ラウンジ	教員室・研究室・実習室 (FA+未来共通)
	実験室・実習室(EC,FI)
	ゼミ室 実験室・実習室 (FI,FR)
	実験室・実習室 (EM(EK,EF),FR)
	メディア センター セミナー室
	実験室・実習室 (EM (EK, EF), EC)
駐車場他	駐輪場

国際センター千住ラウンジ

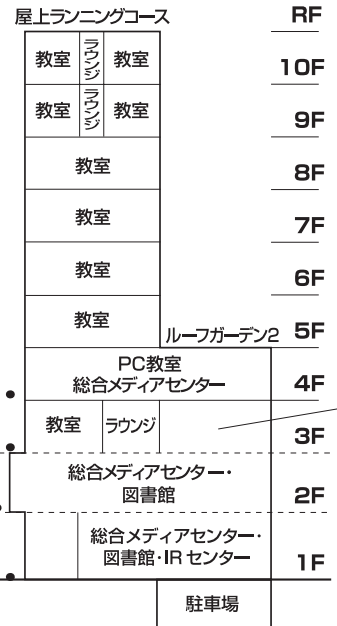


4階

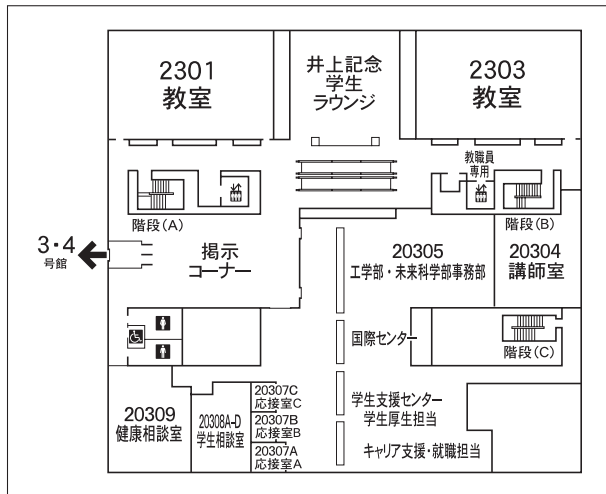


2号館 フロア案内

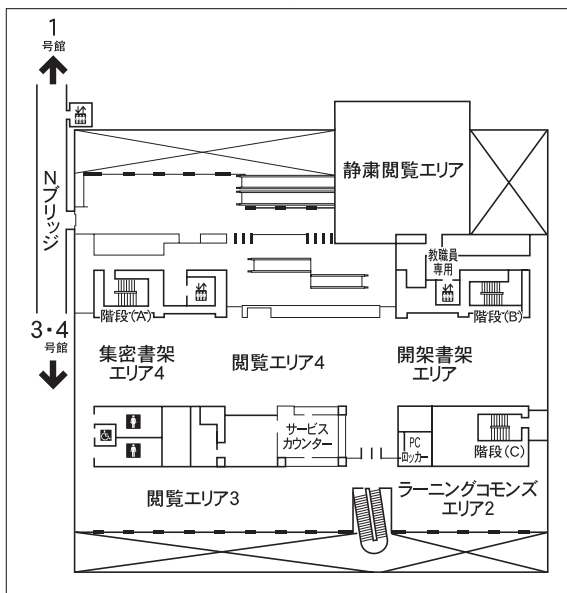
2号館



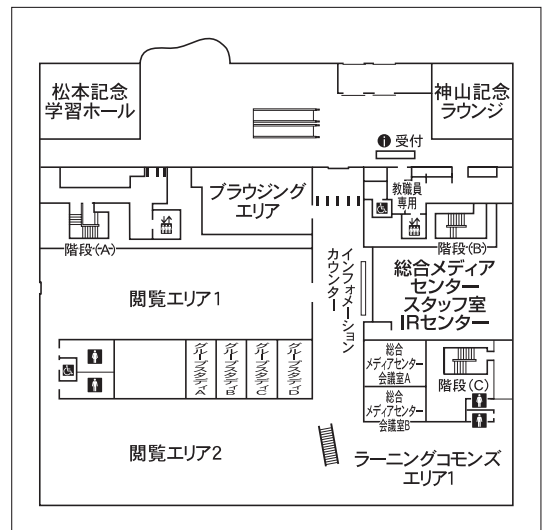
3階



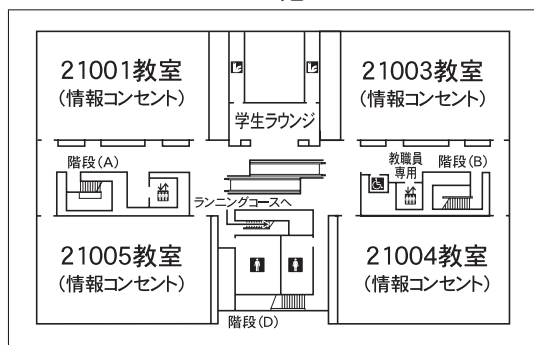
2階



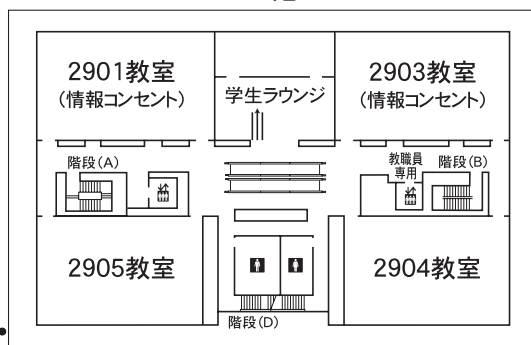
1階



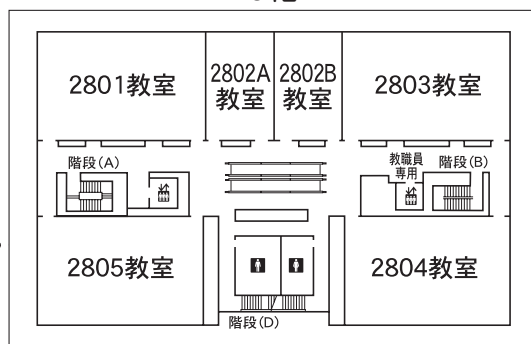
10階



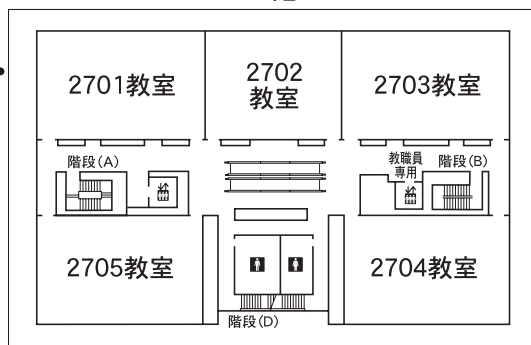
9階



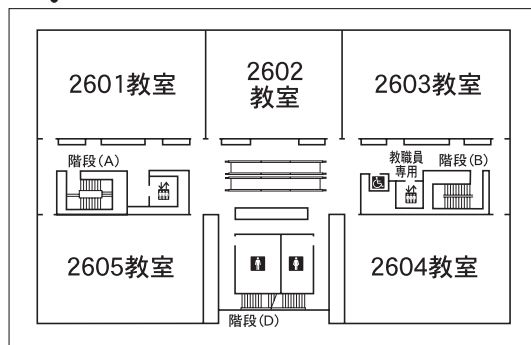
8階



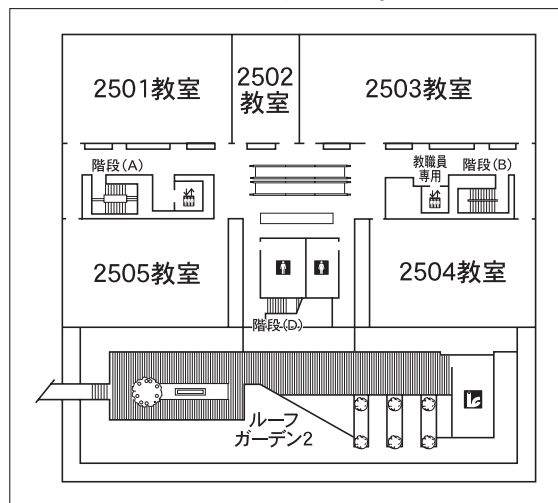
7階



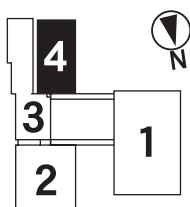
6階



5階

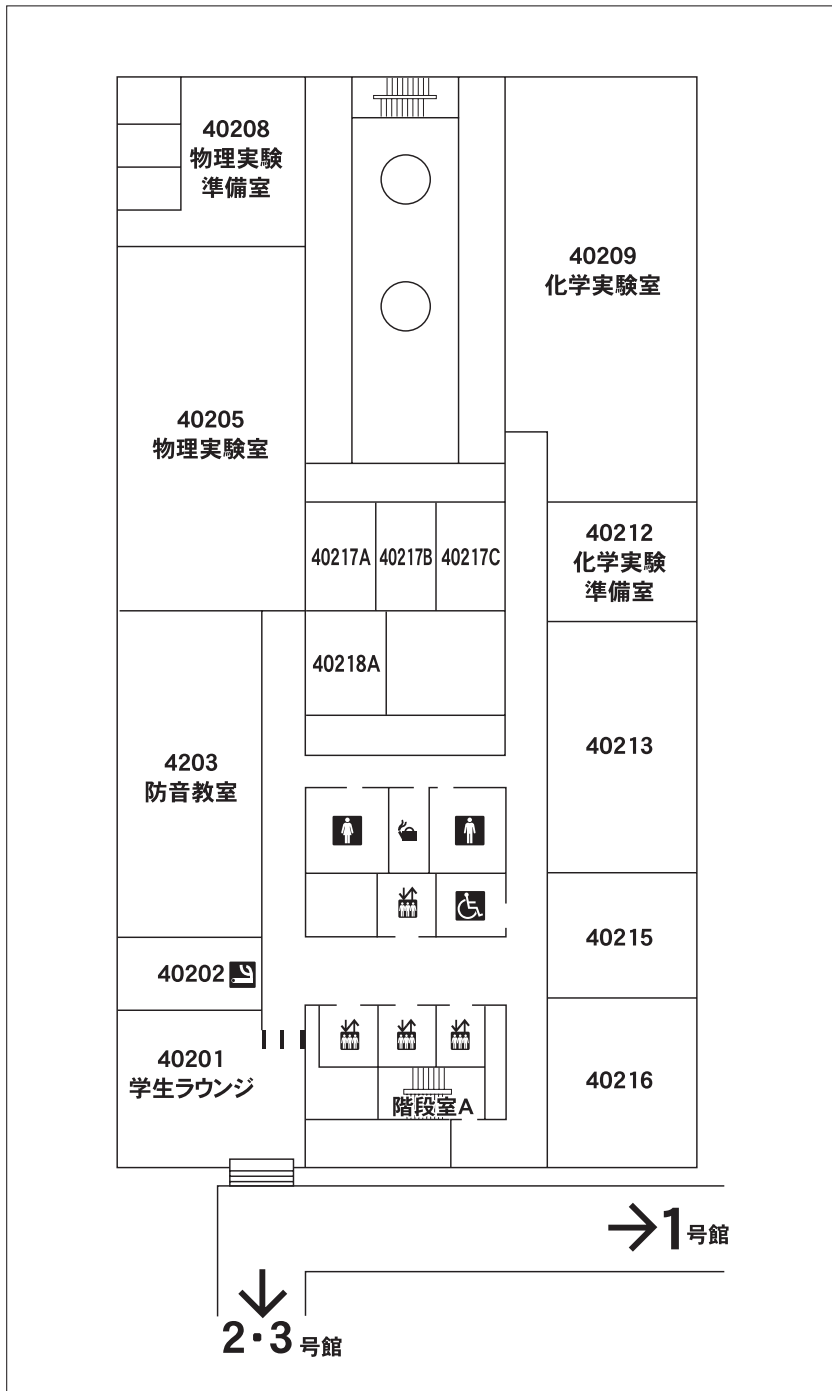


工学部・未来科学部事務部、講師室
学生支援センター（学生厚生担当）
学生支援センター（キャリア支援・就職担当）
学生相談室、健康相談室
国際センター、掲示コーナー



4号館 フロア案内

2階

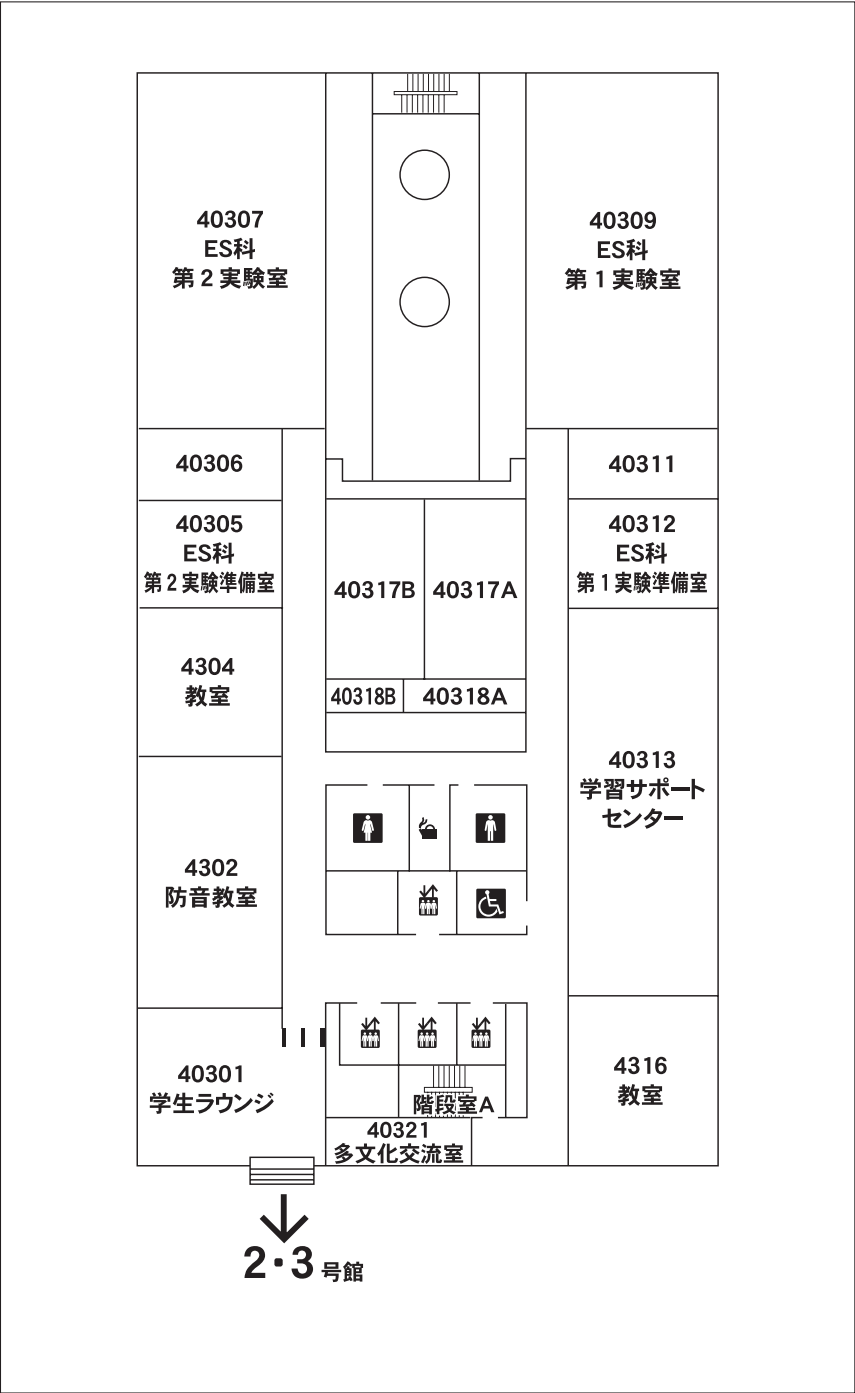


4号館

特殊設備ゾーン
(二点鎖線枠内)

	RF
共通教育 (l,b) 排気処理等設備設置スペース	10F
共通教育 (g,f) 共通教育 (g,f,b)	9F
研究室・教員室 (EE(EJ, EH)共通教育(b))	8F
研究室・教員室 (EE(EJ,EH),EC,EM) (EE(EJ,EH),EC,EM+b)	7F
研究室・教員室 (ES)	6F
実験室・実習室 (EE (EJ, EH))	5F
電気室 実験室・実習室 (EE (EJ, EH))	4F
教室・学習 サポートセンター (ES+共化)	3F
教室 実験室・実習室 (ES,b,共化)	2F
防音室 学生団体 実験室・実習室 (EM(EK,EF)) ((EE(EJ,EH))+ (EM(EK,EF),FA))	1F

3階



大学キャンパス等所在地

東京千住キャンパス

〔大学（工学部、工学部第二部、未来科学部）・大学院（工学研究科、未来科学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

工学部・未来科学部事務部	03-5284-5333
学生支援センター（学生厚生担当）	03-5284-5340
学生支援センター（キャリア支援・就職担当）	03-5284-5344
総合メディアセンター（図書）	03-5284-5377
総合メディアセンター（コンピュータ）	03-5284-5372
経理部（会計担当）	03-5284-5131

千葉ニュータウンキャンパス

〔大学（情報環境学部）・大学院（情報環境学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒270-1382 千葉県印西市武西学園台2-1200

TEL：0476-46-4111

埼玉鳩山キャンパス

〔大学（理工学部）・大学院（理工学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂

TEL：049-296-0042

本冊子は新入生のみに配布されます。
修了するまで大切に取扱ってください。
また、年度毎に変更がある場合は別途
お知らせします。



TDU